鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書　第４集

鹿児島大学構内遺跡
郡元団地Ｑ－４区

平成７年度教育学部附属幼稚園舎建設工事に伴う発掘調査

２００９年３月

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

西区北壁層位断面

東区北壁層位断面

SK11　床面検出状況

SK4　完掘状況

序　　文

鹿児島大学構内遺跡郡元団地は、弥生時代から古墳時代まで続く水田稲作農耕を営む集落であり、その資料を中心として縄文時代から現代までの多くの埋蔵文化財を包蔵している遺跡です。本書は、平成７年に実施した鹿児島大学構内遺跡郡元団地Q−４区の発掘調査の成果報告書です。

本書で報告している調査では、縄文時代〜近代の埋蔵文化財が確認され、近中世の耕作に関係する遺構、古墳時代〜古代の溝跡や住居跡が検出されました。

本遺跡は弥生時代から古墳時代の埋蔵文化財が多く確認されますが、その範囲はキャンパス全域に及んでいます。これだけ広い範囲の調査が可能な遺跡は少なく、その点でも良好な資料を提供できる遺跡となっております。本書はそれに詳細な資料が追加されたものと思います。

これからも迅速に、かつ充実した調査成果を提供できるよう努力していきますので、関係の皆様のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成21年３月

鹿児島大学埋蔵文化財調査室長　新田栄治

例　　言

1．本報告書は、鹿児島大学構内遺跡郡元団地において、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が1995（平成７）年度に行なった教育学部附属幼稚園舎建設工事に伴う発掘調査成果をまとめたものである。

2．調査時における図面･写真の担当は以下の通りである。

大西智和・古澤生・中村直子・峰山いずみ・池口洋人・新原和子

3．本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査室が行なった。担当者は以下の通りである。

遺物実測　中村・篠原美智子・福永美代子・寒川朋枝
写真　中村
製図　中村・濵田綾子・寒川
作表　中村・寒川
執筆　中村・大西
編集　中村・新里貴之・寒川

4．本書掲載の陶磁器については渡辺芳郎氏（鹿児島大学法文学部）のご教授をいただいた。

5．本書で報告している遺物の保管は、埋蔵文化財調査室の管理のもと、教育学部に収蔵している。また、図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

凡　　例

1．1985年６月１日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査に便であるように、鹿児島大学構内座標を郡元団地に設定した。 郡元団地では、国土座標第2座標系（X=－158,200, Y=－42,400）を基点として一辺50mの方形地区割りを行なった（Fig. ２参照)。

2．本書で使用した遺構の表示記号は、以下の通りである。
　SK：土壙　SD：溝状遺構　P：ピット

3．土層の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。

4．遺物に関しては観察表を作成した。その標記、表現については以下の通りである。
色調：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「～に類似」と表記した。
胎土：砂粒の種類については、特定できないものは、その色調で表記した。胎土中の砂粒の多さについては、便宜的に１～６の６段階に分けた。６：20% 以上、５：15 ～ 20%、４：10 ～ 15%、３：５～ 10% 未満、２：１ ～５% 未満１：１% 以下、とした。

5．本文中の遺物番号は、挿図、図版、遺物観察表と一致している。

本　文　目　次

1　遺跡の位置と環境　1
2　調査にいたる経過　1
3　調査の期間と体制　1
4　調査の経過　4
5　層位　4
6　遺構と遺構出土遺物　7
　6.1　2b層上面検出遺構　7
　6.2　４層上面検出遺構　10
　6.3　５層上面検出遺構　17
7　包含層出土遺物　27
8　まとめ　60

挿　図　目　次

Fig.1　遺跡の位置　2
Fig.2　鹿児島大学構内遺跡郡元団地の遺構配置状況と調査地点　3
Fig.3　２層上面検出状況　4
Fig.4　北壁層位断面図　5
Fig.5　西壁層位断面図　6
Fig.6　2b層上面遺構検出状況　7
Fig.7　SK1・SD6・SD7と出土遺物　8
Fig.8　４層上面検出遺構　10
Fig.9　SK2・SD１～４と出土遺物　11
Fig.10　SD10・11・14～16　12
Fig.11　SK6・7・SD12・13　13
Fig.12　SK8～10・SD17・18　14
Fig.13　５層上面検出遺構　18
Fig.14　SK４（住居跡）　18
Fig.15　SK11（住居跡）と出土遺物　19
Fig.16　SK13（住居跡）と出土遺物　20
Fig.17　SK13出土遺物　21
Fig.18　SK14平面図・断面図・遺物出土状況　22
Fig.19　SK14出土遺物　23
Fig.20　SK5・12・15～17　25
Fig.21　SD19　26
Fig.22　SD20　26
Fig.23　５層上面ピット検出状況（1）　28
Fig.24　５層上面ピット検出状況（2）　29

Fig.25　杭列１平面・断面図　30
Fig.26　杭列２平面・断面図　30
Fig.27　表土出土遺物　38
Fig.28　2a層出土遺物　39
Fig.29　2b層出土遺物（1）　40
Fig.30　2b層出土遺物（2）　41
Fig.31　３層出土遺物　42
Fig.32　3b層出土遺物　43
Fig.33　4a層出土遺物　43
Fig.34　4b層出土遺物　44
Fig.35　周辺の発掘調査を含めた遺構配置　62

表　目　次

Tab.1　遺物観察表（1）　51
Tab.2　遺物観察表（2）　52
Tab.3　遺物観察表（3）　53
Tab.4　遺物観察表（4）　54
Tab.5　遺物観察表（5）　55
Tab.6　遺物観察表（6）　55
Tab.7　遺物出土状況一覧（1）　56
Tab.8　遺物出土状況一覧（2）　58

図　版　目　次

PL.1　表土～２層上面検出遺構と出土遺物　9
PL.2　４層上面検出遺構（1）　14
PL.3　４層上面検出遺構（2）　15
PL.4　４層上面検出遺構（3）と出土遺物　16
PL.5　５層上面検出遺構（1）　31
PL.6　５層上面検出遺構（2）　32
PL.7　５層上面検出遺構（3）　33
PL.8　５層上面検出遺構（4）　34
PL.9　５層上面検出遺構（5）　35
PL.10　５層上面検出遺構出土遺物（1）　36
PL.11　５層上面検出遺構出土遺物（2）　37
PL.12　表土・2a層出土遺物　45
PL.13　2b層出土遺物　46
PL.14　３層出土遺物　47
PL.15　3b層出土遺物　48
PL.16　4a層出土遺物　49
PL.17　4b層出土遺物　50

報告書抄録

ふりがな	かごしまだいがくこうないいせきこおりもとだんち　きゅうよんく
シリーズ名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書　第４集
書名	鹿児島大学構内遺跡郡元団地 Q-4 区
編著者	中村直子・大西智和・新里貴之・寒川朋枝
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒 890-8580　鹿児島市郡元一丁目 21 番 24 号 TEL　099-285-7270　Fax　099-285-7271
発行年月日	2009 年 3 月

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査起因
		市町村	遺跡番号					
鹿児島大学構内遺跡郡元団地 Q-4 区	鹿児島市郡元一丁目20番15号	4620	1-23-0	31° 34′ 11″	130° 32′ 48″	1995 年 7 月21日～10月28日	790	校舎建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鹿児島大学構内遺跡郡元団地 Q-4 区		近世～近代	溝状遺構，耕作痕	陶器，磁器，ガラス製品，青磁，瓦器，土師器，須恵器，成川式土器，弥生土器，縄文土器，泥面子，土錘，砥石，石斧，フイゴ口，古銭	
		古墳時代	住居跡，溝状遺構，土坑		

1　遺跡の位置と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は、薩摩半島の北東部に位置する（Fig. 1）。東側には鹿児島湾（錦江湾）が広がり、他の三方は姶良カルデラに由来するシラス台地に囲まれている。

鹿児島大学構内遺跡は、郡元団地と桜ヶ丘団地があり、それぞれ鹿児島大学構内遺跡郡元団地、同桜ヶ丘団地と呼称している。郡元団地は沖積平野部の自然堤防帯に立地し、現在の標高は約７ｍである。古くから遺跡が存在することが認識されており[1)]、郡元団地内の過去の発掘調査は46回に及ぶ。昭和59年までは字名などで遺跡を呼称しており、県立医大遺跡・附属中学校敷地内遺跡・釘田遺跡・水町遺跡も郡元団地内の遺跡である。本遺跡の南隣接地には、弥生時代中期の住居跡が検出された一之宮遺跡などがある。

郡元団地では、弥生時代から古墳時代の埋蔵文化財が多く確認されているが、特に古墳時代の竪穴住居跡が多い。住居跡やピット、溝状遺構を手がかりにすると、現在５か所の居住域が確認でき、いずれも微高地上に立地している（Fig. 2）。また、郡元団地中央部を東西に横断する河川跡が確認されている。その埋土中からは、弥生時代から古墳時代の木製品や木杭などが出土している。河川跡より南側では弥生時代の水田跡が自然堤防帯の緩傾斜地で確認されている。

古墳時代の住居跡群の上には、古代から近代までの水田跡や畑地跡が連続的に発見される場合が多く、この地に居住していたのは古墳時代までで、古代以降は連続的に農耕が行われてたと推定される。

註

1）河口貞徳　1969「弥生時代」『鹿児島市史』Ⅰ　鹿児島市史編さん委員会　58-75頁

2　調査にいたる経過

鹿児島大学では、教育学部附属幼稚園の園舎を建て替えることになり、旧園舎から教育学部記念会館の範囲が建設地とされた。その計画を受けて埋蔵文化財調査室では、平成７年５月30日から６月13日にかけて試掘調査を行った。その結果、溝状遺構やピット状遺構、近世～古墳時代にかけての遺物が確認されたため、本地点の発掘調査を行うことになった。

3　調査の期間と体制

調査面積：790㎡

調査期間：平成７年７月21日～10月28日

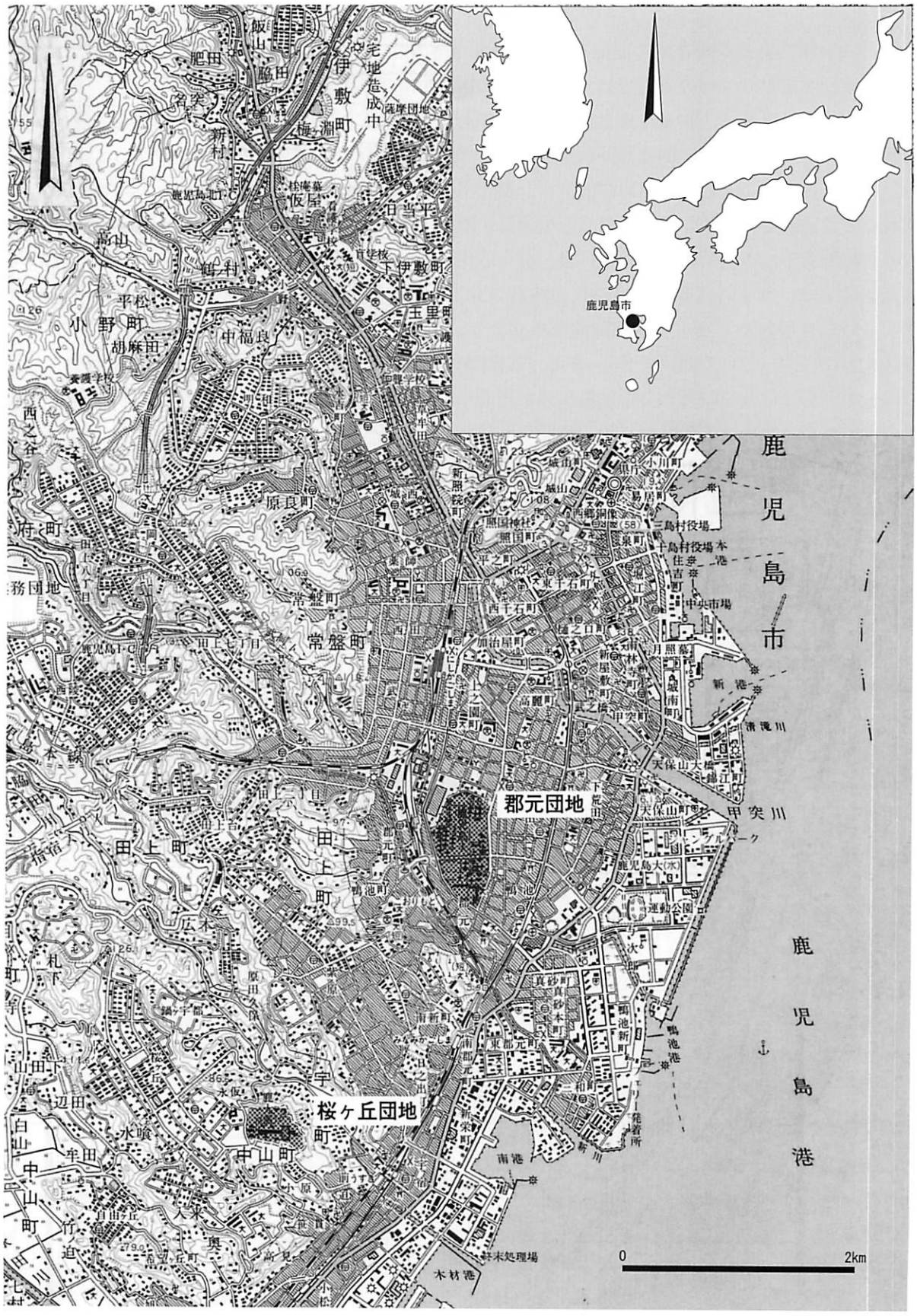
調査体制

調査主体者　鹿児島大学埋蔵文化財調査室　室長　上村俊雄

調査担当　鹿児島大学埋蔵文化財調査室　大西智和・古澤生・中村直子・峰山いずみ

発掘調査作業員　岩戸エミ子・岩戸トシ子・岩戸ミツ子・末吉ナミ・末吉ミヤ・末吉サチ子・柳田キミ子・柳田二三子・名越ヒデ子・盛満アイ子・坂口ミエ子・袰谷ミエ子・福永シノブ・福永花江・野下ヨシエ・脇ツルエ・石谷トキエ・新海ミチ子・野下カズ子・野下チリ子・横山アヤ子・寺光ミツ子・安倍松伊都子・上床久美子・松下ミチ・谷口ノリ子・請園チリ・請園アキエ・増満ミエ子・西村チエ子・松下郁美・岩戸トミ子・柳元照子・西村キミ子・西庄司・新原和子・矢住純子・吉永幸子・上原文代・瀬戸口諭・臼田和吉・池口洋人

調査補助員　藤田紀子・松村恵子・平田裕一・鮫島暁子



国土地理院発行の５万分の１地形図（鹿児島）より

Fig. 1　遺跡の位置　S=1/50000

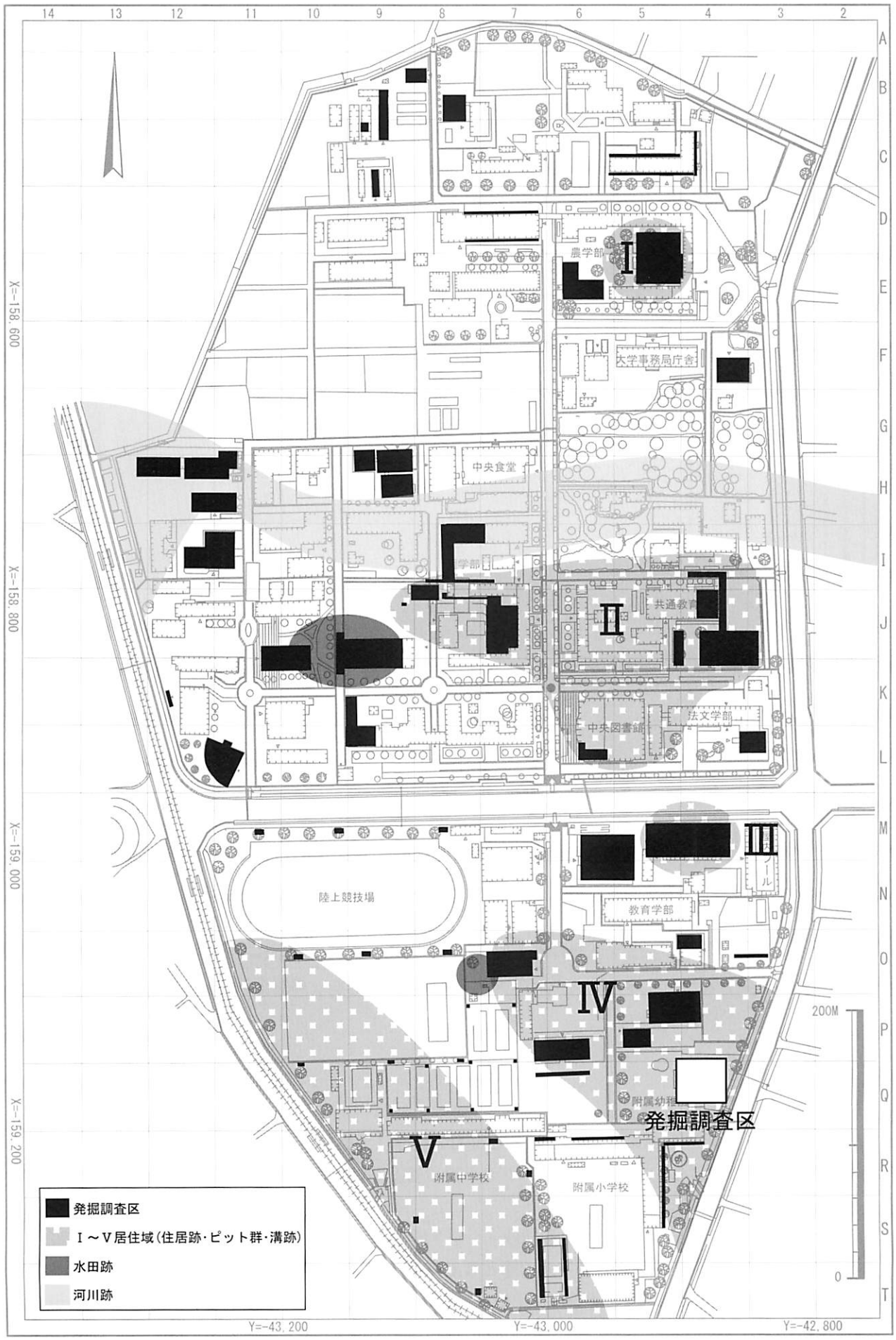


Fig. 2　鹿児島大学構内遺跡郡元団地の遺構配置状況と調査地点　S=1/4000

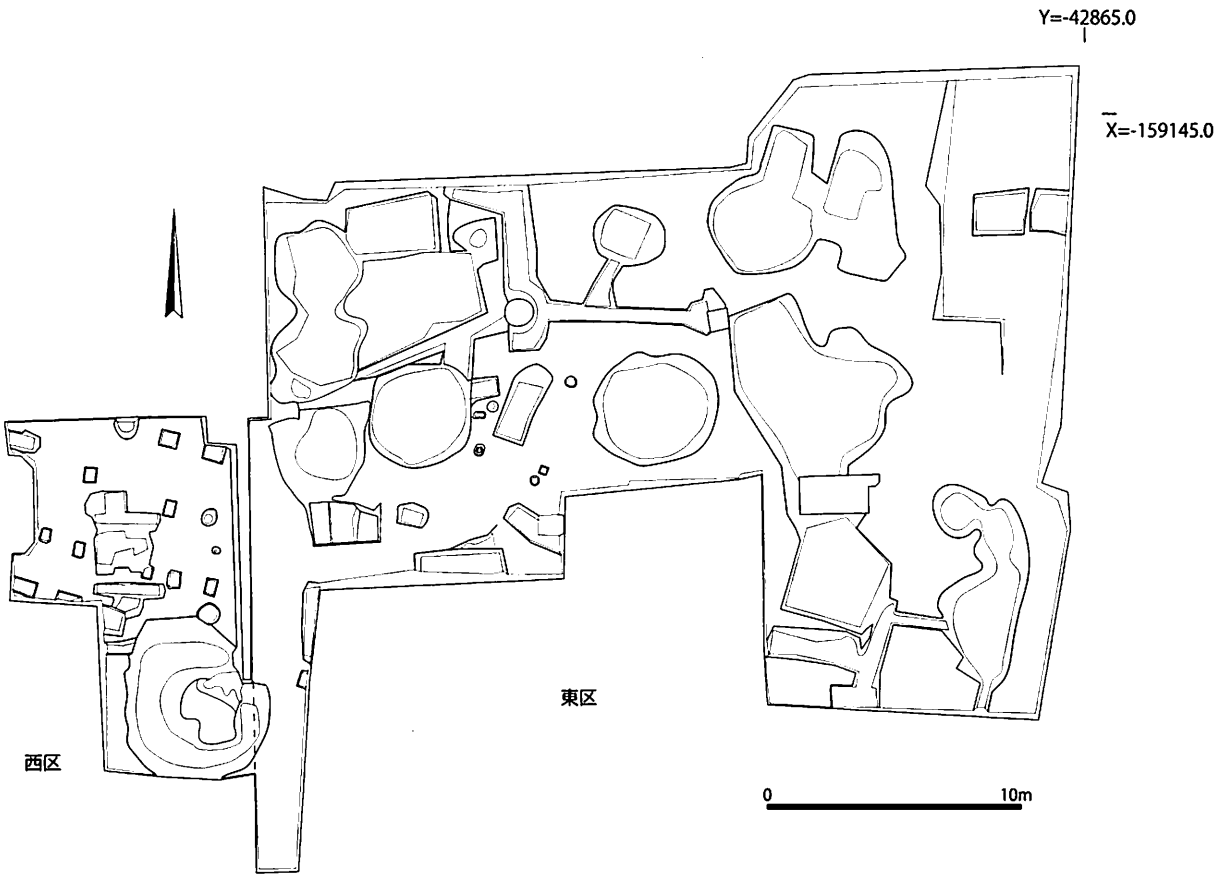


Fig. 3　２層上面検出状況　S=1/300

4　調査の経過

調査は工事の工程上、旧幼稚園舎側から先行して実施する必要があったため、西区から調査を行った。西区の調査終了後、教育学部記念会館周囲の調査を行い、この区を東区とした。

本地点の調査では住居跡・溝状遺構・土壙・ピットを検出した。土壙・溝状遺構は各層から検出されたが、ピットと住居跡のほとんどが５層砂層上面で検出された。掘削は試掘によって遺物の包含が確認されている５層上面まで行った。各遺構の実測図・土層断面図を作成し、調査を終了した。

5　層位

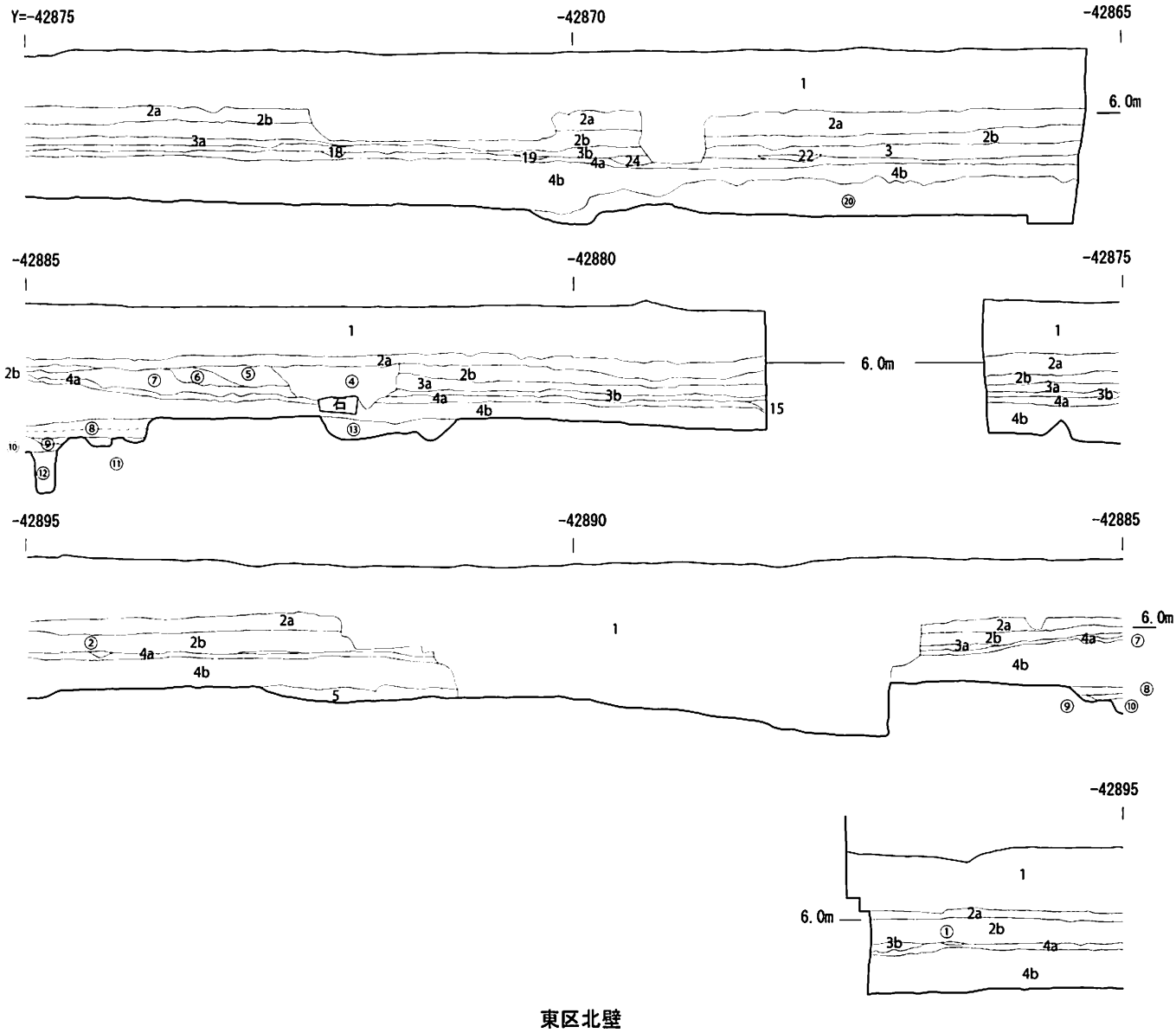
基本土層として、１～５層を確認した。

１層　表土や客土層。カクラン土壙などを1層とした。厚さは平均50cmほどである。

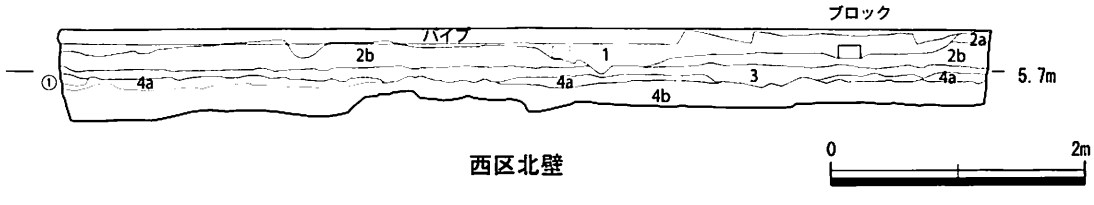
2a層　暗灰黄色（2.5Y4/2）を呈する細砂～シルト質土層。粘性をやや帯びており、５mm大程度までのパミスを含む。水田層と考えられる。

2b層　オリーブ褐色（2.5Y4/3）を呈する細砂～シルト質土層。粘性をやや帯び、１cm大程度までのパミス、２～３mm大の黄色粒子を含む。水田層と考えられる。

3a層　にぶい黄褐色（10YR5/4・10YR5/3）を呈するシルト質土層。粘性をやや帯びており、１cm大程度までのパミスを含む。



東区北壁



西区北壁

①（西区） 10YR4/3（にぶい黄褐色）を呈するシルト層。粘性あり。5mm大のパミス（黄色粒子）を含む。

①（東区） 7.5YR4/4（褐色）シルト層。粘性わずかに帯びる。2～3mm大のパミス（黄色粒子）含む。

② 7.5YR4/4（褐色）を呈するシルト層。粘性わずかに帯びる。2～3m大のパミス（黄色粒子）含む。

③ 7.5YR4/4（褐色）を呈するシルト層。粘性わずかに帯びる。5mm大のパミス（黄色粒子）含む。

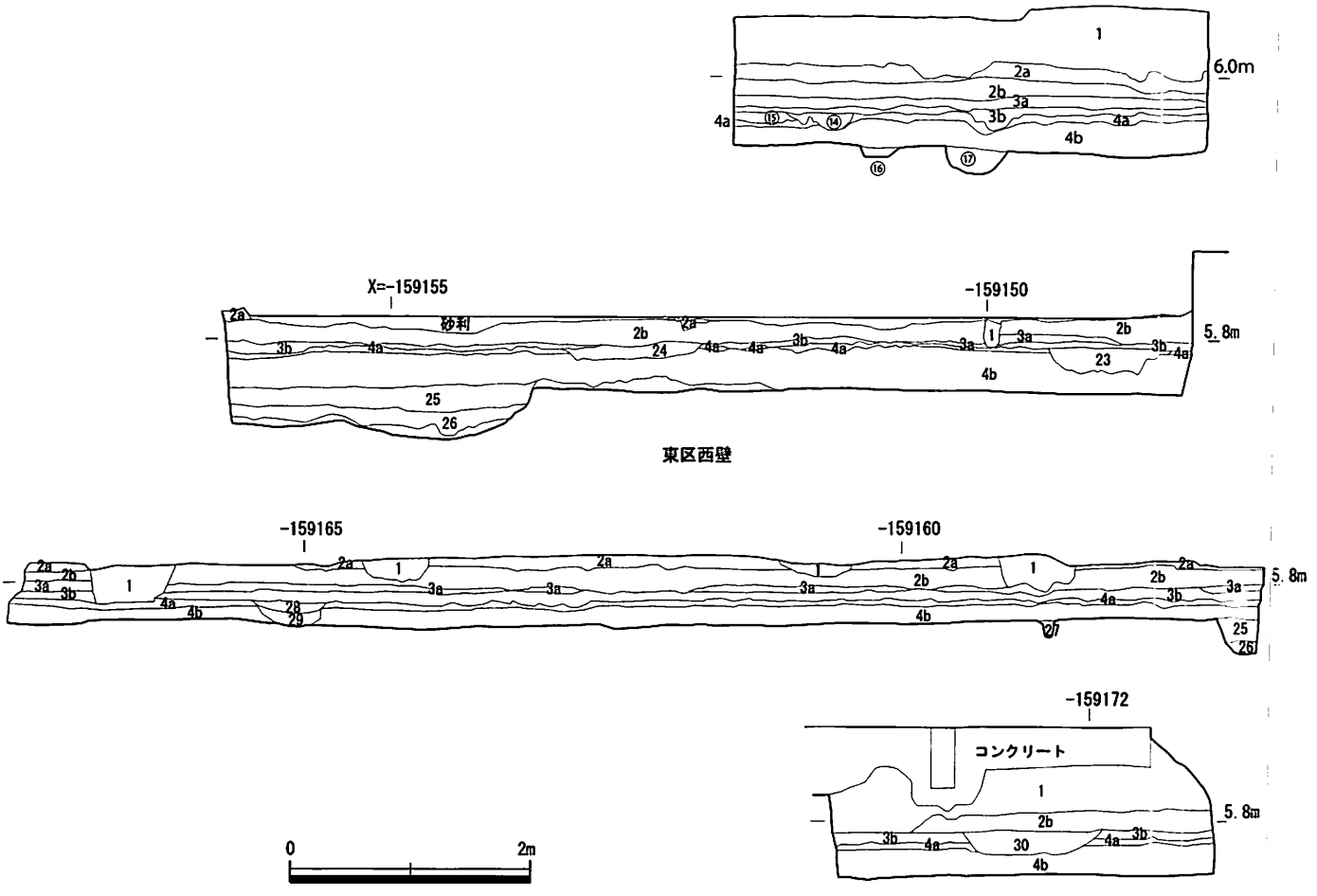
④ 10YR6/2（灰黄褐色）、5YR4/4（にぶい赤褐色）などを呈する細砂～シルト層。SD6の埋土。粘性をわずかに帯びる。色調は一定していない。部分的に4層土をブロックで含む。

⑤ 10YR5/3（にぶい黄褐色）・5YR4/4（にぶい赤褐色）などを呈する細砂～シルト層。3cm大程度までのパミス含む。SD7の埋土。

⑥ 10YR7/3（にぶい黄橙色）・5YR4/8（赤褐色）などを呈する粗砂～細砂層。特に下部に粗砂が多く見られる。

⑦ 10YR6/2（灰黄褐色）・7.5YR4/4（褐色）などを呈する細砂～シルト層。粘性をわずかに帯びる。1cm大程度までのパミスを含む。

Fig. 4　北壁層位断面図　S=1/60



⑧ SK11①層に同じ。

⑨ SK11②層に同じ。やや砂っぽい。

⑩ 10YR4/3（にぶい黄褐色）・10YR3/2（黒褐色）を呈する粗砂～シルト層。粗砂が主である。

⑪ ⑧層と粗砂（5層）の混土。

⑫ 7.5YR2/2（黒褐色）を呈する粗砂シルト層。粘性なし。

⑬ SD20埋土に同じ。

⑭ 10YR5/4（にぶい黄褐色）を呈するシルト層。粘性わずかに帯びる。5mm大程度までのパミス含む。4層土をブロックで含む。

⑮ 10YR6/8（明黄褐色）を呈するシルト層。2、3mm大もしくはまれに3cm大のパミス含む。SK16の埋土。

⑯ 4b層と同じ。やや砂っぽい。

⑰ SD19埋土①層に同じ。

⑱ 10YR5/2（灰黄褐色）を呈するシルト層。2、3mm大もしくは1cm大のパミス含む。

⑲ 7.5YR4/6（褐色）を呈するシルト層。粘性ややあり。2、3mm大のパミス含む。

⑳ 7.5YR3/2（黒褐色）を呈するシルト層。1cm大のパミス少量含む。

㉑ 4a層土と3層土の混土。2、3mm程度のパミスを多く含む。粘性ややあり。

㉒ 10YR5/3（にぶい黄褐色）・10YR4/2（灰黄褐色）を呈する。粘性ややあり。1cm大程度までのパミスを含む。

㉓ SK10の埋土。10YR4/3（暗褐色）・10YR7/3（にぶい黄橙色）・7.5YR4/6（褐色）・10YR3/2（黒褐色）などを呈するシルト層。粘性はほとんどない。

㉔ SD18の埋土。7.5YR4/4（褐色）・7.5YR5/3（にぶい黄褐色）を呈するシルト層。粘性をわずかに帯びる。5mm大程度までのパミス、2、3mm大の黄褐色粒子含む。4層土をブロック状に含む。

㉕ SK14①の埋土

㉖ SK14②の埋土

㉗ 4b層に同じ。

㉘ 5YR4/6（赤褐色）を呈するシルト層。粘性をわずかに帯びる。5mm大程度までのパミス、2、3mm大の黄褐色粒子含む。

㉙ 5YR3/6（暗赤褐色）を呈するシルト層。粘性をわずかに帯びる。5mm大程度までのパミス、黄褐色粒子含む。

㉚ SK1-1層に同じ。

Fig. 5　西壁層位断面図　S=1/60

3b層　褐色（10YR4/4）を呈するシルト質土層。粘性をやや帯びており、１cm大程度までのパミスや黄褐色（10YR5/8）粒子を含む。
4a層　暗褐色（7.5ＹＲ3/4）を呈するシルト質土層。粘性を帯びており、非常に硬い。１cm大のパミスをわずかに含む。
4b層　黒色（10ＹＲ1.7/1）を呈するシルト質土層。粘性はほとんどない。地点によっては黒褐色（7.5ＹＲ3/2）を呈する。２～３cm大までのパミスを含む。
５層　粗砂層でパミスを多く含む。この層以下は無遺物層である。

6　遺構と遺構出土遺物

遺構は2b層上面、4a層もしくは４層上面、５層上面で検出した。以下、検出面ごとに説明する。

6.1　2b層上面検出遺構（Fig. 6）

土壙１基、溝状遺構２条が検出されている。いずれも2a層除去後、検出された。

SK1（Fig. 7）

西区東区の南西角に位置する。平面形は長さ1.78m、幅9.8cmの隅丸方形を呈する。長軸は北西－南東方向である。検出面から底部までは約10cmで、断面は台形状である。埋土は暗褐色（7.5YR3/4）・暗赤褐色（5YR3/4）・褐色（7.5YR4/4）など混在するシルト質土である。埋土中より土器片が１点出土している。

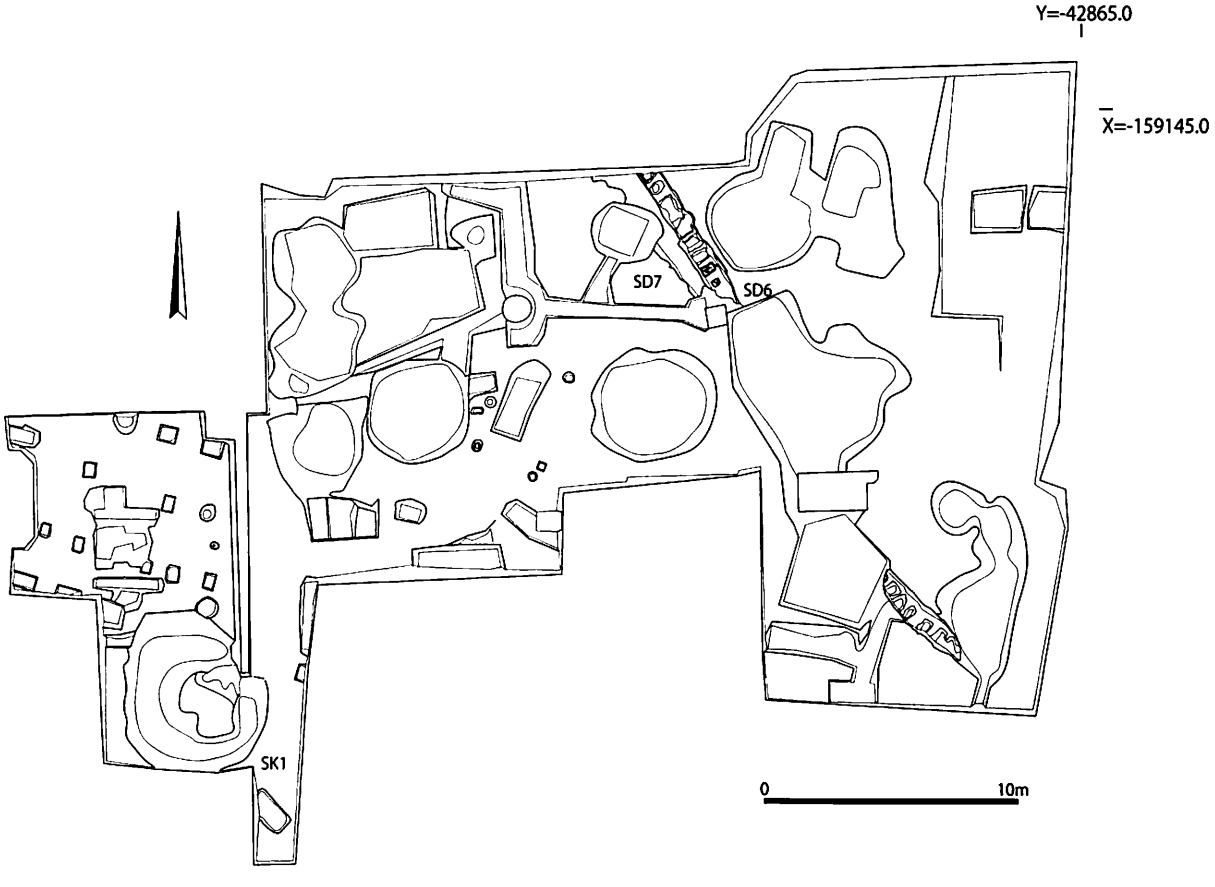


Fig. 6　2b 層上面遺構検出状況　S=1/300

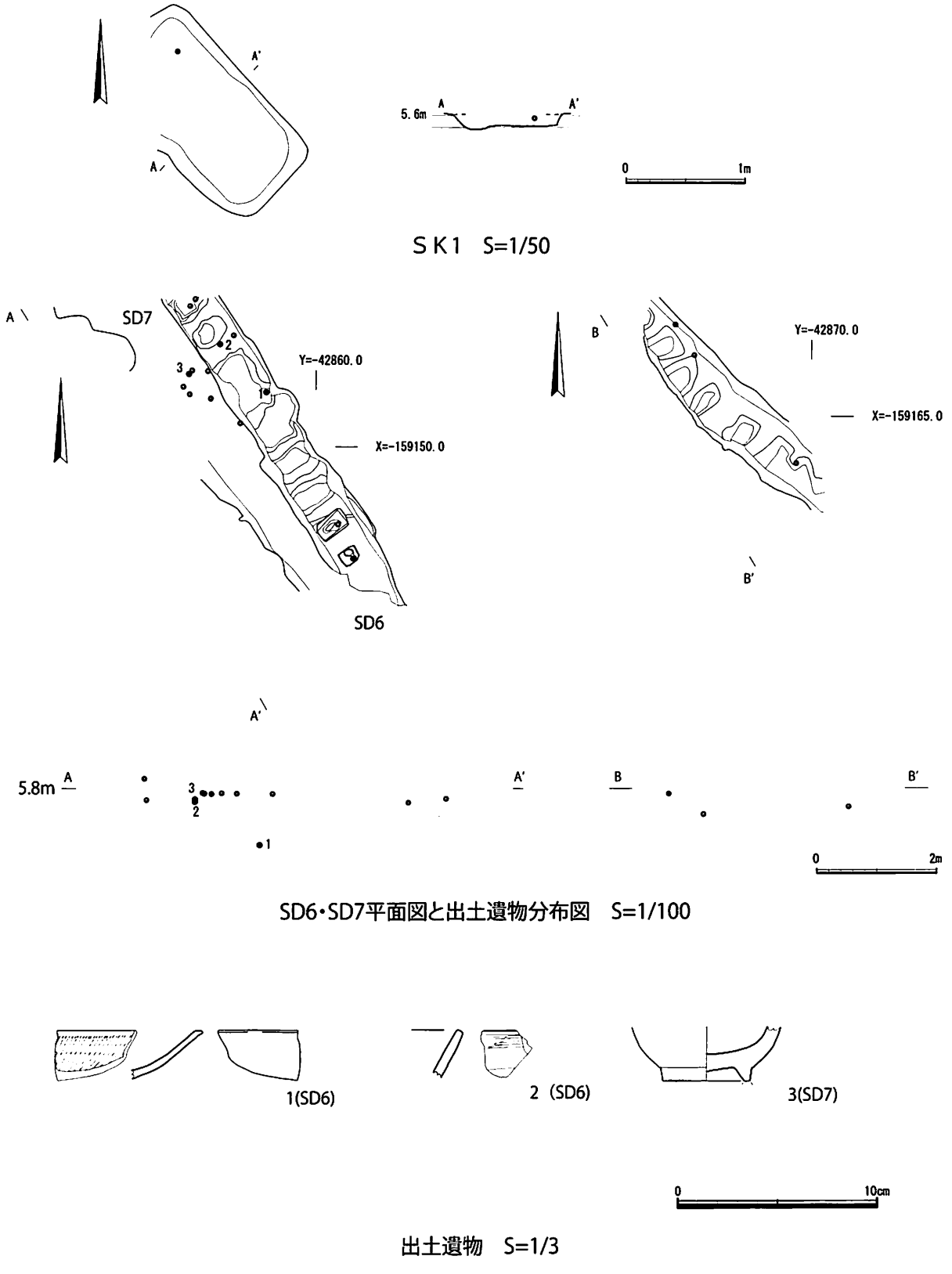


Fig. 7 SK1・SD6・SD7と出土遺物

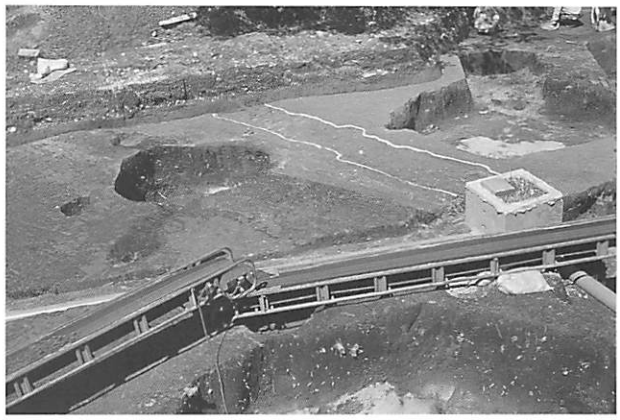
SD6 (Fig. 7)

東区の東側に位置する。カクランによって掘削を受けており、北側と南側に分断されているが、軸が一致することや形が類似していることから、同一の遺構として扱った。幅約1m、深さ40cmを測り、断面は台形状である。底面には幅50cmの落ち込みが連続しており、その落ち込み中に凝灰岩の角礫を設置し

1　表土はぎ後

2　西区２層上面検出状況

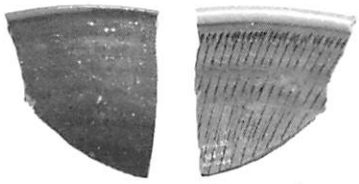
3　東区２層上面検出状況



4　SD ６検出状況

5　SD ６完掘状況

6　SD ６底面の石



1

2

3

PL. １　表土～２層上面検出遺構と出土遺物

ているものもある。埋土は、10YR6/2灰黄褐色、5YR4/4にぶい赤褐色などを呈する細砂～シルト層で粘性をわずかに帯びる。色調は一定していない。部分的に4層土をブロックで含む。

出土遺物

遺物が10点出土しているが、ほとんど埋土中ほどから出土しており、小片が多い。周辺からの流れ込みであろうと考えられる。１は陶器皿の口縁部で、龍門司焼である。２は外面に赤色顔料を施された口縁部である。高杯か坩であろう。

SD7（Fig. 7）

SD 6の北側に並行して検出された。SD6に切られている。埋土は２層に分層できる。①層(Fig.4-⑤層)は10YR5/3にぶい黄褐色・5YR4/4にぶい赤褐色などを呈する細砂～シルト層で３cm大程度までのパミス含む。②層（Fig.4-⑥）は10YR7/3にぶい黄橙色・5YR4/8赤褐色などを呈する粗砂～細砂層で特に下部に粗砂が多く見られる。

出土遺物

遺物は、陶器や土器片など10点出土しており、小片が多い。３は加治木姶良系陶器椀の底部である。

6.2　４層上面検出遺構（Fig. 8）

土壙６基、溝状遺構11条、耕作痕と考えられる浅い溝状の落ち込み13条を確認できた。溝状遺構は北西－南東方向もしくはそれと直交する方向に走っており、耕作痕もそれに並行する。土坑としたものは、溝状遺構より幅が広いものや長さが短いものであるが、いずれも溝状遺構と長軸が平行しており、もとは溝として掘削されたものであると推定される。

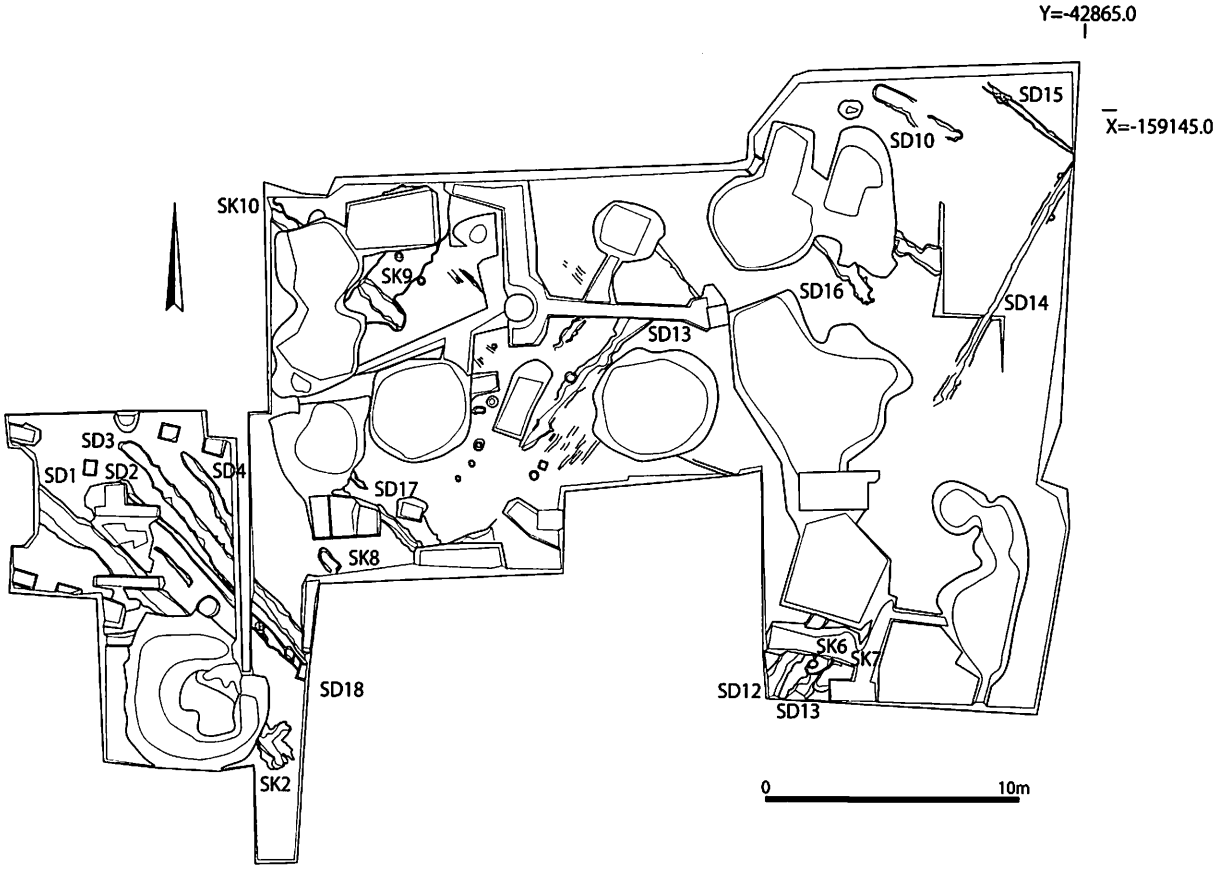


Fig. 8　４層上面検出遺構　S=1/300

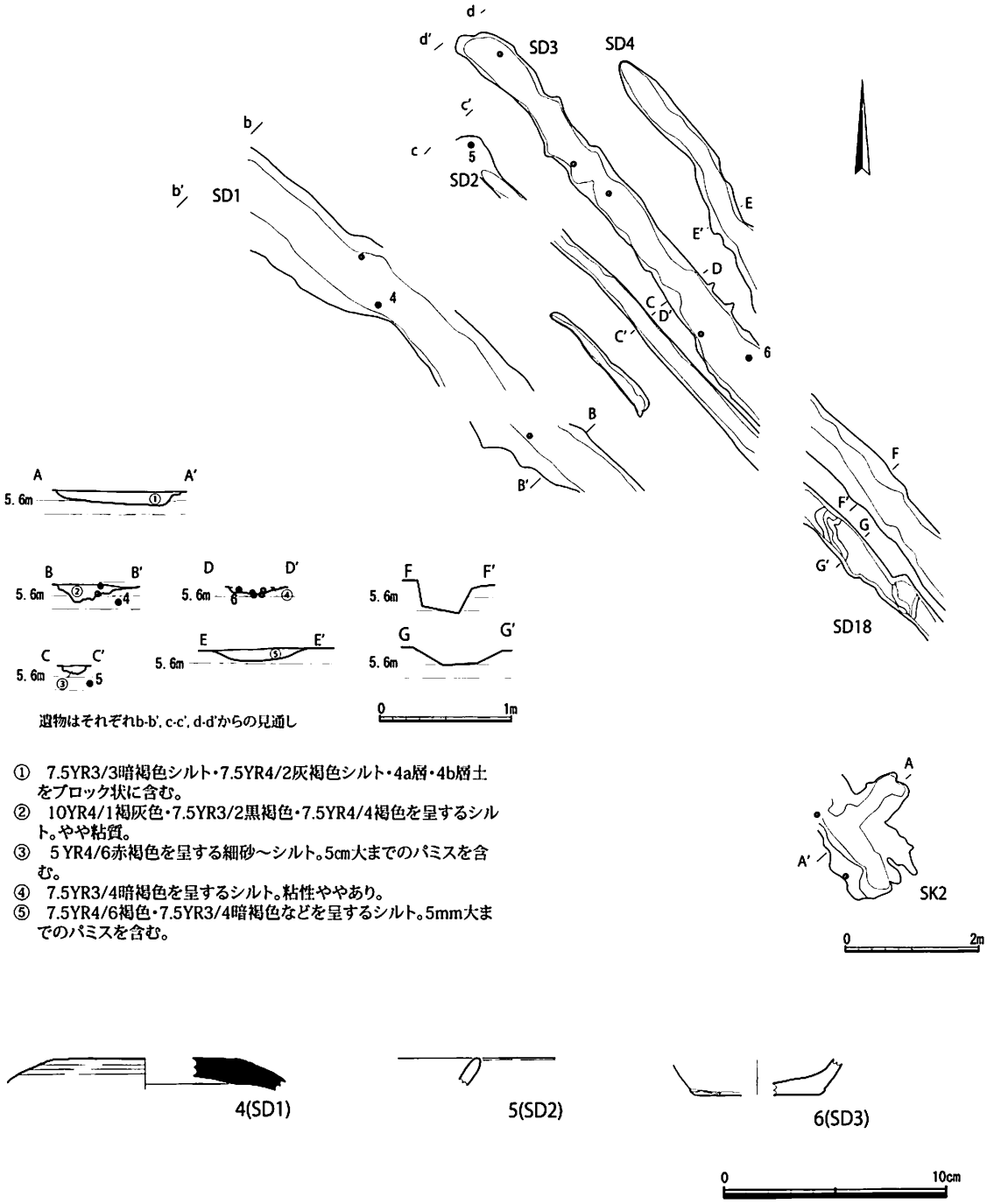


Fig. 9　SK2・SD 1～4と出土遺物　平面図 S=1/100　断面図 S=1/50　出土遺物 S=1/3

溝状遺構は幅30～120cm、深さは6～20cmである。SD1とSK2、SD2とSD18、SK10とSK9、SD14とSD12はそれぞれ同一の溝であろうと推定される。SK 9は幅150cmで深さ5cmと浅いが、SK10延長線上にあたる位置の幅70cmが部分的に深くなっており、SK10に続くものと考えられる。SD13周辺の浅い溝状の落ち込みは、幅20cm深さ1～2cmで途切れがちに検出されるが、断面はシャープであった。鋤痕などの掘削痕であろうと推定される。

出土遺物

4層上面検出遺構から出土した遺物は、弥生土器・古墳時代の土器・土師器・須恵器などで小片がほとんどで、陶磁器類が含まれない。

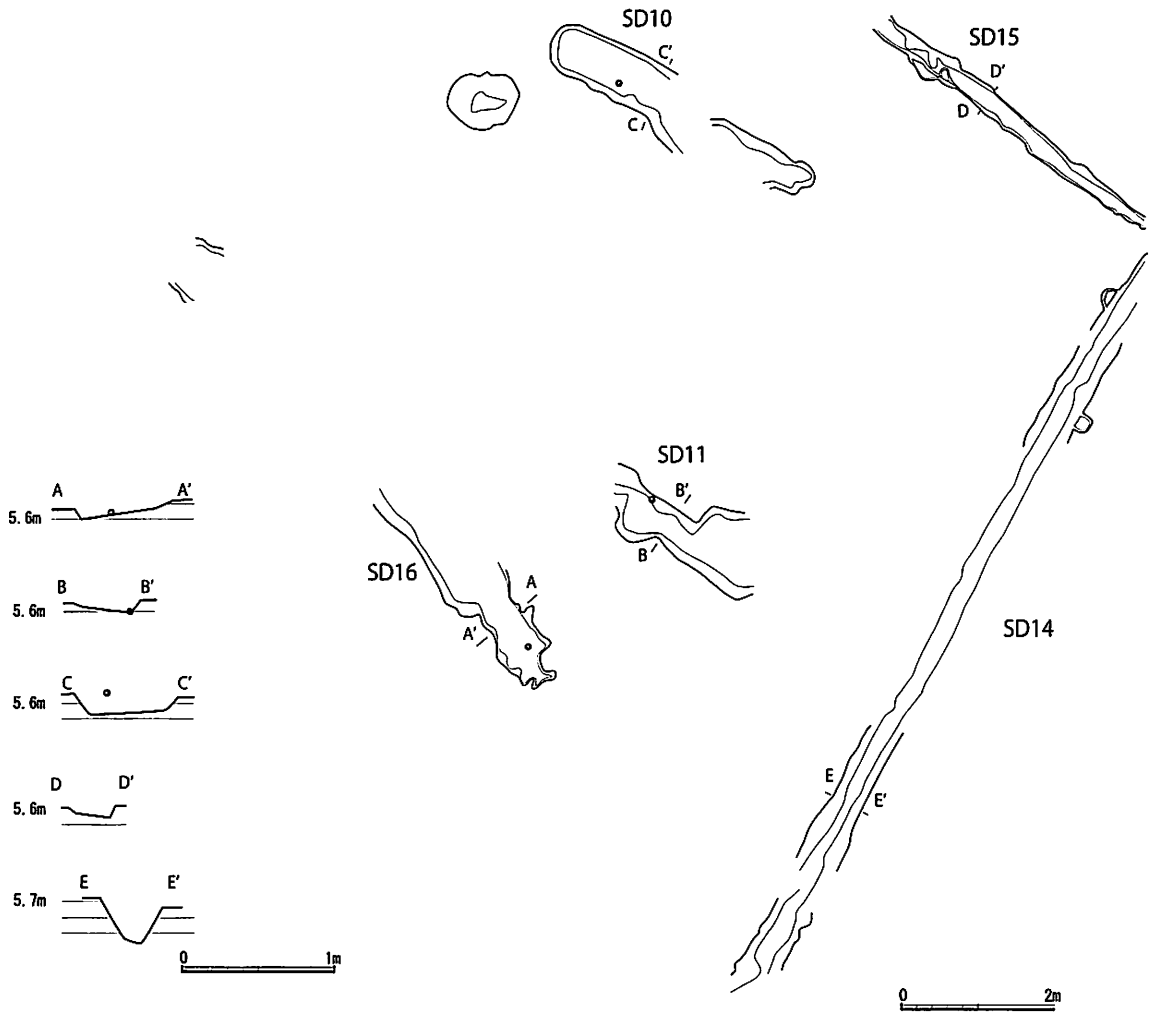


Fig.10　SD10・11・14～16　平面図 S=1/100　断面図 S=1/50

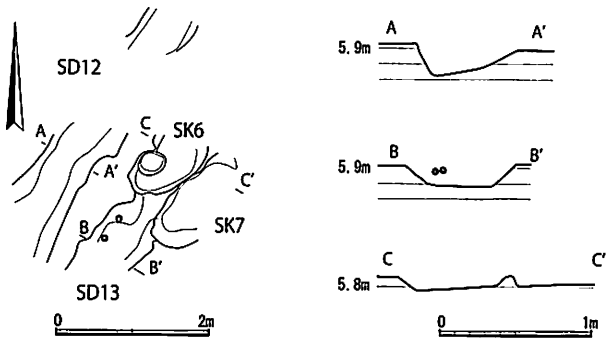


Fig.11　SK6・7・SD12・13　平面図 S=1/100　断面図 S=1/50

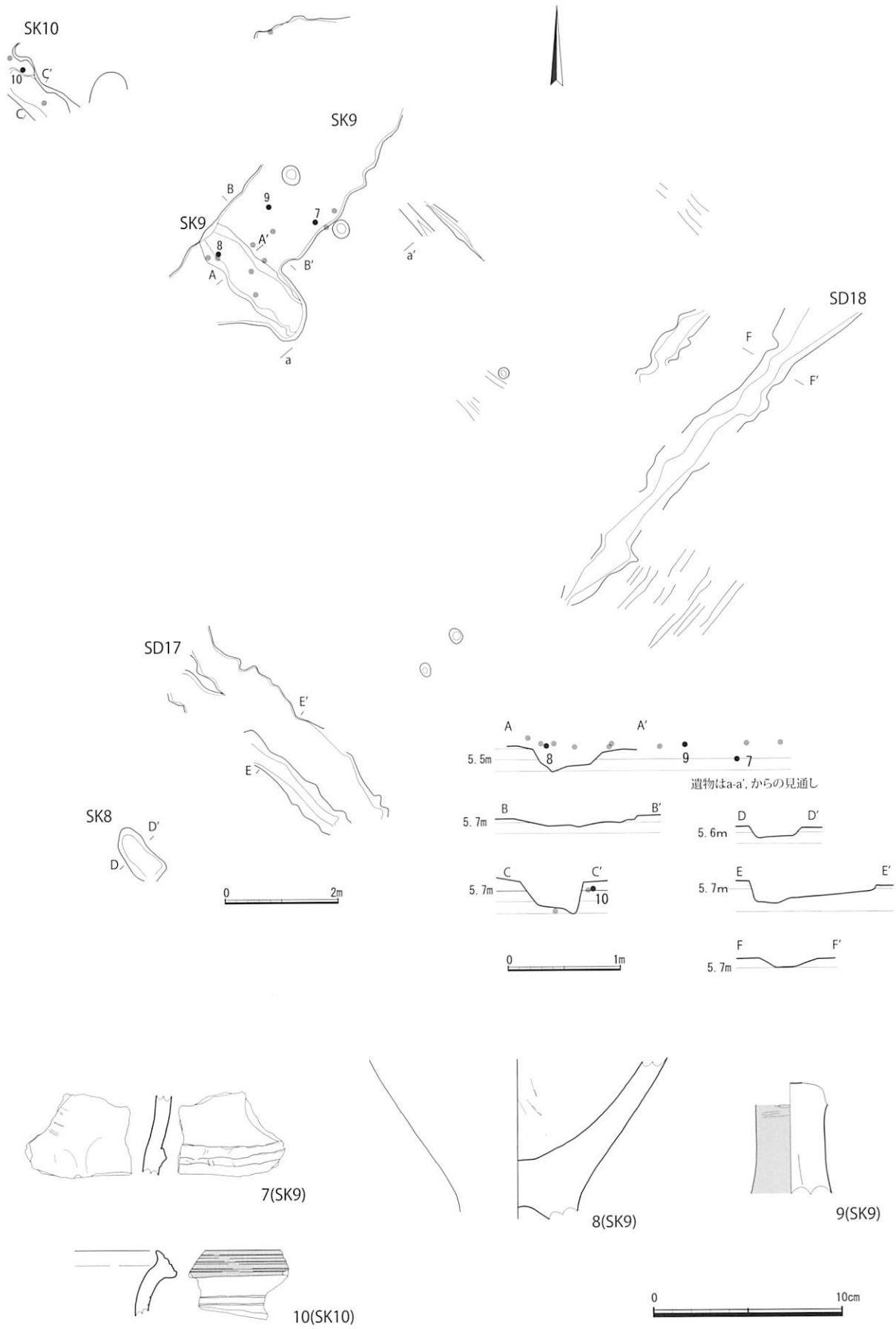


Fig.12　SK8～10・SD17・18　平面図 S=1/100　断面図 S=1/50　出土遺物 S=1/3

7　SD1 検出状況

8　SD 2・3検出状況

9　SD 4検出状況

10　SK10 検出状況

11　SK6・7 検出状況

12　SD 1埋土断面

13　SD 2埋土断面

14　SD 4埋土断面

15　SD12 埋土断面

16　SD13 埋土断面

17　SD15 埋土断面

18　SD14 埋土断面

19　SD16 埋土断面

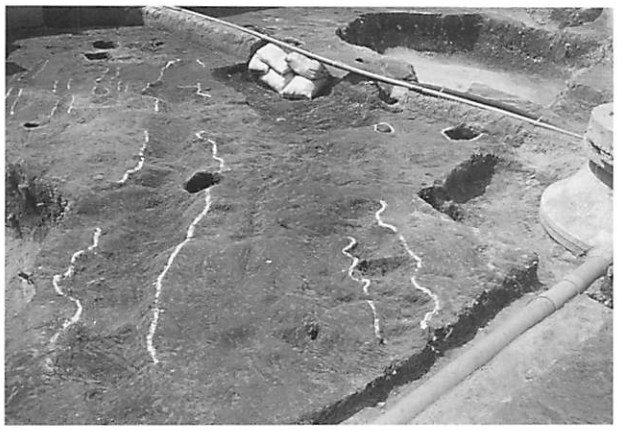
20　SD17 埋土断面

PL. 2　4層上面検出遺構（1）

21　SD18 埋土断面

22　SK7 埋土断面

23　SD1 ～ 4 完掘



24　SD 8 ・ 9 完掘

25　SD10 完掘

26　SD 11 完掘

27　SD12 ・ 13 完掘

28　SD14 完掘

29　SD15 完掘

30　SD16 完掘

31　SD17 完掘

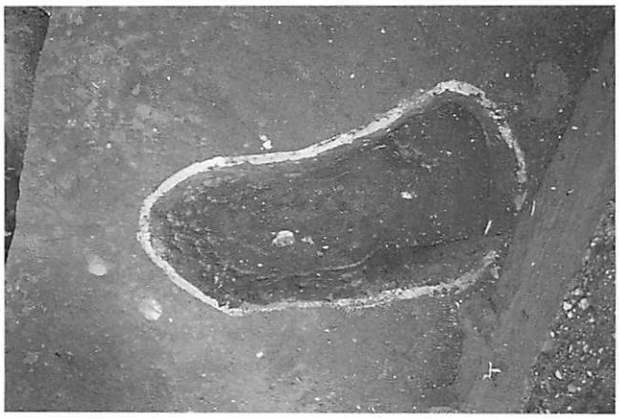
32　SD18 完掘

33　SD 3 南側完掘

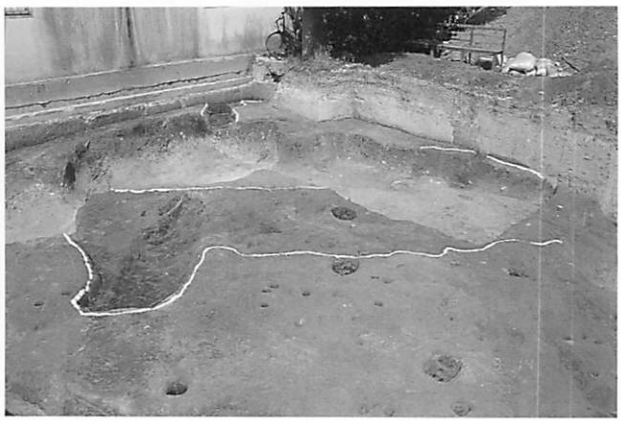
PL. 3　4 層上面検出遺構（2）

34　SK2 完掘

35　SK6・7 完掘



36　SK8 完掘



37　SK9 完掘

38　SK10 完掘

4　5　6

7

8

9

10

PL. 4　４層上面検出遺構（３）と出土遺物

4は須恵器の杯蓋である。5・6は土師器片で、いずれも大変摩滅しているため詳細は不明だが、いずれも古代の土師器であると推定される。7～9は、いわゆる成川式土器で、古墳時代後半の土器である。10は弥生時代後期の壺で、口縁部と頸部に沈線文が施されている。瀬戸内系土器である。

6.3　5層上面検出遺構

竪穴住居跡4基、溝状遺構2条、土壙5基、ピット618基を検出した。

SK4（Fig.14）

SK4は東区の南西に位置する。西側はカクランによって切られ、東側は調査区外となっているため、全形は不明だが、平面形が方形を呈する竪穴住居と推定される。軸は北西－南東方向である。残存部から推定すると、一辺が約2.7mで小型である。柱穴は床面中央部に1基確認できる。床面は壁周辺が10cmほど高い段状を呈する。中央部には、貼床（Fig.14-③）が認められる。壁際の一部には、幅6cmほどの浅い溝が確認でき、壁溝と推定される。

SK4からはほとんど遺物が出土せず、土器片を数点確認できたのみである。

SK11（Fig.15）

SK11は東区北側の中央部に位置する。北東と南東角はカクランによって切られているが、平面形が方形を呈する竪穴住居と推定される。軸は南西－北東方向である。残存部から推定すると、一辺が約2.4mで小型である。ピットが6基あるが、主柱穴は南北壁際中央の2基（Fig.15断面H・F）だろうと推定される。

埋土は、5つに分層できるが、Fig.15-②と③の上面は平坦で、それぞれ貼床の可能性がある。炉跡など確認できなかったが、貼床を盛り直している可能性が高い。

出土遺物

土器を中心として遺物が出土したが、ほとんどが埋土①からの出土で小片である。住居跡廃棄後、流入したものと思われる。実測できるものは2点である。11･12とも甕の口縁部である。口縁部が直立するが、やや外反気味である特徴や、シャープなハケが認められ、辻堂原式土器である思われる。

SK13（Fig.16・17）

SK13東区は西側に位置する。SK14を切っている。カクランをはさんだ東西の落ち込みをSK13として調査を行ったが、このうち、カクランより東側のみが1基の竪穴住居跡となるようである。西側部分も、残存部分で約20cmの立ち上がりが認められることから、もう1基の竪穴住居跡である可能性もある。

東側の竪穴住居跡は、東角と西角はカクランによって掘削されているが、平面形が方形を呈すると推定される。軸は北西－南東方向である。残存部から推定すると、一辺が約3.2mである。柱穴が4基確認できるが、いずれも浅く、主柱穴となるかは不明である。

埋土は、2つに分層でき、Fig.16-②は貼床である。炉跡などは確認できなかった。

出土遺物

土器を中心として遺物が出土したが、ほとんどが埋土①からの出土である。遺物の出土状況を見ると、北角付近から住居跡中央部に向かって流れ込んだような分布を呈しており、住居跡廃棄後、流入したものと思われる。遺物は比較的大きい破片もあり、ある程度まとまっているため、埋土内で接合できるものがあった。住居廃棄後のくぼ地を利用した廃棄場所となっていたのかもしれない。

図示したのは13点である。甕7点、壺2点、高杯4点である。13は直立する口縁部を持ち、笹貫式の甕の形態に類似するものだが、突帯の位置が高く、台付鉢である可能性もある。ハケが明瞭に残っており、

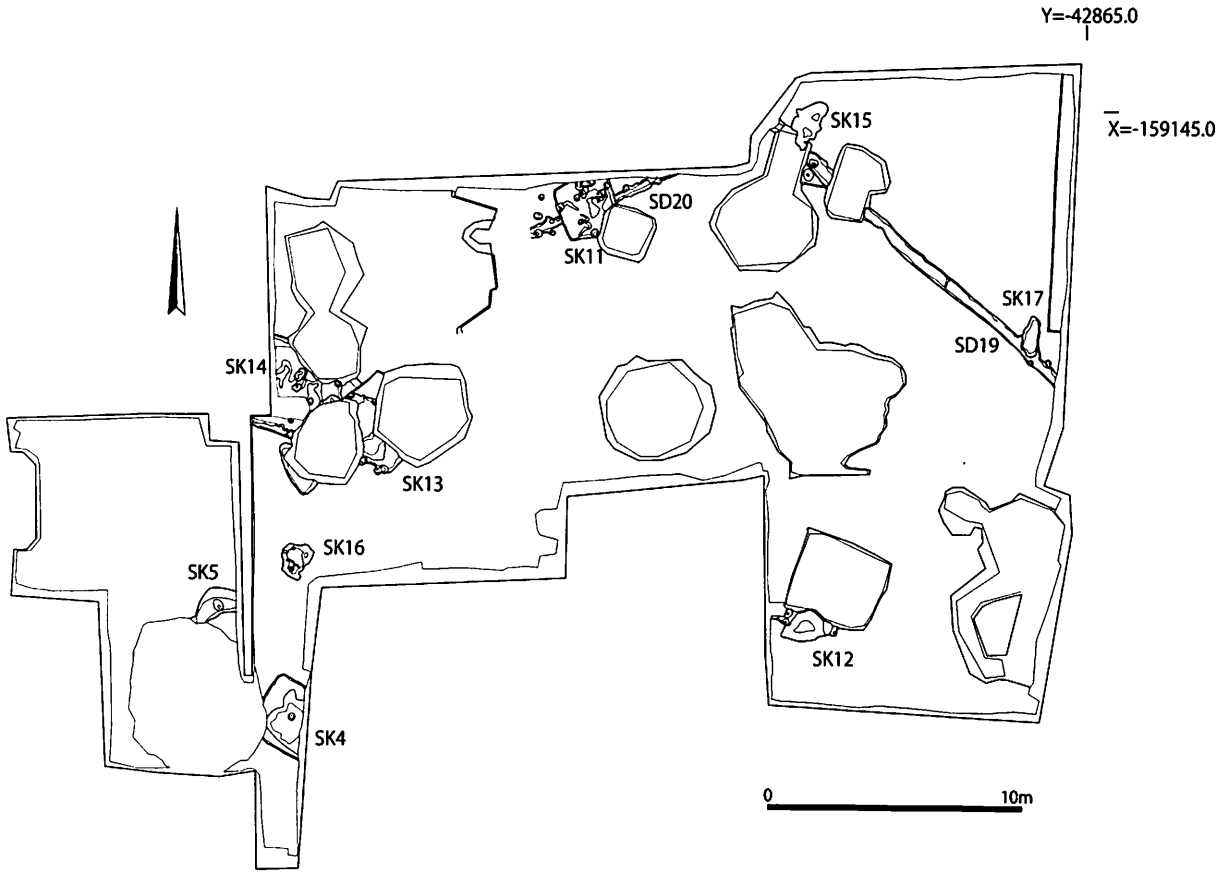
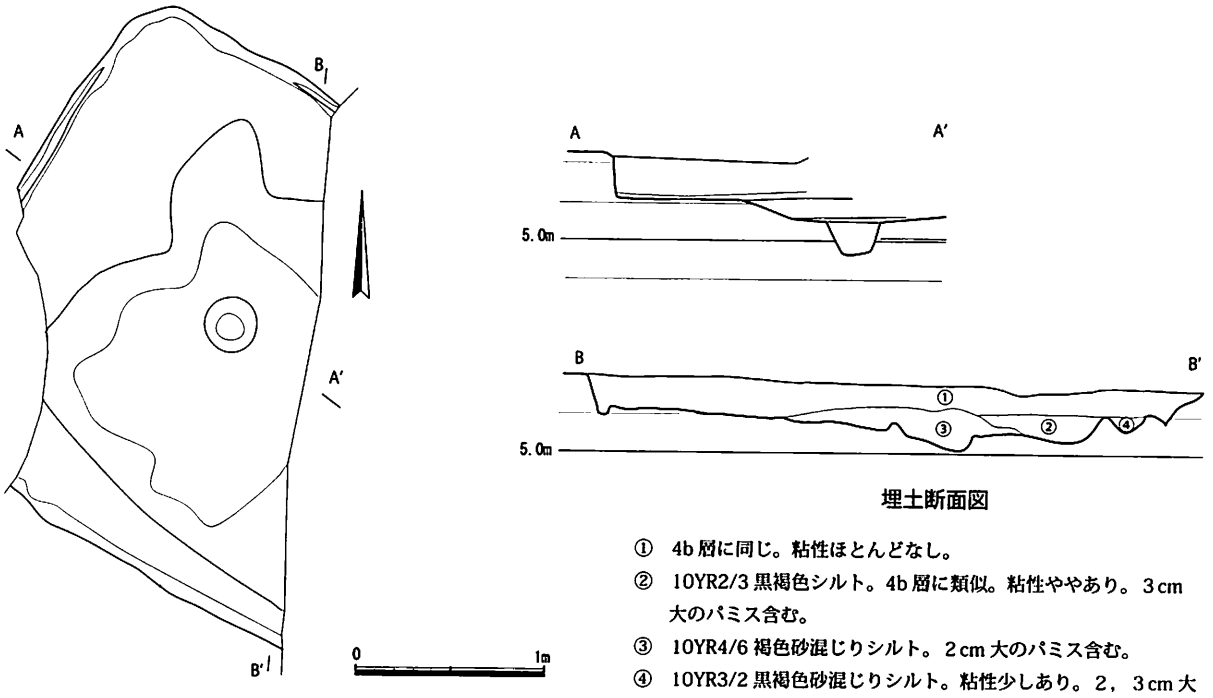


Fig.13　5層上面検出遺構　S=1/300



埋土断面図

① 4b層に同じ。粘性ほとんどなし。

② 10YR2/3 黒褐色シルト。4b層に類似。粘性ややあり。3cm大のパミス含む。

③ 10YR4/6 褐色砂混じりシルト。2cm大のパミス含む。

④ 10YR3/2 黒褐色砂混じりシルト。粘性少しあり。2，3cm大のパミスを少し含む。

Fig.14　SK 4（住居跡）　S=1/40

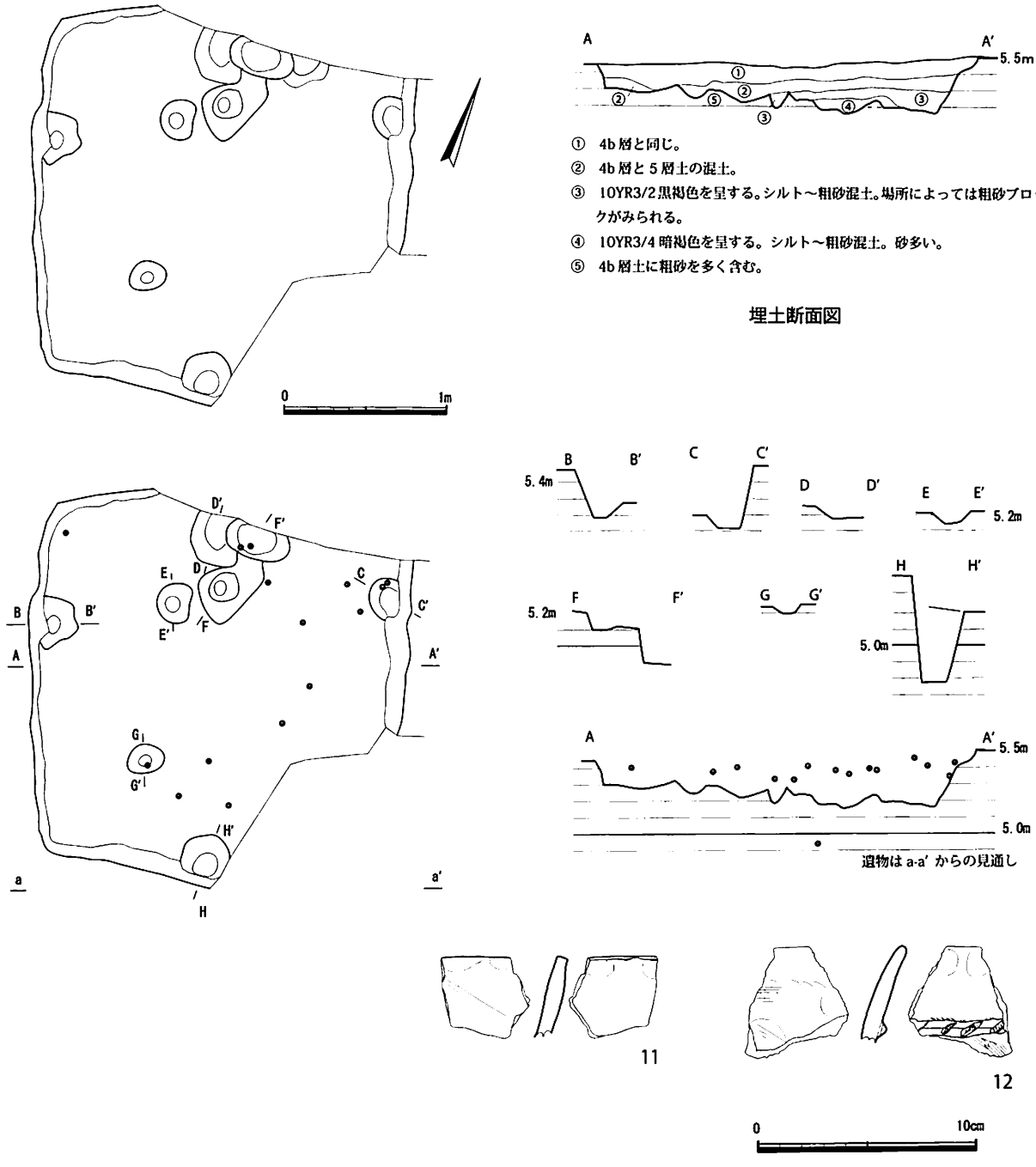


Fig.15　SK11（住居跡）と出土遺物　平面・断面・遺物分布状況 S=1/40　出土遺物 S=1/3

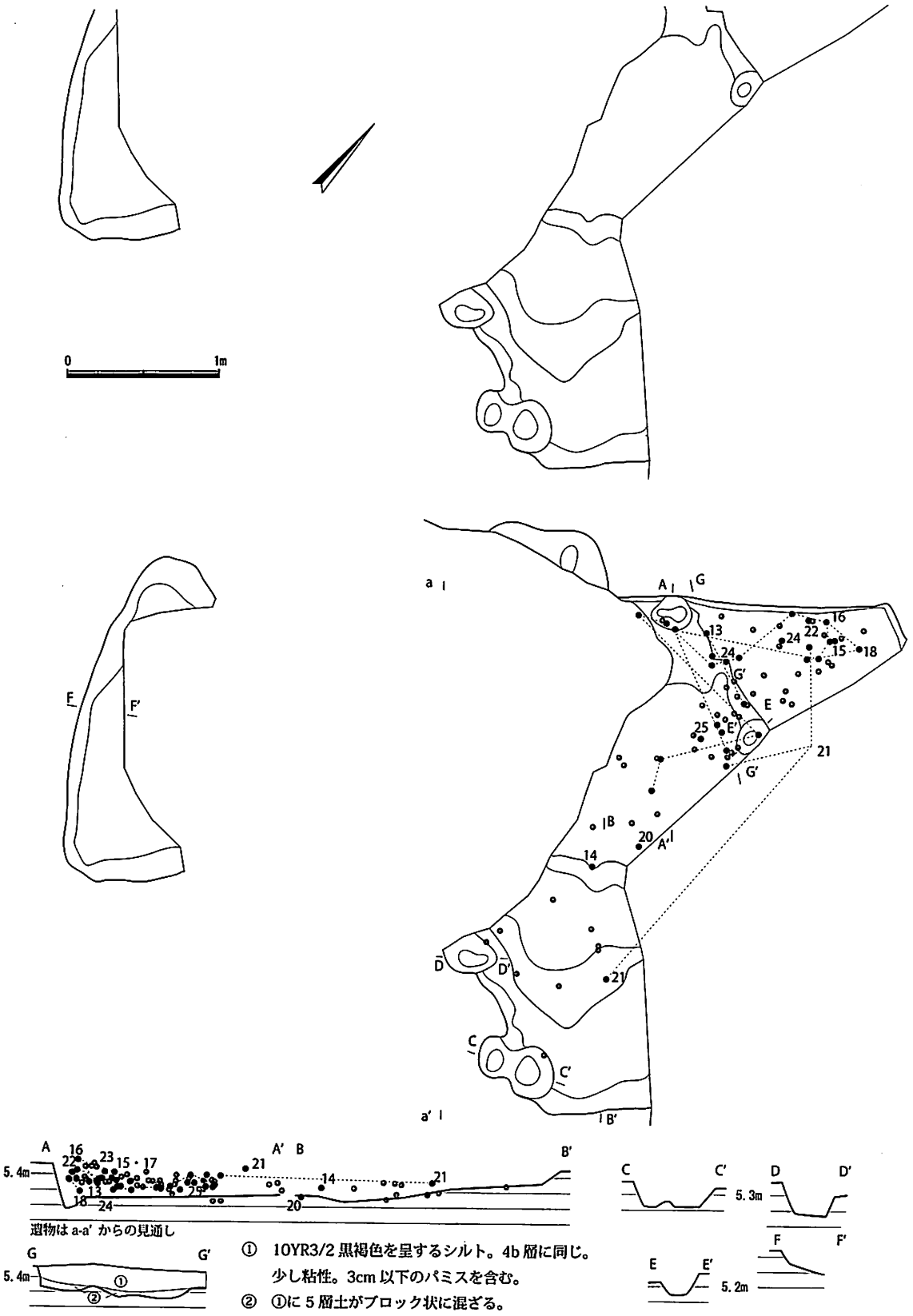


Fig.16 SK13（住居跡）と出土遺物 平面・断面・遺物分布状況 S=1/40 出土遺物 S=1/3

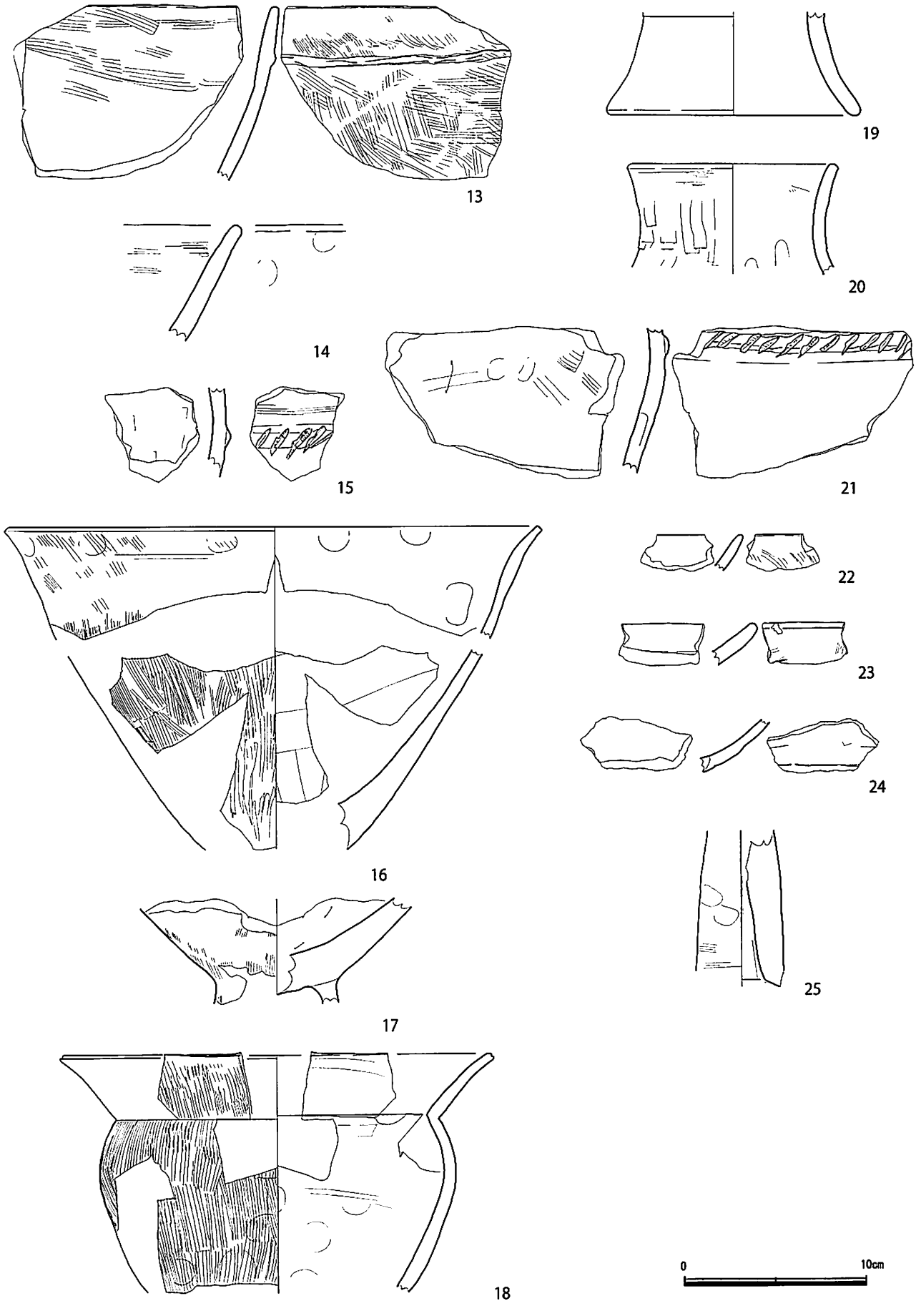


Fig.17　SK13 出土遺物　S=1/3

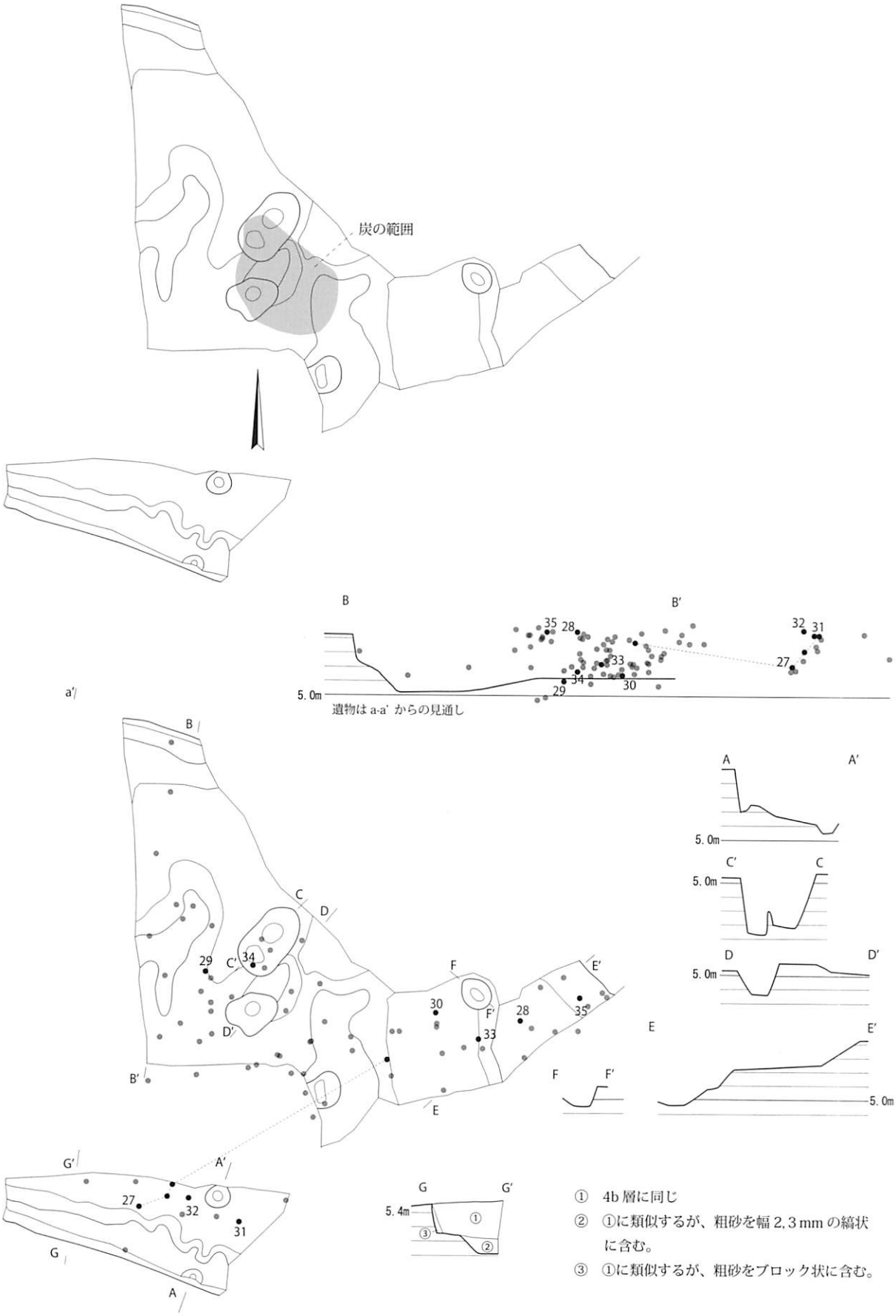


Fig.18　SK14（住居跡）平面図・断面図・遺物出土状況　S=1/40

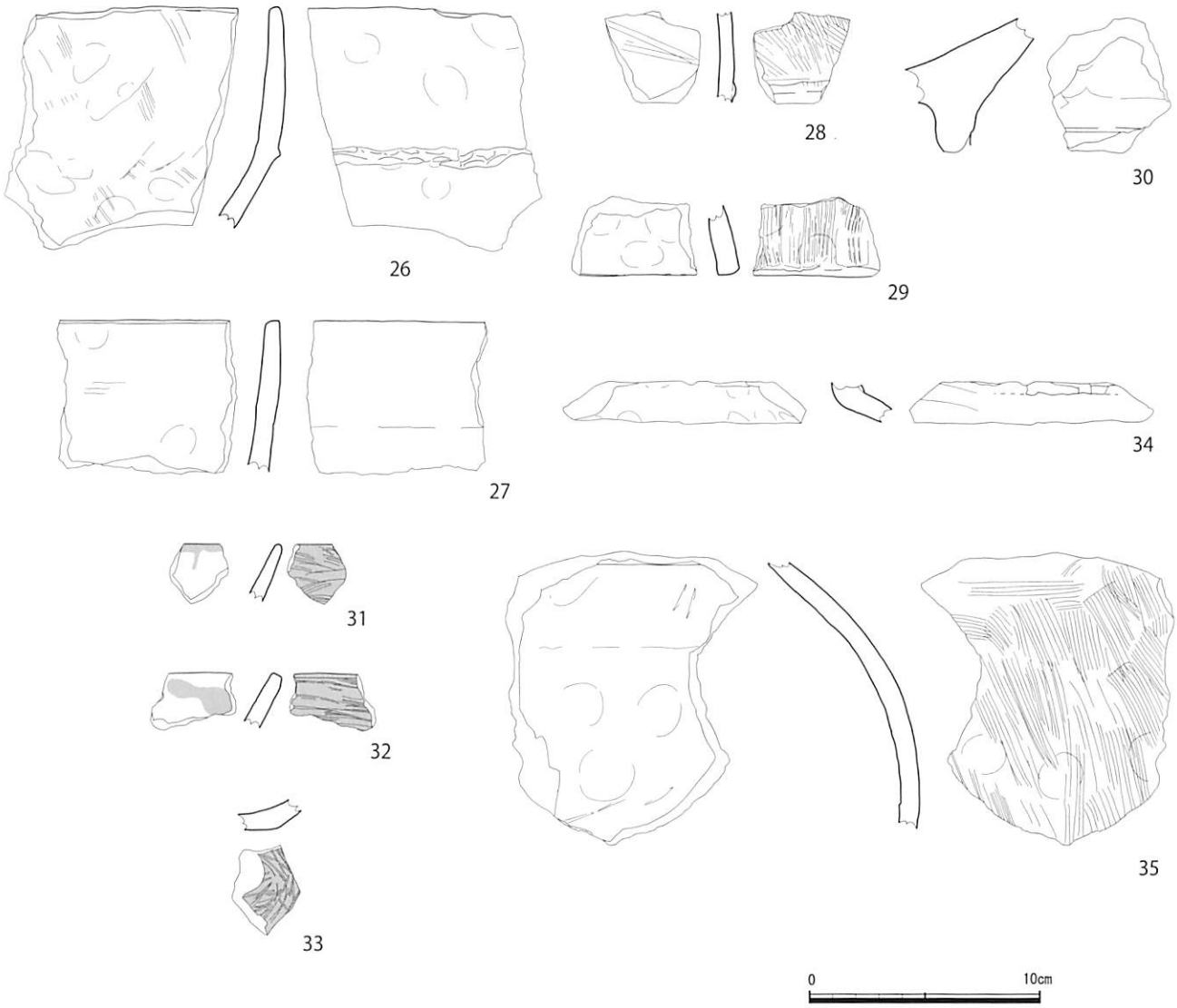


Fig.19　SK14 出土遺物　S=1/3

笹貫式より古い特徴を残していると考えられる。14 ～ 18は胎土は硬質でハケなどの調整もシャープである。18は中津野式、16は東原式である。22 ～ 24は高杯の杯部であるが、いずれも椀形を呈する形態である。傾きから推定すると浅めで、外面の段も浅く不明瞭である。辻堂原式古段階かそれ以前の高杯だと思われる。これらの土器は赤色顔料を塗布されないが、胎土そのものが橙色に発色しており、辻堂原式・笹貫式土器に特徴的な高杯や坩に赤い顔料を塗布する以前のものであると考えられる。25の高杯脚部は、端部に向かってバチ形に開く形態を呈するが、端部は接合部で欠損している。これも、鹿児島平野部地域では辻堂原式古段階以前の形態である。これらの特徴を総合すると、土器群にある程度の時期差は認められるものの、最新のものは辻堂原式古段階に位置づけられ、この時期が住居跡の埋没時期に一番近いものと考える。

SK14（Fig.18）

SK14は東区西側に位置する。東側はカクランとSK13によって掘削を受け、西側は調査区外に続いているため、全形は不明である。南北に残る壁から平面形が方形を呈する竪穴住居と推定される。軸は北西－南東方向である。残存部から推定すると、一辺が約3.6mである。柱穴は５基確認できるが、床面中央部付近に位置するピット（Fig.18断面C）が主柱穴となると思われる。しかし、このピットの一部は炉跡と

推定される薄い炭層に覆われており、使用最終段階では柱穴として機能していなかった可能性もある。炭層の近くには焼土も確認されている。

埋土は３層に細分でき、埋土②は貼床である。炭層は②層上面で検出された。

出土遺物

SK14からは土器を中心として遺物が出土している。埋土①からの出土が多く、出土状況を見ると、南東の壁際から中心部に向かって落ち込んでいる。土器片は小片が多いが、まとまった破片もあり、SK13と同様、住居廃棄後のくぼ地に流入したものが多いと推定される。

図示できたのは土器で、甕５点、壺２点、高杯２点、坩１点である。笹貫式（26・27)、辻堂原式古段階以前と推定されるもの（28・29・34・35)、辻堂原式以後（31・32・33）があり、やはり時期幅が認められるが、最新段階は笹貫式土器で、SK13より新しい。遺構の切り合いとは逆の新旧関係を示しており、検討する必要がある。

SK5（Fig.20)

西区に位置する。東側は調査区外に続き、西側はカクランによって掘削を受けているため、全形は不明である。底面にピット状の落ち込みがあり、幅１ｍの溝状を呈し、深さは最深部で約80cmを測る。長軸は東西方向で、弧状を呈する。遺物は埋土中より１点出土している。

出土遺物

縄文時代晩期深鉢の胴部片である。算盤珠状に屈曲し、外面･内面とも横方向のミガキが施されている。

SK12（Fig.20)

東区南東部に位置する。北側はカクランによって掘削を受け､西側は調査区外に続いている。長さ1.6m、幅1.2m、深さ70cmを測り、台形状の平面形を呈する。長軸は東西方向である。遺物は、埋土中より１点出土している。

SK15（Fig.20)

東区北東部に位置する。南側はカクランによって掘削を受けているが、底面付近が残存していた。長さ2m、幅１m、深さ45cmを測り、不定形の土壙である。長軸は北東－南西方向である。埋土は２層に分層できる。遺物は出土していない。

SK16（Fig.20)

東区西側に位置する。長さ1.4m、幅1.1m、深さは約30cmである。不定形で、壁際４か所がやや深くピット状を呈する。長軸は、北東－南西方向である。遺物は、土器片が１点出土している。

SK17（Fig.20)

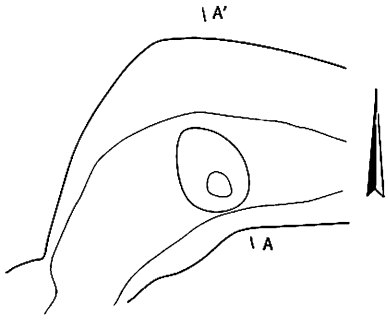
東区東端に位置し､SD19を切っている。長さ1.7m､幅0.7m､深さ40cmを測り､平面形は楕円形を呈する。長軸は、南北方向である。遺物は出土していない。

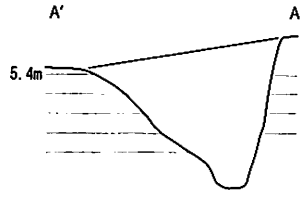
SD19（Fig.21)

東区北東部に位置する。カクランやSK17によって掘削を受けているが、北西－南東方向に走る。幅40cm、深さ15cmを測り、埋土は２層に分層できる。

出土遺物

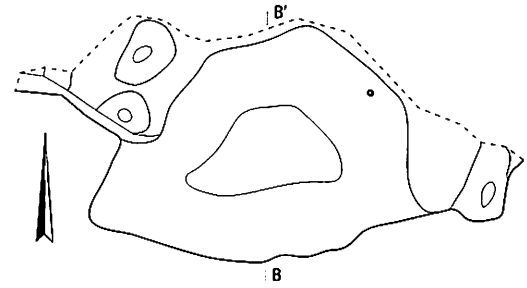
遺物は土器を中心に埋土①より出土している。小片が多く､埋土とともに流れ込んだものと推定される。

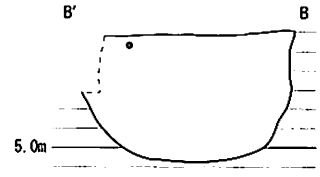




埋土：7.5YR1.7/1 黒色シルト。2cm 大以下のパミスを少し含む。

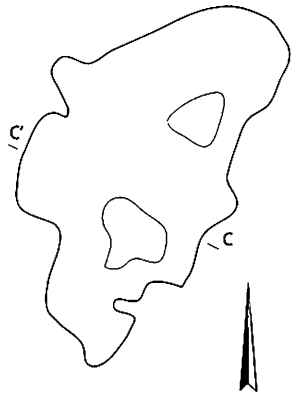
SK5

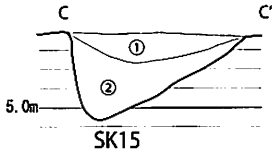




埋土：10YR1.7/1 黒色シルト。やや粘質。2cm 大のパミスを少し含む。

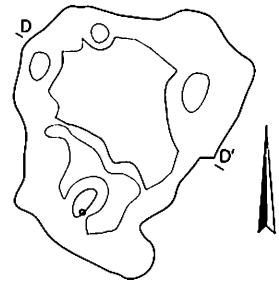
SK12

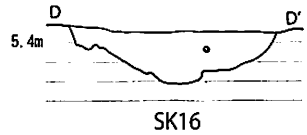




① 4b 層と同じ。
② 4b 層土と 5 層土の混土。

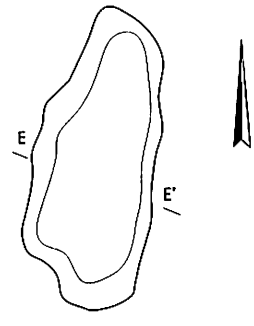
SK15





埋土：10YR1.7/1 黒色シルト。やや粘質。2cm 大のパミスを少し含む。

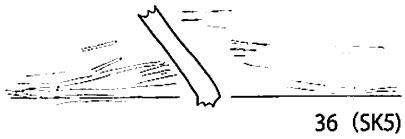
SK16



埋土：10YR2/3 黒褐色シルト。2～3cm 大のパミスを多く含む。

SK17

0　1m



36（SK5）

0　10cm

Fig.20　SK5・12・15～17　平面図・断面図 S=1/40　出土遺物 S=1/3

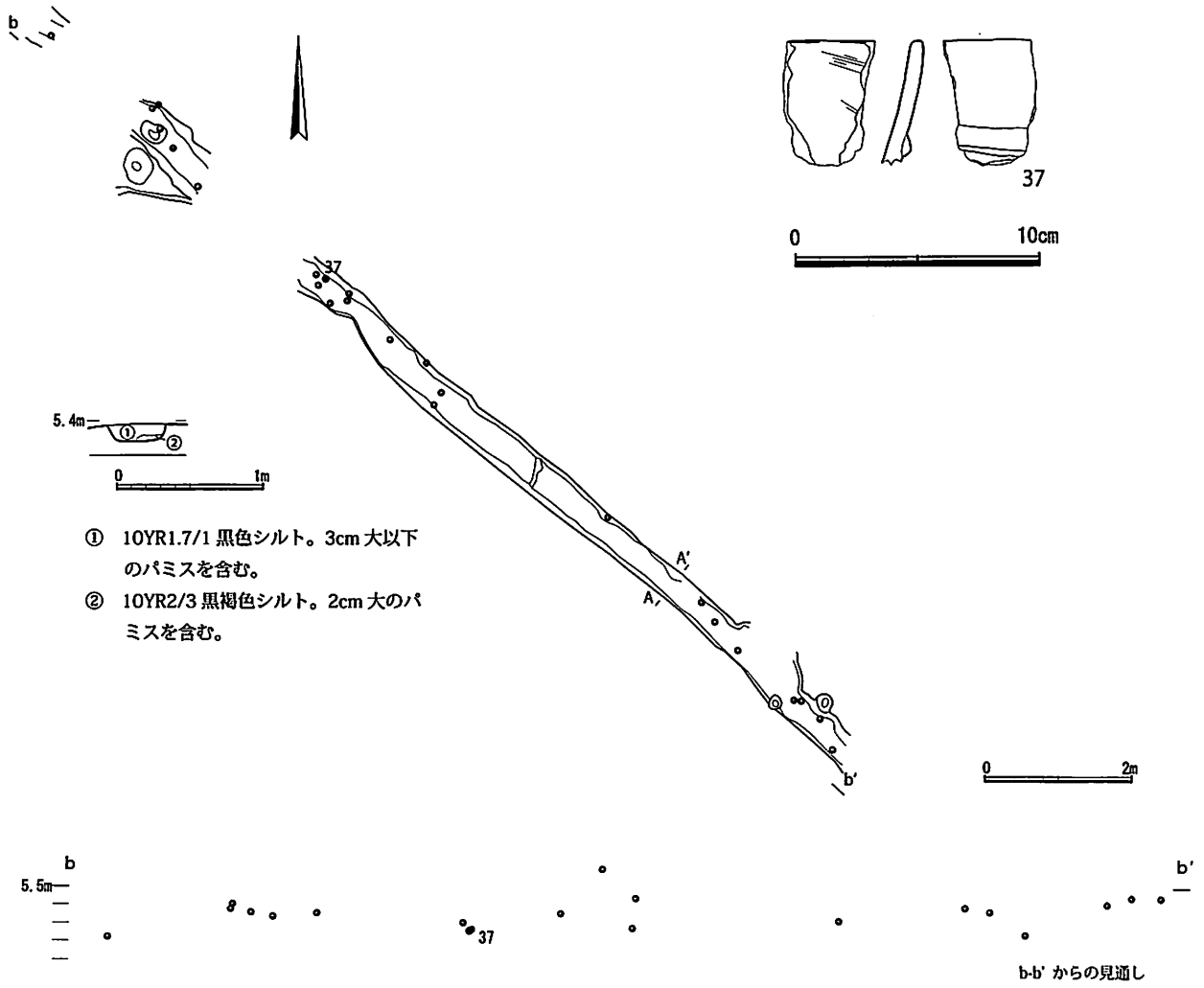


Fig.21　SD19　平面図 S=1/100　断面図 S=1/50　出土遺物 S=1/3

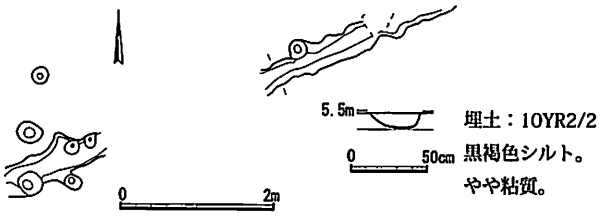


Fig.22　SD20　平面図 S=1/100　断面図 S=1/50

37は笹貫式の甕である。

SD20（Fig.22）

東区北側に位置し、西側はカクランによる掘削を受け、SK11に切られている。東側は調査区外に続いている。幅40cm、深さ10cmを測り、東北－南西方向に走る。遺物は出土していない。

ピット群（Fig.23・24）

５層上面からは、ピットが618基検出された。埋土はいずれも4b層土に類似している。

これらのピット群のうち、ピットの平面形の一部が角張る特徴をもつものが見られた（Fig.25・26）。断面も一部が袋状を呈していたり、一辺の傾斜角度が異なるこなどの特徴を有していた。柱を傾けて抜いた結果生じた形態ではないかと推定される。

これらの特徴的なピット群は東区南側に２グループ認められた。いずれも、建物跡になるような配列にはならず、鉤形に並ぶため杭列とした。

杭列１・２ともその配列方向が北東―南西方向、もしくはそれに直交わるもので、５層上面の他の遺構の方向と同様である。

その他のピットについてみると、ピットの深さは５～60cmとばらつきがある。これらを20cm以下、20～30cm、30cm以上の３グループに分類した（Fig.24）。分類した深さ別のピットの配列に注意すると、やはり北西―南東方向、もしくはそれに直交する方向に並んでおり、同一ラインに密集しているピットも多い。これらのことから、ピット群は何度か建て替えられた建物跡もしくは杭列の跡であると想定できる。

出土遺物

ピット中からは、土器小片が９点出土している。このうち、図化できるのは38でＰ８より出土している。細沈線による施文が認められ、縄文時代晩期深鉢の口縁部付近と推定される。

7　包含層出土遺物

表土・カクラン出土遺物（Fig.27）

弥生土器・古墳時代の土器・須恵器・土師器・古銭・近世以降の陶磁器・素焼土器などが出土している。図示したのは６点である。

39は肥前焼磁器である。40は、須恵器の口縁部だが器種は不明である。やや内湾する形態である。41・42は高杯でどちらも赤色顔料が塗布されている。辻堂原式か笹貫式である。43は坩の底部である。平底でやや下膨らみの胴部になる。44は古銭の熙寧元寶である。

2a層出土遺物（Fig.28）

弥生土器・古墳時代の土器・須恵器・土師器・石器・青磁・中世陶器・瓦器・近世以降の陶磁器・近世以降の素焼き土器・フイゴ口・ガラスが出土している。

45はガラス瓶の底部である。46～50は磁器である。48の上部と裏面は接合部で欠損している。49は環状を呈する破片の一部で戸車と推定される。51～66は陶器である。苗代川焼が多いが、加治木姶良系（龍門司焼を含む）・琉球焼がある。67は素焼きの泥面子である。半分で欠損している。68は備前焼の擂鉢口縁部である。69は瓦器で外面端部にスタンプ文が施されている。70は須恵器の底部である。

71～73は成川式土器である。74は、表面の一部がガラス化しており、フイゴ口か炉壁などの製鉄関係遺物であろうと推定される。75は砥石である。

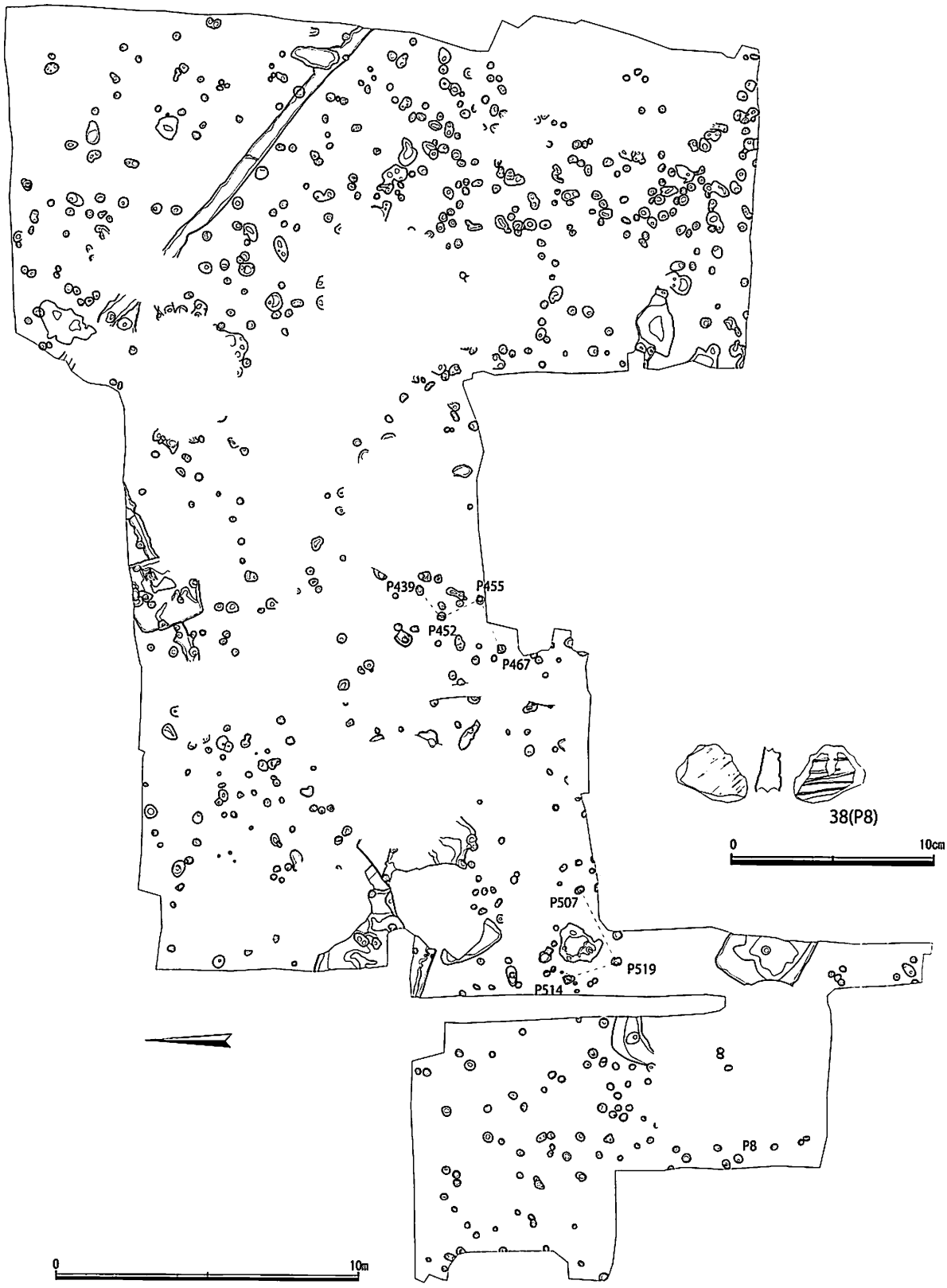


Fig.23　5 層上面ピット検出状況（1）　S=1/200

Fig.24　5層上面ピット検出状況（2）　S=1/200

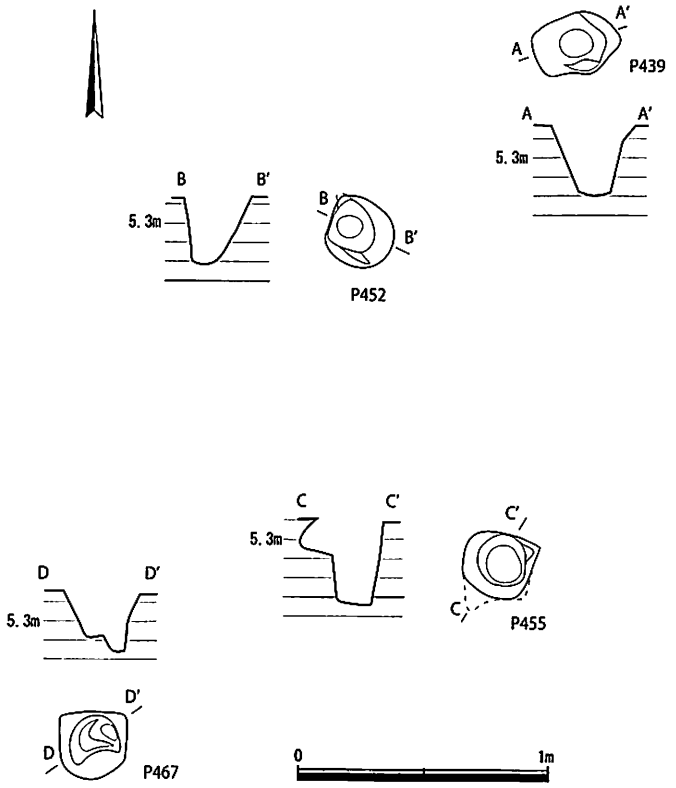


Fig.25　杭列１　平面・断面図　S=1/30

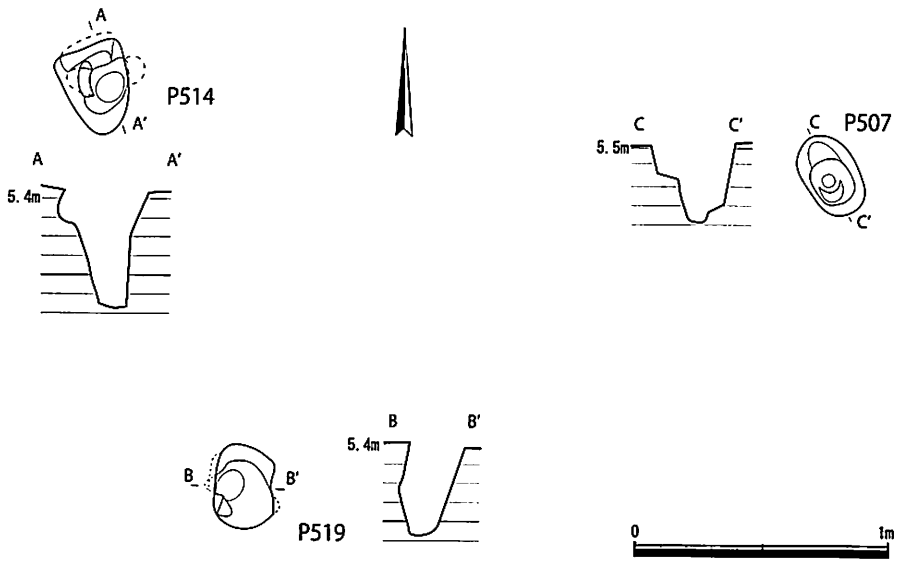


Fig.26　杭列２　平面・断面図　S=1/30

41　SK 4埋土断面

42　SK 4完掘

43　SK11 埋土①除去後

44　SK11 埋土②除去後

45　SK11 竪穴底面検出

46　SK11 埋土断面

47　SK11 完掘

48　SK13・14 検出状況

PL. 5　5層上面検出遺構（1）

49　SK13 検出状況

50　SK13 遺物出土状況

51　SK13 埋土断面

52　SK13 完掘

53　SK14 検出

54　SK14 埋土①除去後

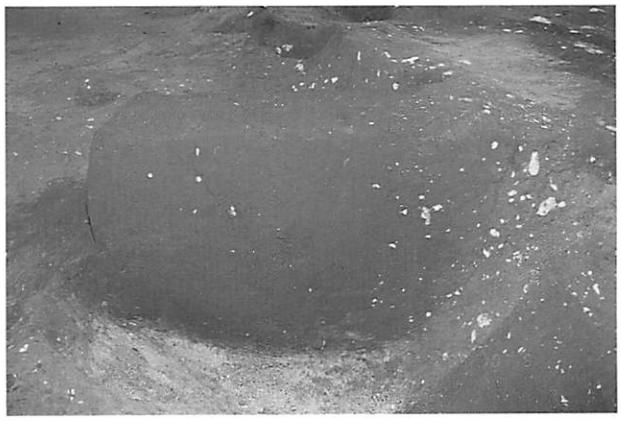
55　SK14 床面の炭

56　SK14 埋土断面（北側）

57　SK14 埋土断面（南側）

58　SK14 完掘

59　SK12 検出状況



60　SK12 埋土断面

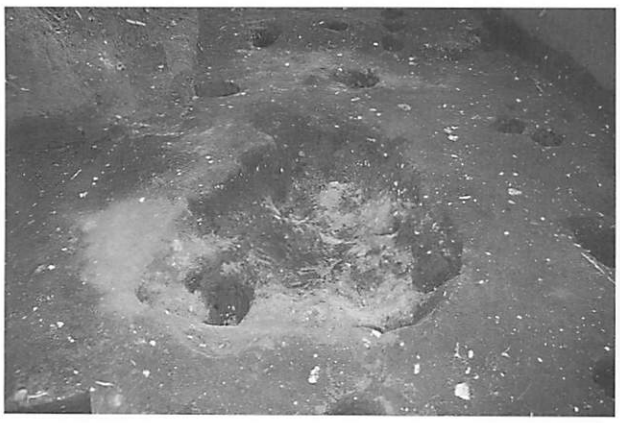
61　SK12 完掘

62　SK15 埋土断面

63　SK16 検出状況

64　SK16 埋土断面

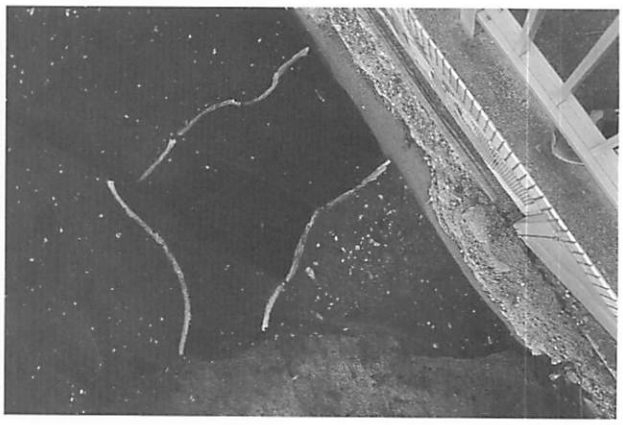
PL. 7　5 層上面検出遺構（3）



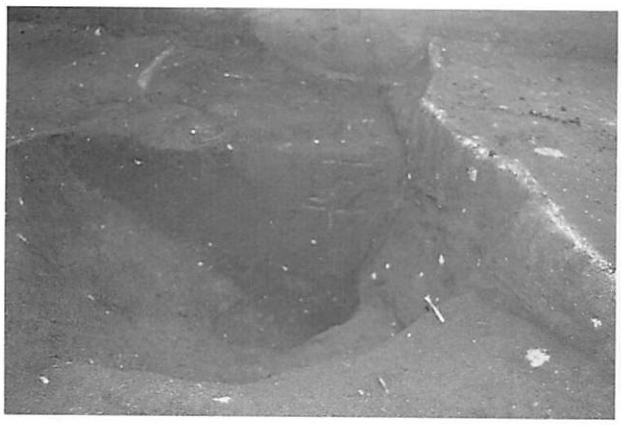
65　SK16 完掘

66　SK17 埋土断面

67　SK17 完掘



68　SD5 検出



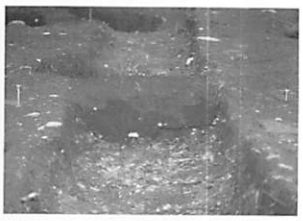
69　SK5 埋土断面

70　SK5 完掘

71　SD19 検出

72　SD19 遺物出土状況

73　SD19 完掘

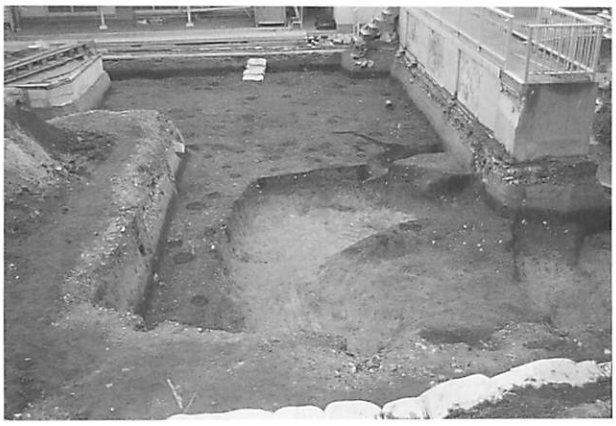


74　SD19 埋土断面

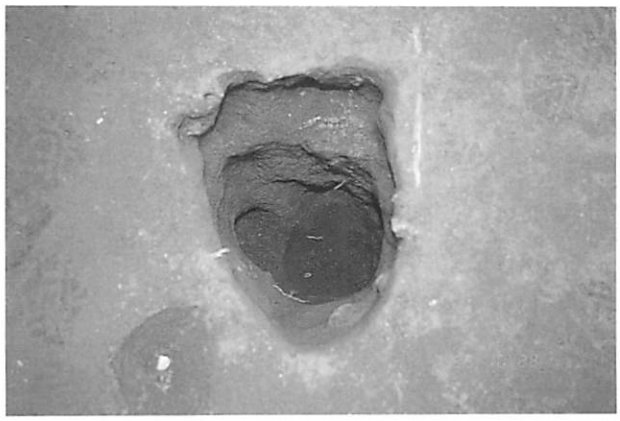
PL. 8　5 層上面検出遺構（4）

75　SD20 埋土断面

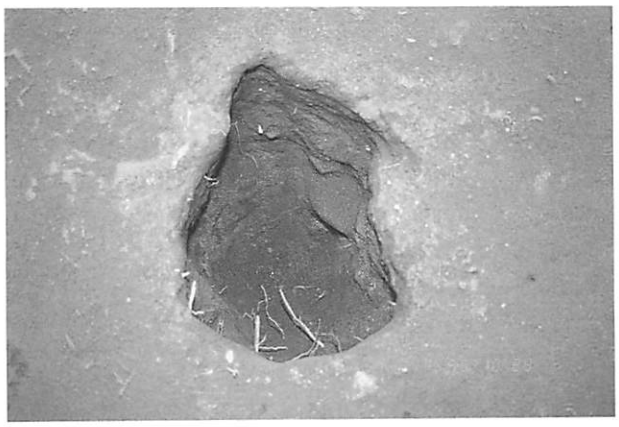
76　SD20 完掘



77　西区 5 層上面ピット検出状況

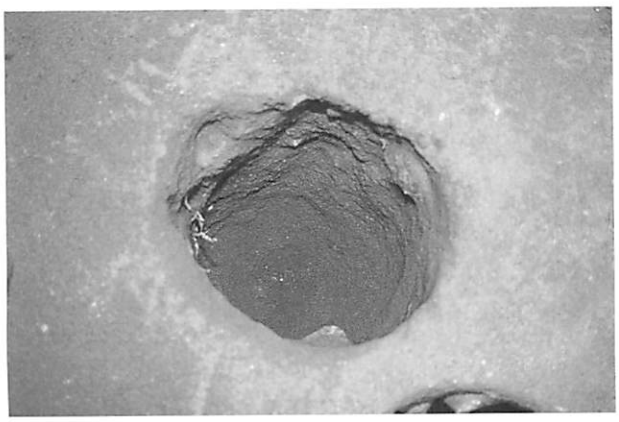


78　P514 完掘



79　P519 完掘

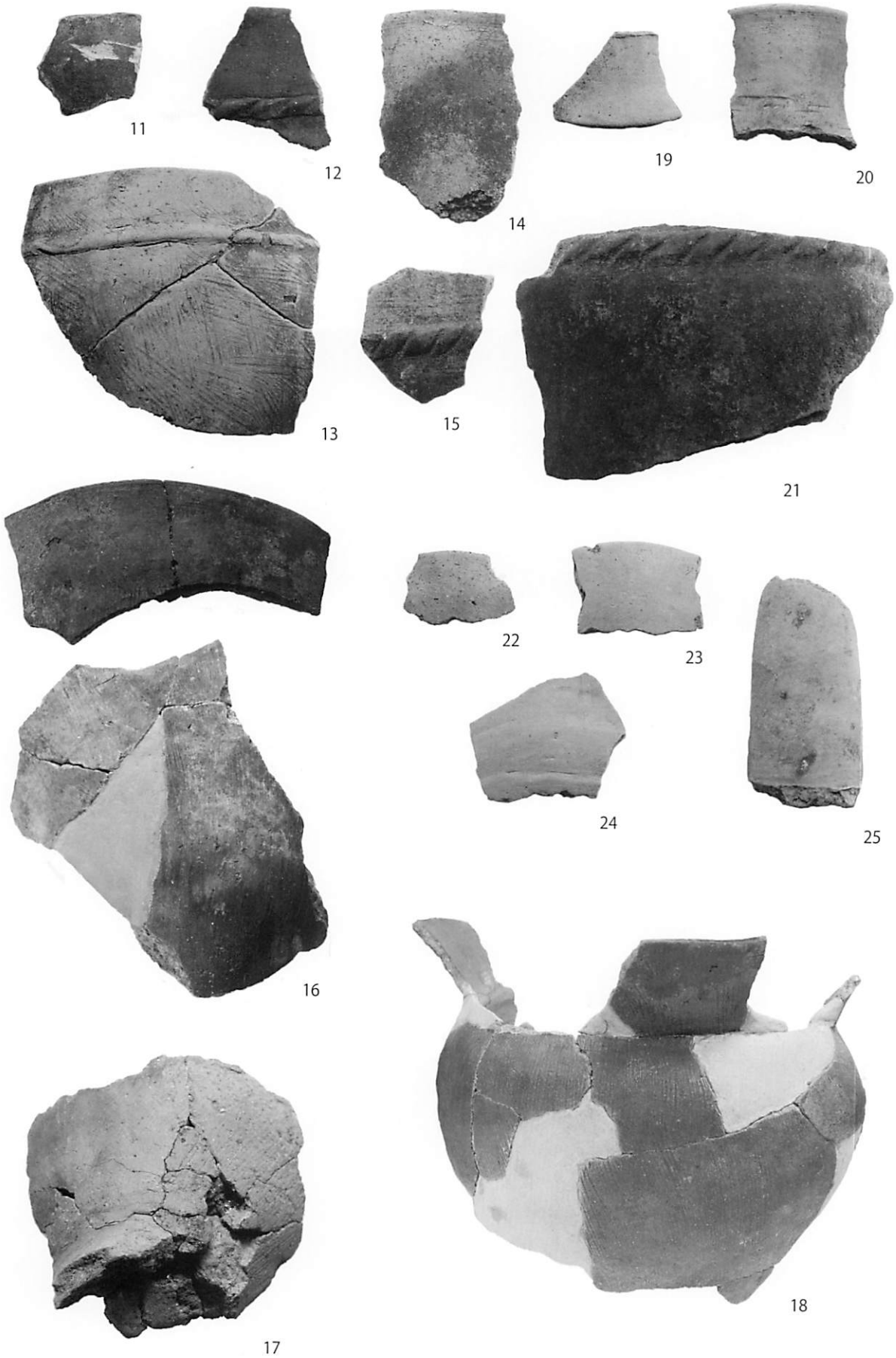
80　P507 完掘



81　P513 完掘

82　東区完掘状況

PL. 9　5 層上面検出遺構（5）



36　PL.10　５層上面検出遺構出土遺物（１）

26

34

27

35

28

29

36

30

31

32

37

38

33

PL.11　5 層上面検出遺構出土遺物（2）

2b層出土遺物（Fig.29・30）

2b層からは、最も多くの遺物が出土している。弥生土器・古墳時代の土器・須恵器・土師器・青磁・近世以降の陶磁器・中国陶器・近世以降の素焼き土器が出土している。

76～85は近世以降の磁器である。薩摩磁器・肥前焼・中国産磁器が含まれる。86・87は青磁である。88は近代以降の磁器である。形態から錘ではないかと推定される。89～106は近世以降の陶器である。苗代川焼・龍門司焼・肥前焼・関西系陶器が含まれる。107・108は須恵器の杯蓋である。109は土師器皿である。110は甑の底部である。古墳時代～古代のものと考えられる。111・112は古墳時代の土器である。113は土錘である。

３層出土遺物（Fig.31）

３層出土遺物は3a層と3b層に分層して取り上げたものと、３層一括で取り上げた遺物がある。３層出土遺物は、縄文土器・弥生土器・古墳時代の土器・須恵器・土師器・土錘・青磁・近世以降の陶磁器・近世以降の磁器・製鉄関係遺物・ガラスが出土している。3a層出土遺物の種類の傾向はほぼ３層出土のものと同様である。

115はガラス瓶である。116は近代の磁器である。117は磁器である。118～122は青磁である。123・124は陶器で、123は苗代川焼である。125～128は古代土師器である。129～132は弥生時代～古墳時代の土器である。133は沈線文を施す縄文土器である。134・135は須恵器で、古墳時代～古代初頭のものである。136は土錘である。137は、表面がガラス化した素焼き片で製鉄関係遺物ではないかと推定される。

3b層出土遺物（Fig.32）

弥生土器・古墳時代の土器・土師器・土錘・古銭・近世以降の陶器・製鉄関係遺物が出土しているが、3a層以上の出土状況に比べると、近世以降の遺物の量が激減している。

138～142は磁器で、肥前焼・青磁・白磁がある。143は関西系陶器である。144～146は土師器である。147～151は古墳時代の土器である。152は免田式長頸壺の胴部であると推定される。153～155は弥生時代中期の土器片である。153は山ノ口式系、154・155は黒髪式系である。156・157は土錘である。158は古銭の寛永通宝である。

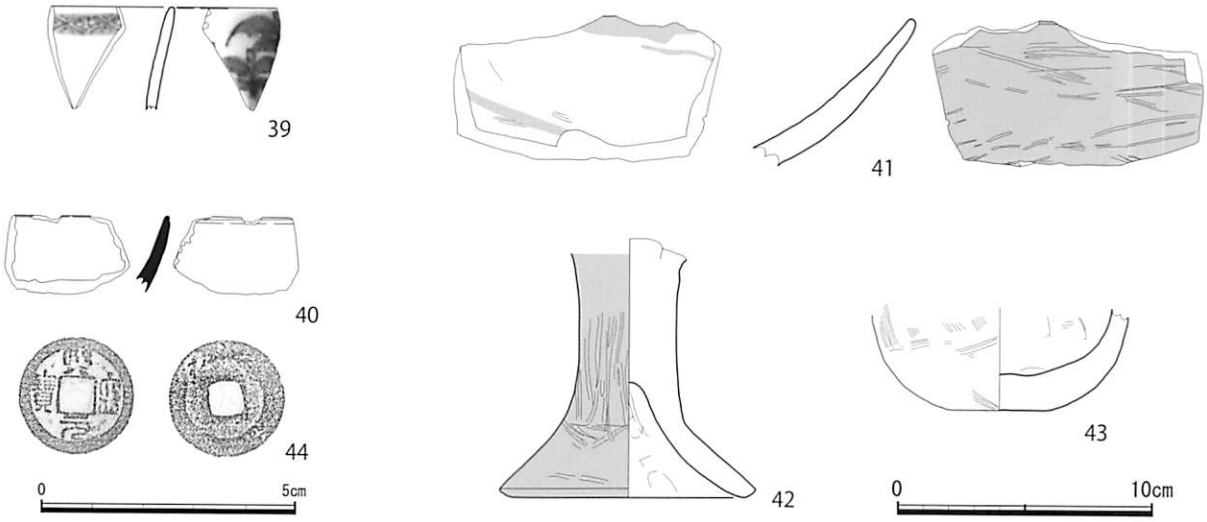


Fig.27　表土出土遺物　S=1/3　44のみ2/3

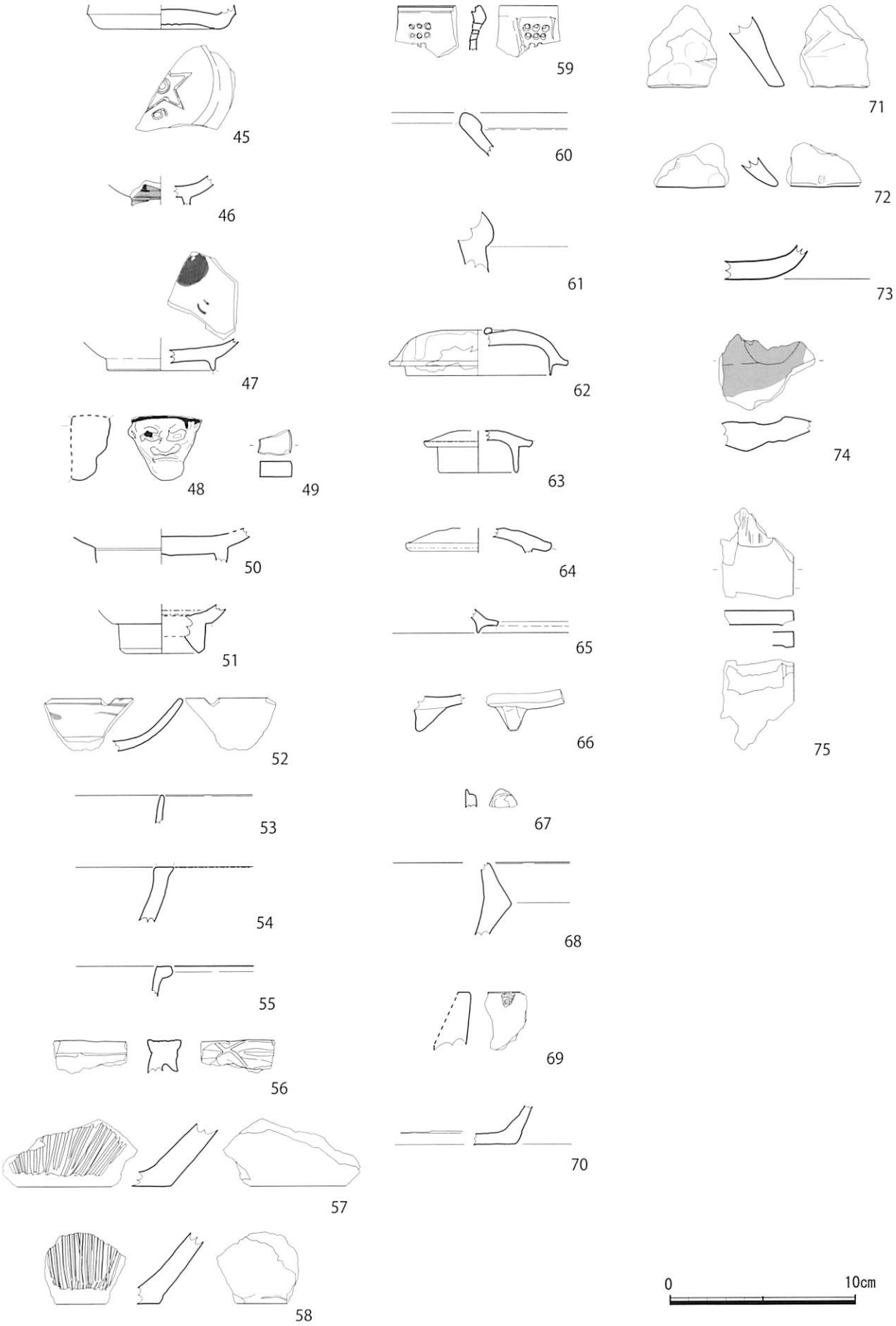


Fig.28　2a 層出土遺物　S=1/3

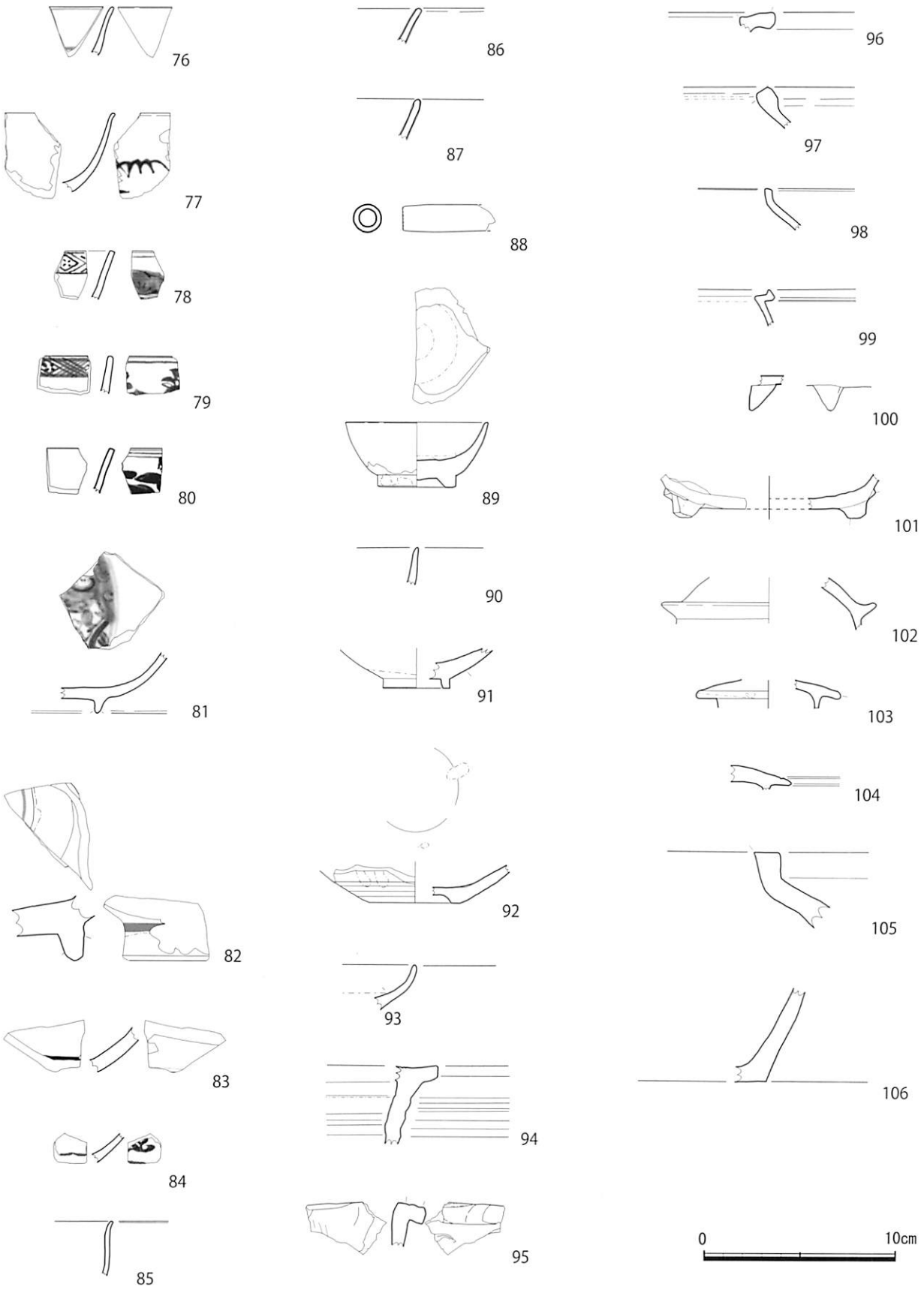


Fig.29　2b 層出土遺物（1）　S=1/3

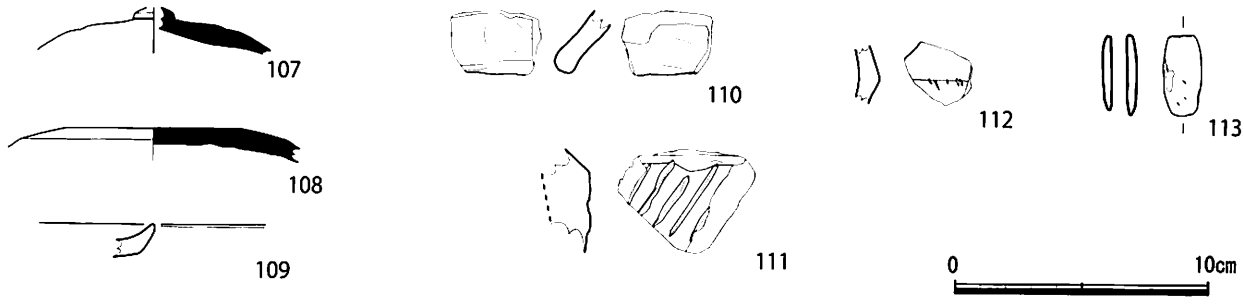


Fig.30　2b 層出土遺物（2）　S=1/3

4a層出土遺物（Fig.33）

近世以降の陶磁器・縄文土器・弥生土器・古墳時代の土器・土師器が出土している。近世以降の遺物も出土しているが、ごく少量である。

159・160は陶器で、加治木・姶良系と琉球焼である。161は土師器椀の底部である。162は須恵器の底部で、161とともに古代の遺物である。163 ～ 166は古墳時代の土器である。167 ～ 169は縄文時代晩期の土器である。167は黒川式の浅鉢、168・169は突帯文土器で、169には孔列文が施されている。

4b層出土遺物（Fig.34）

古代土師器・縄文土器・弥生土器・古墳時代の土器・石斧が出土している。

170・171は古代土師器である。172 ～ 181は古墳時代の土器である。172 ～ 176・181は東原式か辻堂原式古段階のものである。177 ～ 180は辻堂原式か笹貫式である。182・183は弥生時代後期の壺だが、182は胎土や色調の雰囲気が本遺跡出土の弥生土器とは異なっており、外来系であると思われる。185・186は縄文時代晩期である。185は孔列文を施す。187は石斧の基部である。

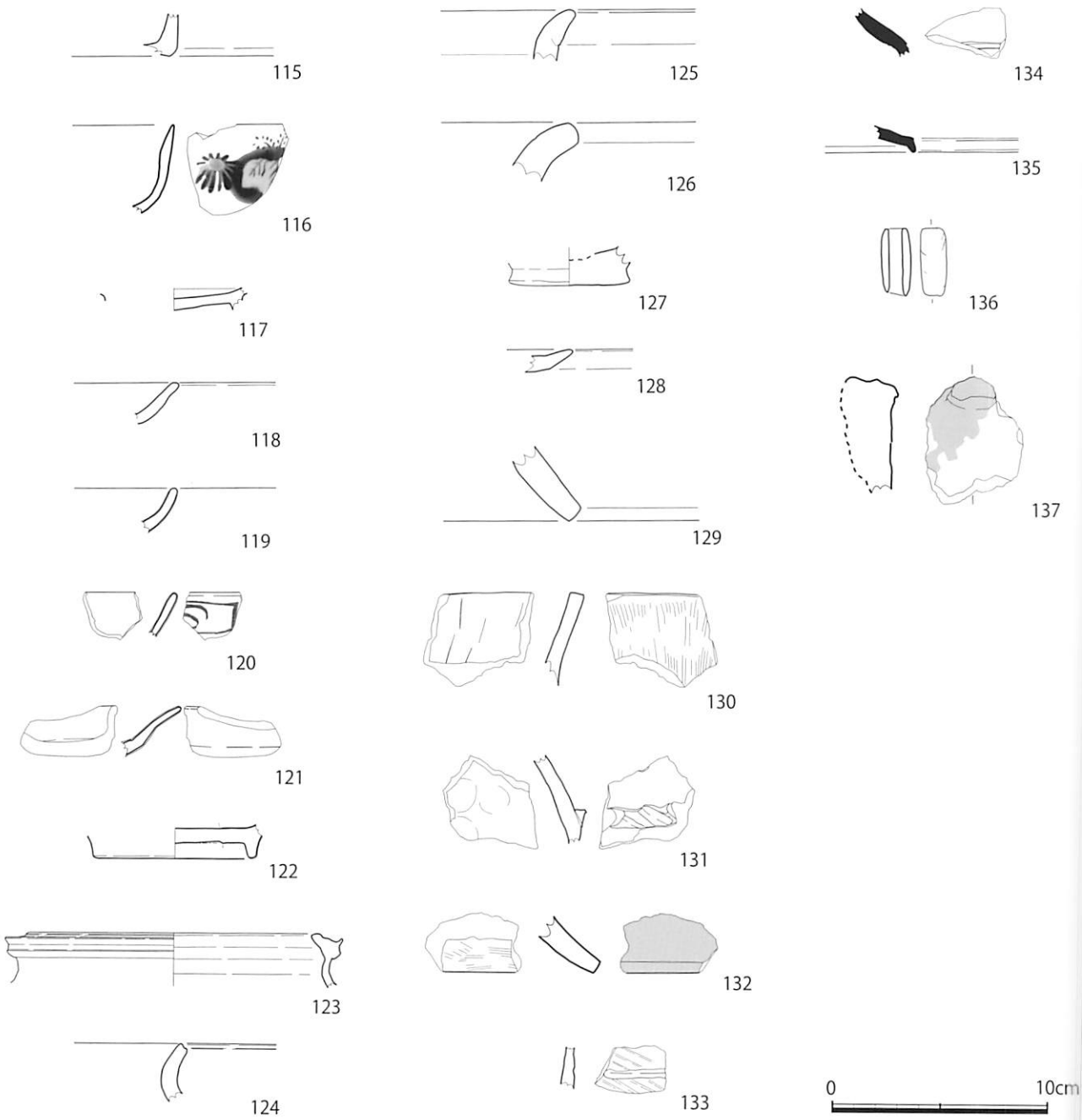


Fig.31　3 層出土遺物　S=1/3

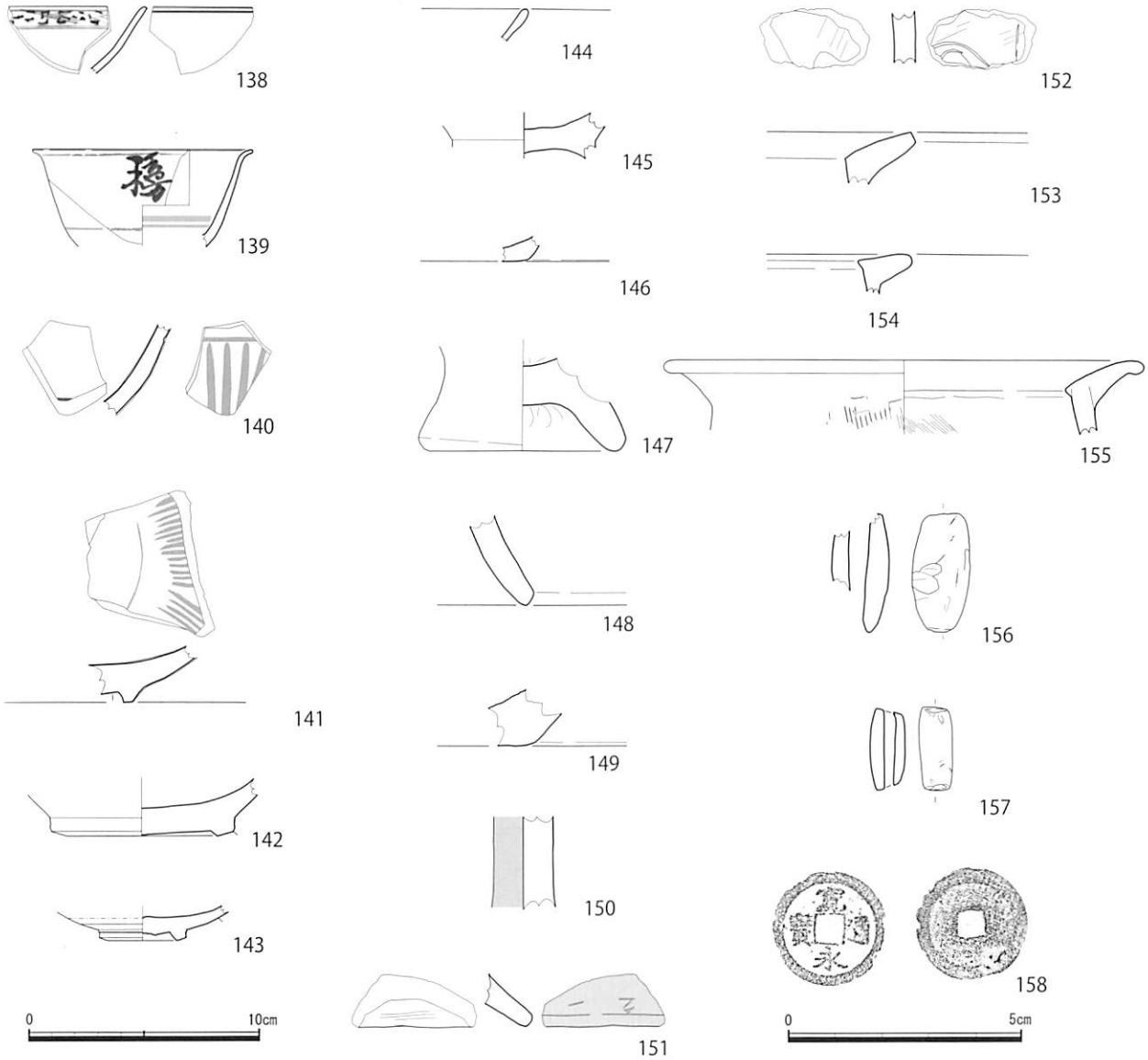


Fig.32　3b 層出土遺物　S=1/3　158 のみ S=2/3

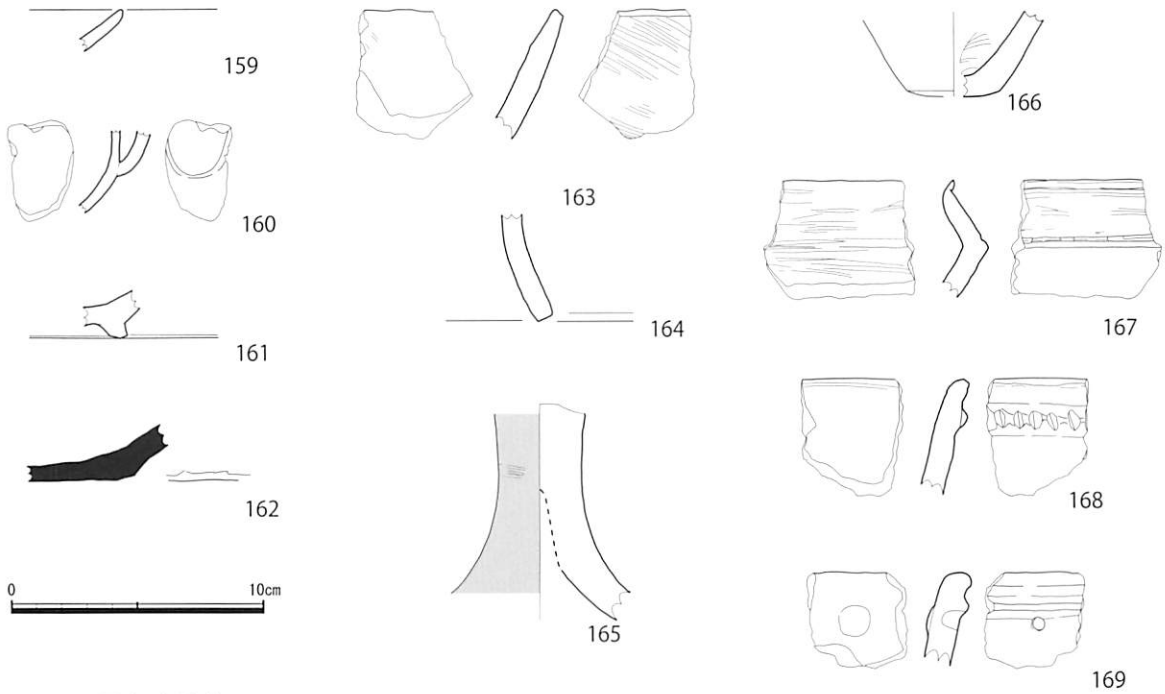


Fig.33　4a 層出土遺物　S=1/3

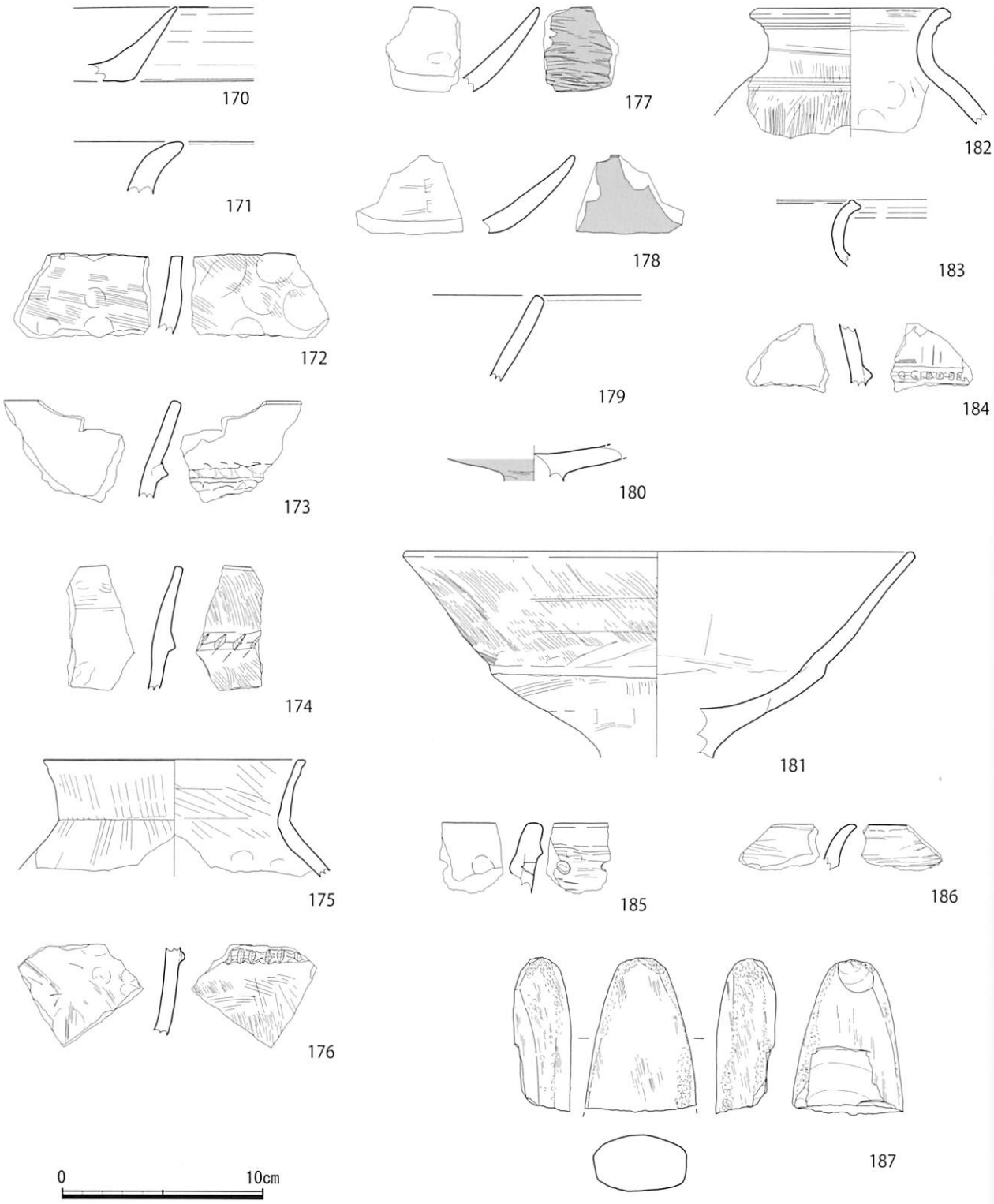
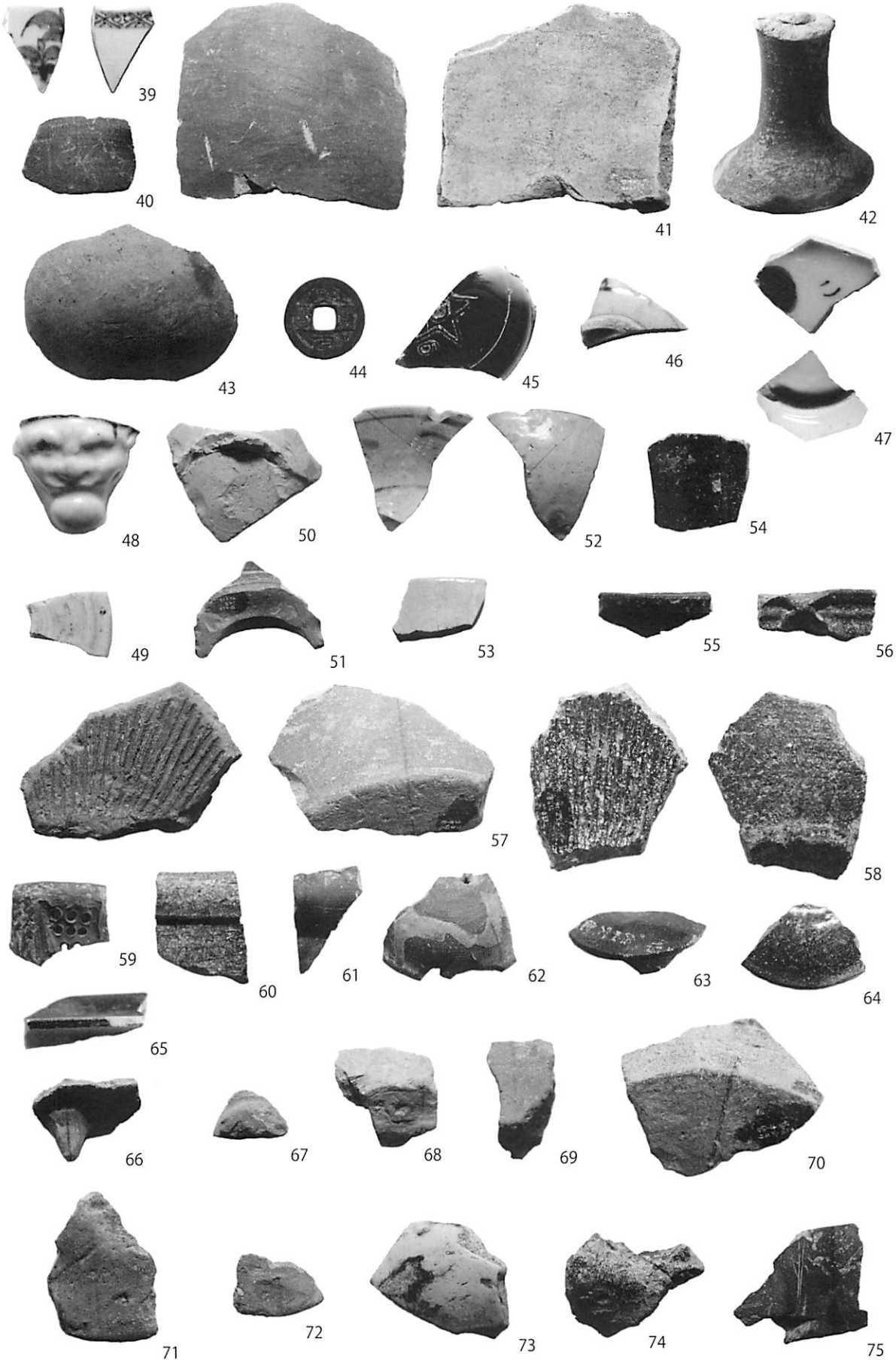
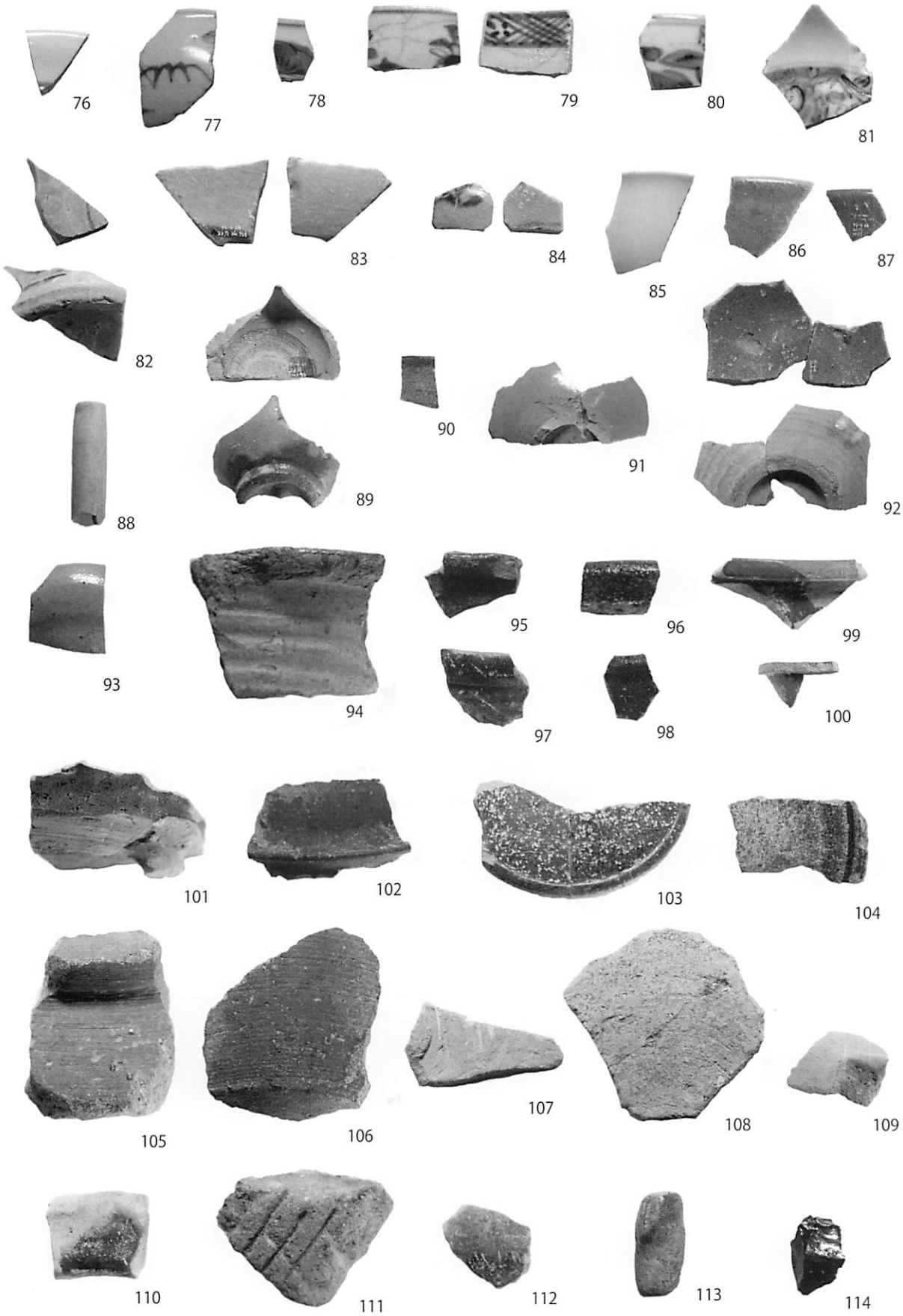


Fig.34　4b 層出土遺物　S=1/3

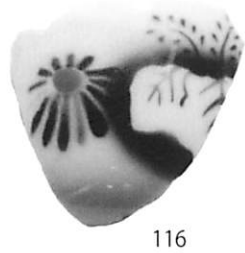


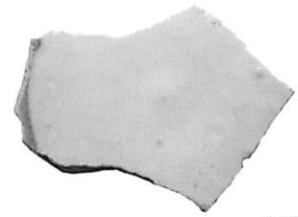
PL.12　表土・2a 層出土遺物



PL.13　2b 層出土遺物

115


116


117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

137

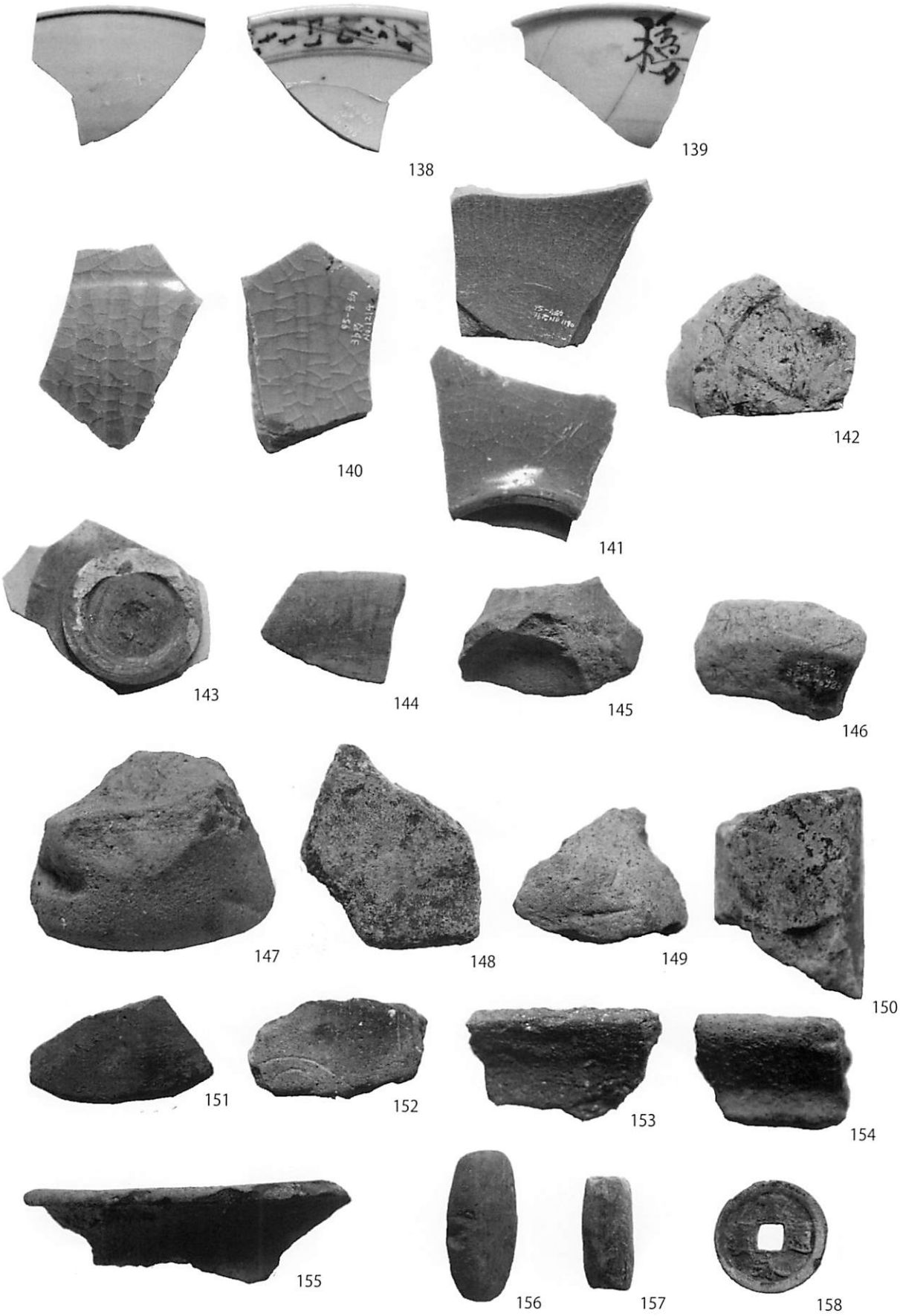
133

134

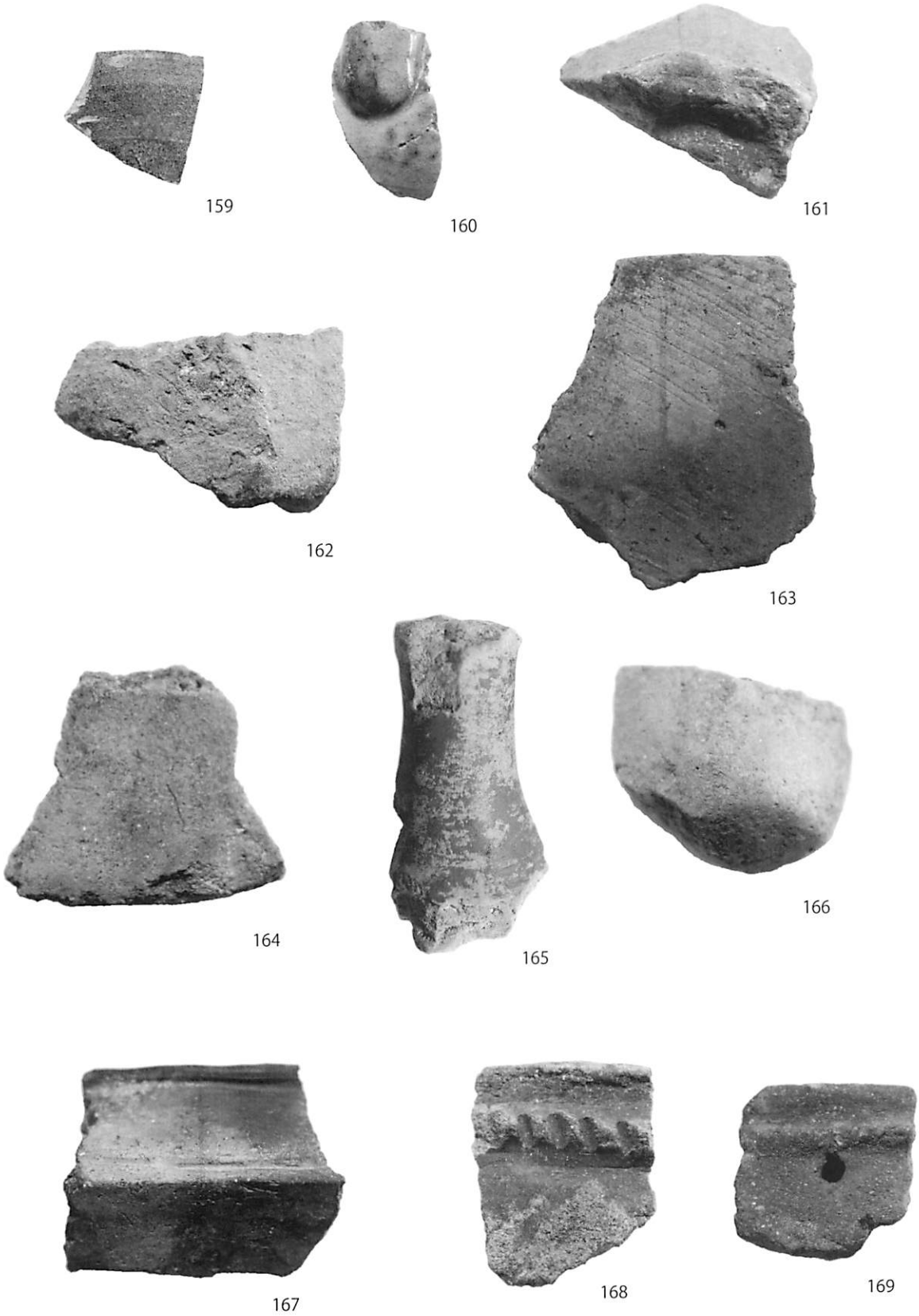
135

136

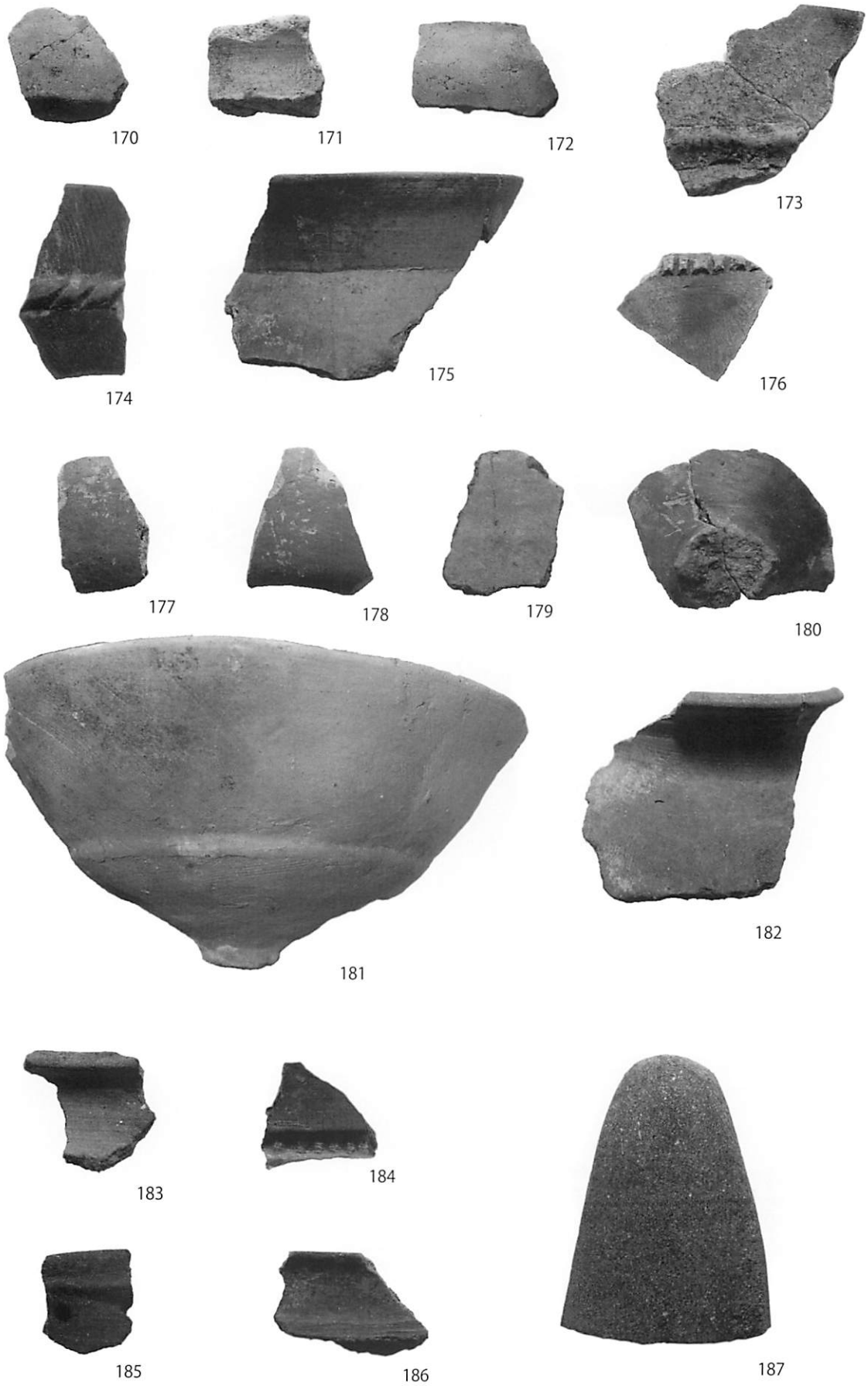
PL.14　３層出土遺物



PL.15　3b 層出土遺物



PL.16　4a 層出土遺物



PL.17　4b 層出土遺物

Tab. 1　遺物観察表（1）

番号	区	層	種別	器種	部位	色調（釉調）	砂粒の多さ	胎土	調整	備考
1	SD6	①	陶器	皿	口縁部	5 Y 4/2 灰オリーブ色，不透明釉，胎土：2.5 Y R 4/1 赤灰色	1		全面施釉，内面施文：トビガンナ	龍門司焼
2	SD6	①	古墳	高杯か坩	口縁部	外面：10 R 4/6 赤色，内面：10 Y R 7/6 明黄褐色	不明	不明	外面：横方向のミガキ，内面：ナデ？	外面：赤色顔料塗布
3	SD7		陶器	碗	底部	外面・内面：10 Y R 2/2 黒褐色釉，高台：透明釉	1	白色粒	ロクロ引き	加治木焙良系，18 世紀，底径 4.5cm
4	SD1	①	須恵器	杯	蓋	N 6/ 灰色	2	白色粒	外面：ケズリ，内面：ナデ	
5	SD2	①	土師器		口縁部	7.5 Y R 8/6 浅黄橙	2	白色粒，赤色粒	ナデ？	摩滅している
6	SD3	①	土師器	杯	底部	10 Y R 8/2 灰白色	1		底面：ヘラケズリ	古代，底径（4.7）cm
7	SK9	①	古墳	甕	胴部	外面：黒色，内面：7.5 Y R 5/4 にぶい褐色	4	石英，角閃石，白色粒	外面：ナデ，内面：　ハケ？のちナデ	笹貫式
8	SK9	①	弥生か古墳	甕	底部	外面：10 Y R 7/2 にぶい黄橙色，内面：鉄分付着のため不明	3	石英，角閃石，軽石，白色粒，赤色粒，		弥生時代終末期以降
9	SK9	①	古墳	高杯	脚部	杯部内面：7.5 Y R 8/6 浅黄橙色，外面：10 R 5/6 赤色	2	石英，白色粒，赤色粒	外面：ミガキ，杯部内面：ナデ	外面：赤色顔料塗布
10	SK10	①	弥生	壺	口縁部	外面口縁部：5 Y R 6/6 橙色，外面頸部：7.5 Y R 6/6 橙色，内面：10 Y R 8/2 灰白色	2	石英，赤色粒，灰色粒	外面：ヨコナデ，内面：ナデ	外面口縁部：赤色顔料塗布，瀬戸内系
11	SK11	①	古墳	甕	口縁部	外面：（スス付着により）黒色，内面：内面：7.5 Y R 5/1 褐灰色	3	石英，白色粒	外面：ナデ，内面：ハケのちナデ	外面：スス付着
12	SK11	③	古墳	甕	口縁部	外面：10 Y R 4/2 灰黄褐色，内面：10 Y R 6/3 にぶい黄橙色	3	石英，角閃石，白色粒	外面：ハケのち横方向の工具によるナデ，刻み：ハケ工具による，内面：ナデ，爪痕あり	外面：スス付着
13	SK13		古墳	甕	口縁部～胴部	外面：10Yr8/4 浅黄橙，内面：7.5YR6/6 橙色	3	石英，赤色粒，白色粒	ハケのちナデ	
14	SK13	①	古墳	甕	口縁部	外面：7.5YR7/3 にぶい橙色～10YR8/4 浅黄橙色，内面：5YR6/6 橙色	3	石英，白色粒，灰色粒	外面：口縁部付近は横方向のナデ，他ナデ，内面：横方向のハケのちナデ	外面：スス付着
15	SK13	①	古墳	甕	口縁部付近	7.5YR6/6 橙色，外面下部はススのため黒色	3	石英，赤色粒，礫	外面：横方向のハケのちナデ，刻み：ハケ具による，内面：板状工具による調整のちナデ	外面：スス付着
16	SK13・SK11	①・②	古墳	甕	口縁部～胴部	外面口縁部：7.5YR4/1 黒褐色～黒色，外面胴部：にぶい黄褐色 10YR5/4，内面口縁部：にぶい黄褐色 10YR6/4，内面胴部上半：10YR3/1 黒色	3	石英，角閃石，赤色粒，白色粒，灰色粒	外面：ハケのち横方向の工具によるナデ，胴部下半：ハケのち粗い縦方向のミガキ，内面：板状工具による調整のちナデ	東原式？口径（27.1）cm，外面：スス付着
17	SK13	①	古墳	甕	胴部下半	外面：5YR6/6 橙色．，内面：7.5YR6/6 橙色	4	石英，角閃石，赤色粒，白色粒，灰色粒	ハケのちナデ	
18	SK13		弥生	甕	口縁部～胴部	外面：7.5YR3/1 黒褐色，内面口縁部：7.5YR3/1 黒褐色，内面胴部：5YR5/4 にぶい赤褐色	2	石英，白色粒，赤色粒	外面：ハケのちナデ，内面：板状の工具による調整のちナデ	中津野式，口径（24.3）cm
19	SK13	①	古墳	高杯	脚部	7.5YR7/6 橙色	3	石英，白色粒，赤色粒	摩滅のため不明	脚径（15.7）cm
20	SK13	①	弥生か古墳	壺	口縁部	外面：10Yr8/4 浅黄橙色，内面：7.5YR7/4 にぶい橙色	3	石英，赤色粒，白色粒	外面：口縁部近くは横方向のハケ，頸部は縦方向の細かいハケ，内面：ハケのちナデ	口径（11.6）cm
21	SK13・SK14	4b・①	古墳	甕	胴部	外面：10YR6/3 にぶい黄橙色，ほとんどスス付着のため黒色，内面：7.5YR6/4 にぶい橙色	3	石英，赤色粒，白色粒	外面：スス付着のため不明，刻みはハケ具による，内面：ハケのちナデ	外面：スス付着
22	SK13	①	古墳		口縁部	10YR8/4 浅黄橙色	3	石英，角閃石，白色粒，礫	外面：ハケのちナデ，内面：ナデ	
23	SK13	①	古墳	高杯	脚部	7.5YR7/6 橙色	2	石英，白色粒	外面：ハケのち丁寧なナデ，外面：ナデ	
24	SK13	①	古墳	高杯	杯部	外面：2.5YR6/8 橙色，内面：10YR7/4 にぶい黄橙色	2	石英、赤色粒	ハケのちナデ	
25	SK13	①	古墳	高杯	脚部	10YR7/4 にぶい黄橙色	2	石英，白色粒，赤色粒	外面：ハケのちナデ，内面上部：掠過痕	
26	SK14	①	古墳	甕	口縁部～胴部	外面：10 Y R 4/2 灰黄褐色，内面：7.5 Y R 6/4 にぶい橙色	3	石英，白色粒，赤色粒	外面：ナデ？（スス付着のため不明），内面：ハケのちナデ	外面：スス付着
27	SK14	①・②	古墳	甕	口縁部～胴部	外面：2.5 Y R 5/3 にぶい赤褐色，内面：7.5 Y R 6/6 橙色	3	石英	外面：ナデ，内面：ハケのちナデ	外面：スス付着
28	SK14	①	弥生か古墳	甕？	胴部	10 Y R 7/4 にぶい黄橙色	2	石英，白色粒	外面：ハケ，内面：ハケのちナデ	外面：スス付着
29	SK14	②	古墳	甕	底部	7.5YR6/4 にぶい橙色	3	石英，白色粒	外面：縦方向の粗いハケ，内面：ナデ	
30	SK14	②	古墳	甕	底部	7.5YR6/4 にぶい橙色	4	石英，白色粒，礫	外面：細かいハケのちナデ，脚部との接合部で欠損 内面：ナデ	
31	SK14	①	古墳	高杯	口縁部	外面：2.5YR6/6 赤褐色，内面：2.5YR7/6 橙色	2	白色粒	外面：横方向のミガキ，内面：ナデ	外面：赤色顔料塗布
32	SK14	①	古墳	高杯	口縁部	外面：2.5YR5/6 明赤褐色，内面：10YR8/4 浅黄橙色	2	石英，白色粒	外面：横方向の細かいミガキ，内面：横方向のナデ	外面：赤色顔料塗布
33	SK14	②	古墳	坩	底部	外面・底面：10 R 4/6 赤色，内面：10 Y R 7/4 にぶい黄橙	2	石英，白色粒	外面・底面：細かいミガキ，内面：ナデ	外面・底面：赤色顔料塗布
34	SK14	②	古墳	壺	胴部	7.5 Y R 6/6 橙色	3	石英，白色粒	ナデ	
35	SK13・SK14	①・②	弥生か古墳	壺？	胴部	外面：2.5 Y 3/1 黒褐色，7.5 Y R 5/2 灰褐色	3	石英，白色粒，赤色粒	外面：ハケ，内面：板状工具による調整のちナデ	

Tab. 2　遺物観察表（2）

番号	区	層	種別	器種	部位	色調（釉調）	砂粒の多さ	胎土	調整	備考
36	SD5	①	縄文	深鉢	胴部	外面：10 Y R 6/2 灰黄褐色，内面：黒色	3	石英，白色粒	横方向のミガキ	
37	SD19	①	古墳	甕	口縁部	10YR7/2 にぶい黄橙色	3	石英，白色粒，灰色粒	ハケ？のちナデ	笹貫式
38	P I 8		縄文		胴部	外面：2.5 Y 7/2 灰黄色，内面：2.5 Y 4/1 黄灰色	3	石英，白色粒	外面：ナデ，沈線による施文，内面：ケズリ	晩期か
39		表土	染付	半筒碗	口縁部	+	1		染付け	肥前焼
40	東区	カクラン	須恵器		口縁部	内外面：5Y6/1 灰色，胎土：N6/ 灰色	1	白色粒	回転ナデ	
41	東区	カクラン	古墳	高杯	口縁部	外面：2.5YR4/4 にぶい赤褐色，内面：10YR8/3 浅黄橙色	2	白色粒，石英	外面：主に横方向のミガキ，内面：ハケのちナデ	外面：赤色顔料塗布，内面：赤色顔料付着
42	東区	カクラン	古墳	高杯	脚部	外面：10R4/6 赤色，内面：N4/ 暗灰色，胎土：10YR7/4 にぶい黄橙色	2	石英，赤色粒	外面屈曲部より上部：縦方向のミガキ，外面屈曲部より下部:横方向のミガキ，内面上部:ユビナデ，内面下部：ハケのちナデ	脚径 10.2cm，外面：赤色顔料塗布，杯部との接合部で欠損
43	東区	カクラン	古墳	壺	底部	外面：10YR7/4 にぶい黄橙色，一部黒斑のため暗灰色，内面：10YR8/2 灰白色	2	石英，赤色粒，白色粒	外面：ハケのちナデ，内面：板状の工具によるナデ	
45		2a	ガラス	瓶	底部	7.5 Y R 2/3 極暗褐色				底径（8.5）cm
46		2a	染付	碗	底部	釉調：青みを帯びた透明釉，磁胎：明灰白色	1		全面施釉	
47		2a	染付	皿	底部	釉調：青みを帯びた透明釉，磁胎：灰白色	1		高台畳付け部のみ無釉	肥前焼　底径（6.0）cm
48		2a	染付		獣面脚	釉調：青みを帯びた透明釉，磁胎：明灰白色	1		表面施釉	明治以降
49		2a	磁器	戸車		釉調：透明釉，磁胎：白色	1		回転ナデ，上面と下面：無釉	近世以降
50		2a	白磁	碗	底部	釉調：緑味を帯びた透明釉，磁胎：N 7/ 灰白色	1	白色粒	内面：施釉，他：無釉	底径 5.1cm
51		2a	陶器	碗	底部	釉調：7.5 Y R 4/3 褐色，胎土：5 Y R 6/4 にぶい橙色	1		内面見込：環状に無釉，高台：無釉	加治木焙良系，底径 4.2cm
52		2a	染付	碗	口縁部	釉調：透明釉，口唇部のみ 2.5 Y R 6/3 にぶい橙色，呉州 2.5 G Y 6/1 オリーブ灰色，磁胎：N 7/ 灰白色	1		施釉	波佐見焼
53		2a	陶器	碗か杯か皿	口縁部	釉調：5 Y 7/1 灰白色不透明，胎土：7.5 Y R 5/2 灰褐色	1	白色粒	施釉	薩摩司　18 世紀後半～ 19 世紀　白化粧土あり
54		2a	陶器	鉢	口縁部	釉調：5 Y 3/2 オリーブ黒色不透明，胎土：N 6/ 灰色	2	白色粒	口縁部上面:無釉，その他施釉，回転ナデ	苗代川焼
55		2a	陶器	鉢	口縁部	釉調:5 Y R 3/1 暗褐色不透明釉，胎土:2.5 Y R 6/6 橙色	1	白色粒	施釉	
56		2a	陶器	甕	口縁部	釉調：7.5 Y R 3/2 黒褐色半透明釉，胎土：5 Y R 5/3 にぶい赤褐色	2	石英，灰色粒	口縁部上面：無釉	苗代川焼　18 世紀以降
57		2a	陶器	擂鉢	底部	釉調：5 Y R 5/1 褐灰色不透明，胎土：2.5 Y R 7/4 淡赤褐色	1		全面施釉，内面：カキ目	苗代川焼，18 ～ 19 世紀
58		2a	陶器	擂鉢	底部	釉調：5 Y 4/2 灰色，半透明，胎土：N 6/ 灰色	3	白色粒	内・外面：施釉，底面：無釉，内面：カキ目	苗代川焼，18 ～ 19 世紀
59		2a	素焼	香炉	口縁部	10 R 4/4 赤褐色	1			
60		2a	陶器	山茶家	口縁部	釉調：10 G Y 4/1 暗緑灰色，半透明，胎土：2.5 G Y 3/1 暗オリーブ灰色	1	白色粒	口縁部上面：無釉	苗代川焼
61		2a	陶器	大壺	口縁部	釉調：2.5 Y R 3/1 暗赤灰色半透明釉，胎土:2.5 Y R 5/1 赤灰色（多い）と 2.5 Y R 5/3 にぶい橙色（少ない）が縞状に混ざる	1	白色粒		琉球焼
62		2a	陶器		蓋	釉調:7.5 Y R 4/2 灰褐色半透明，一部 7.5 Y 6/2 灰オリーブ色，胎土：N 3/ 暗灰色	1	白色粒	内面：無釉	径（10.2）cm
63		2a	陶器	土瓶	蓋	釉調:7.5 R 3/4 暗赤色半透明，胎土:2.5 Y R 4/1 赤灰色	2	白色粒	内面：無釉	苗代川焼　18 世紀後半以降　径（6.2）cm
64		2a	陶器	土瓶	蓋	釉調：10 Y R 4/3 にぶい黄褐色不透明，胎土：2.5 Y R 6/4 にぶい橙色	1	白色粒	内面：無釉	苗代川焼，18 世紀後半以降，径（8.3）cm
65		2a	陶器		蓋	釉調:2.5 Y 4/6 オリーブ褐色不透明釉，胎土：2.5 Y 7/1 灰白色	1		内面：無釉	
66		2a	陶器	土瓶	底部	釉調：10 Y R 4/3 にぶい黄褐色不透明，胎土：2.5 Y R 6/4 にぶい橙色	2	白色粒	ナデ	苗代川焼　18 世紀後半
67		2a	素焼	泥面子？		2.5 Y R 7/6 橙色	1	白色粒，黒色粒	型作り	
68		2a	陶器	擂鉢	口縁部	10 R 6/6 赤橙色	2	白色粒	回転ナデ	備前焼
69		2a	瓦器		口縁部	2.5 Y 6/4 黄灰色	2	赤色粒，灰色粒	外面：スタンプ文	
70		2a	須恵器		底部	N 5/ 灰色	2	白色粒	ナデ	古代
71		2a	古墳	甕	底部	10 Y R 7/2 にぶい黄橙	3	石英，角閃石，白色粒，赤色粒	板状の工具による調整のちナデ	
72		2a	古墳		底部	2.5 Y 6/2 灰黄色	3	石英，白色粒，黒色粒	ハケのちナデ	
73		2a	古墳	坩	底部	7.5 Y R 8/3 浅黄橙色	2	赤色粒	摩滅のため不明，ナデ？	
74		2a	フイゴ口？			上面：2.5 Y 5/1 黄灰色，一部表面がガラス化している，下面：2.5 Y R 7/4 にぶい橙色	1	白色粒	不明	表面の一部ガラス化
76		2 b	染付	小杯	口縁部～胴部	釉調：青みを帯びた透明釉，磁胎：白色	1		内面：呉須による圏線	肥前か
77		2 b	染付	碗	口縁部～胴部	釉調：青みを帯びた透明釉，磁胎：灰白色	1		外面：呉須による施文	薩摩磁器

Tab. 3　遺物観察表（3）

番号	区	層	種別	器種	部位	色調（釉調）	砂粒の多さ	胎土	調整	備考
78		2 b	染付	碗	口縁部	釉調：青みを帯びた透明釉，磁胎：灰白色	1		内外面：呉須による施文	
79		2 b	染付	半筒碗 +H103	口縁部	釉調：透明釉，磁胎：褐色がかった灰白色	1		内外面：呉須による施文	肥前
80		2 b	染付	碗	口縁部	釉調：青みを帯びた透明釉，磁胎：灰白色	1		外面：呉須による施文	
81		2 b	染付	皿	胴部～底部	釉調：青みを帯びた透明釉	1		内面：染付け文様，高台畳付け部：無釉	肥前焼
82		2 b	染付	大皿か盤	底部	釉調：7.5GY8/1 明緑灰色味を帯びる，半透明，磁胎：N8/ 灰白色	1	白色粒	ロクロ仕上げ	中国産か
83		2 b	青磁染付	碗か皿	胴部	釉調：2.5GY7/1 明オリーブ灰色を帯びる半透明釉，磁胎：明灰白色	1	白色粒	内外面：呉須による施文	中国産か
84		2 b	青磁染付	碗か皿	胴部	釉調：2.5GY7/1 明オリーブ灰色を帯びる半透明釉，磁胎：明灰白色	1	白色粒	内外面：呉須による施文	中国産か
85		2b	磁器	小杯	口縁部	釉調：透明釉，白色	1		内外面：施釉	
86		2b	青磁	碗	口縁部	釉調：2.5GY7/1 明オリーブ灰色を帯びる半透明釉，磁胎：明灰白色	1		施釉	青磁
87		2 b	青磁	碗	口縁部	釉調：2.5GY7/1 明オリーブ灰色を帯びる半透明釉	1	白色粒	施釉	青磁
88		2 b	磁器	鍋？		釉調：7.5GY7/1 明緑灰色，不透明釉，磁胎：白色	1			長さ 4.9 + α cm，幅 1.4cm，重さ 8.79g
89		2 b	陶器	碗	底部	釉調:5Y7/2 灰白色，不透明釉，2.5Y6/1 黄灰色に類似	1	白色粒	ロクロ，内面見込：環状に無釉	龍門司焼，18 世紀後半～ 19 世紀，口径 7.8cm，底径 4.4cm，器高 3.4cm
90		2 b	陶器	碗か杯か皿	口縁部	釉調:2.5Y6/6 明黄褐色，不透明，胎土：5YR5/3 にぶい赤褐色	1	白色粒	ロクロ	龍門司　18 世紀後半～ 19 世紀
91		2 b	陶器	碗	底部	釉調：透明釉，胎土：2.5Y8/2 灰白色	1	白色粒	外面高台付近：無釉	関西系，底径 3.6 c m
92		2 b	磁器	皿	底部	釉調：5Y6/3 オリーブ黄色，半透明釉，胎土：5YR6/6 橙色	1	白色粒、灰色粒	回転ナデ	肥前焼，16 世紀末～ 17 世紀初頭，底径（5.0）cm，内面に胎土目あり
93		2b	陶器	小杯？	口縁部	釉調：7.5Y7/1 灰白色，不透明，胎土：7.5YR6/4 にぶい橙色	1	白色粒	ロクロ	龍門司焼
94		2 b	陶器	甕	口縁部	釉調：7.5Y7/1 灰白色，不透明，胎土：5Y5/1 灰色と 5YR6/4 にぶい橙色	1	白色粒	ロクロ	苗代川焼，18 世紀以降
95		2 b	陶器	擂鉢	口縁部	釉調：5 Y4/2 灰オリーブ色，半透明釉，胎土：5YR5/3 にぶい赤褐色	1		口縁部上面：無釉	苗代川焼
96		2 b	陶器	鉢	口縁部	釉調：7.5Y3/1 オリーブ黒色を基調とした半透明釉，内面：7.5YR4/1 褐灰色	1	白色粒	内面：無釉	苗代川焼
97		2 b	陶器	土瓶	口縁部	釉調：2.5GY3/1 暗オリーブ灰色，半透明，胎土：7.5YR4/2 灰褐色	1		口唇部と内面の一部が無釉	苗代川焼，18 世紀後半以降
98		2 b	陶器	土瓶	口縁部	釉調：2.5GY3/1 暗オリーブ灰色，半透明，胎土：7.5YR4/2 灰褐色	1		口唇部と内面の一部が無釉	苗代川焼，18 世紀後半以降
99		2 b	陶器	土鍋	口縁部	釉調:5YR3/2 暗赤褐色，不透明釉，胎土：10YR7/1 灰白色	1	白色粒	外面一部・内面下部：施釉	関西系
100		2 b	陶器	土瓶	底部	5YR5/3 にぶい赤褐色	1	白色粒，石英	ナデ	苗代川焼，18 世紀後半以降
101		2 b	陶器	碗	底部	釉調:あざやかな緑色，半透明釉，胎土：10YR8/2 灰白色	1	灰色粒	回転ナデ，外面・脚一部：施釉	関西系，19 世紀か
102		2b	陶器	壺？	蓋	外面：5Y5/2 灰オリーブ色を基調とした半透明釉，5YR5/2 灰褐色	1	白色粒	内面：無釉	苗代川焼，18 ～ 19 世紀
103		2 a・2 b	陶器	土瓶	蓋	釉調：7.5YR4/3 褐色に黄色味を帯びる半透明釉，内面：5YR6/3 にぶい橙色	1	白色粒	内面：無釉	苗代川焼　18 世紀後半以降
104		2 b	陶器	土瓶	蓋	釉調：5Y4/2 灰オリーブ色，半透明，胎土：5YR5/2 灰褐色～暗灰色	1		ロクロ，外面のみ施釉	苗代川焼　18 世紀後半以降
105		2 b	陶器	不明	口縁部	釉調：5 Y4/2 灰オリーブ色，半透明釉，胎土：5YR5/3 にぶい赤褐色	1	白色粒	外面：釉のふき取り，内面：施釉	
106		2 b	陶器		底部	2.5YR5/2 灰赤色	1	白色粒	回転ナデ，櫛目	
107		2 b	須恵器	杯	蓋	5 Y6/1 灰色	1	白色粒	外面上部：ケズリ？他：ナデ	
108		2 b	須恵器	杯	底部？	2.5Y7/1 灰白色，外面下部に 2.5GY3/1 暗オリーブ灰色（自然釉）	2	白色粒	外面上部：ケズリ，他：ナデ	径（6.6）cm，外面下部：自然釉付着
109		2 b	土師器	皿	口縁部～底部	7.5YR6/4 にぶい橙色，一部灰色（黒斑）	1	白色粒	回転ナデ	
110		2 b	古墳か古代	瓶	底部	外面:10YR8/1 灰白色と黒灰色（黒斑），内面：10YR7/1 灰白色	1	白色粒	ナデ	
111		2 b	古墳	壺	胴部	7.5YR6/4 にぶい橙色	3	石英，角閃石，礫，白色粒	外面：ナデ	内面：鉄分付着のため詳細不明，外面：沈線文による施文
112		2 b	古墳	高杯か鉢	胴部	外面：2.5Y4/1 黄灰色，内面：10YR8/2 灰白色	1	白色粒	ナデ	外面屈曲部：細沈線による刻み
113		2 b	素焼	土錘		2.5Y7/2 灰黄色	2	石英，角閃石，白色粒	ナデ	長さ 3.2cm，幅 1.6cm，重さ 6.04g，外面に斜め方向の擦過痕あり
115		3	ガラス	瓶？	底部	紫色がかった透明色				
116		3 ?	染付	碗	口縁部	釉調：透明釉，磁胎：白色	1		施釉，外面：色絵にて施門	明治時代以降
117		3	染付	皿	底部付近	外面：青みを帯びた透明釉，磁胎：N 8/ 灰白色	1	白色粒	施釉，内面：呉須にて文様	
118		3	青磁	碗	口縁部	釉調:7.5 Y 6/2 灰オリーブ色半透明釉，磁胎：N 7/ 灰白色	1		施釉	
119		3	青磁	皿	口縁部	釉調：7.5 Y 4/2 灰オリーブ半透明釉，磁胎：N 7/ 灰白色	1	白色粒	施釉	

Tab. 4　遺物観察表（4）

番号	区	層	種別	器種	部位	色調（釉調）	砂粒の多さ	胎土	調整	備考
120		3	青磁	碗	口縁部	釉調：青緑色，透明釉，磁胎：2.5 Y 7/1 灰白色	1	白色粒	施釉，外面：文様あり	
121		3	青磁	鉢	口縁部	釉調 5 GY6/1 オリーブ灰色不透明，磁胎：5Y7/1 灰白色	1	白色粒	施釉	
122		3	青磁	碗	底部	釉調：2.5 G Y 6/1 オリーブ灰色，胎土：2.5 Y 8/2 灰白色	1	赤色粒	内面見込部・高台天井部：無釉	底径（7.7）cm
123		3	陶器	壺	口縁部	釉調：10 Y R 4/2 灰黄褐色，胎土：5 Y 5/1 灰色	1	白色粒	口縁部上面：無釉	苗代川焼，17 世紀　口径(15.0) cm
124		3a	陶器	鉢？	口縁部	2.5YR6/6 橙色	2	白色粒，黒色粒	回転ナデ	
125		3	土師器	甕	底部	10YR8/4 浅黄橙色	3	石英，灰色粒	外面頸部：ヘラケズリ，他：ヨコナデ	
126		3	土師器	甕	口縁部	10YR6/1 褐灰色	3	石英，白色粒，礫	ヨコナデ	
127		3	土師器	杯	底部	7.5YR7/6 橙色	2	ウンモ，角閃石，白色粒，赤色粒	摩滅のため不明，底面：ヘラケズリ	
128		3	土師器	皿	口縁部	2.5YR6/6 橙色	2	石英，白色粒，赤色粒，黒色粒	ナデ？（摩滅のため不明）	古代以降
129		3	古墳	甕	底部	外面：鉄分着のため不明，内面：2.5 Y 7/2 灰黄色	3	石英，白色粒，赤色粒	外面：不明，内面：ナデ	
130		3	弥生	壺	口縁部	2.5 Y 8/3 淡黄色	2	石英，白色粒	外面：ハケ，内面：板状工具による調整のちナデ	
131		3	弥生か古墳	壺	胴部	外面：2.5Y8/3 淡黄色，内面：7.5YR7/4 にぶい橙色	3	石英，白色粒，赤色粒，黒色粒	ナデ	
132		3	古墳	高杯	脚部	外面：鉄分付着のため不明瞭 2.5 Y R 5/4 にぶい赤褐色，内面：7.5 Y R 5/2 灰褐色	2	石英，黒色粒	外面：ミガキ？，内面：ハケのちナデ	外面：赤色顔料塗布
133		3	縄文		胴部	胎土：7.5YR5/1 褐灰色，内外面：鉄分付着のため不明	不明	不明	外面：貝殻条痕，沈線文	
134		3	須恵器	ハソウ	胴部	内外面：N 7/ 灰白色，胎土：5YR6/1 褐灰色	2	白色粒	ナデ	
135		3	須恵器	杯蓋		5 Y7/1 灰白色	1		回転ナデ	
136		3	素焼	土錘		10 Y R 7/3 にぶい黄橙色類似	2	石英，白色粒	ナデ？	長さ 3.2cm，幅 1.4cm，重さ 5.49g
137		3	フイゴ口？			外面：5 Y 7/1 灰白色，一部ガラス化し黒色，胎土内部は赤化している	1	石英		
138		3 b	染付	碗	口縁部	釉調：青みがかかった透明釉，磁胎：白色	1		外面・内面に呉須による施文	肥前か？
139		3 b	染付	碗	口縁部～胴部	釉調：青みがかった透明釉，磁胎：白色	1		外面・内面：呉須により施文	中国清朝　18 世紀末～19 世紀　口径（9.5）cm
140		3 b	青磁		胴部	釉調：2.5GY7/1 明オリーブ灰色を帯びる半透明釉，磁胎：明灰白色	1	白色粒	内外面に施文，内面は呉須による	肥前焼
141		3 b	青磁	碗	底部	釉調：7.5Y5/2 灰オリーブ色，高台無釉部分：2.5YR6/3 にぶい橙色，磁胎：N7/ 灰白色	1	白色粒	高台畳付け部の一部と高台天井部：無釉，内面：施文	
142		3 b	白磁	碗	底部	釉調：緑を帯びた透明釉，磁胎：10Y7/1 灰白色	1	ウンモ？，白色粒	底面：無釉	底径 8.0cm
143		3 b	陶器	碗	底部	釉調：2.5Y8/1 灰白色不透明釉，胎土：5Y8/1 灰白色	1	白色粒	高台付近：無釉	関西系　底径 3.7cm
144		3 b	土師器		口縁部	5YR7/4 にぶい橙色	1	ウンモ，赤色粒	ナデ	
145		3 b	土師器	碗	底部	10YR7/4 にぶい黄橙色	2	ウンモ，赤色粒，黒色粒	回転ナデ	
146		3b	土師器	杯か皿	底部	10YR8/1 灰白色	2	ウンモ，角閃石，赤色粒	摩滅のため不明	古代以降
147		3 b	古墳	甕	底部	2.5Y7/1 灰白色，脚台内面：5YR6/4 にぶい橙色	4	石英，角閃石，軽石，白色粒，赤色粒，	外面：摩滅のため不明，内面・脚台内面：板状の工具による調整のちナデ	脚径（9.0）cm
148		3 b	古墳	甕	底部	7.5YR7/4 にぶい橙色	4	石英，白色粒，軽石，黒色粒	摩滅のため不明	
149		3 b	古墳？	壺	底部	外面：10YR8/2 灰白色，内面：鉄分付着のため不明	4	石英，角閃石，白色粒，黒色粒	外面：ナデ，内面：不明	
150		3 b	古墳	高杯	脚部	外面：10R4/6 赤色，胎土：2.5Y8/3 浅黄色	2	石英，赤色粒	外面：ミガキ	外面：赤色顔料塗布
151		3 b	古墳	高杯	脚部	外面：10R5/6 赤色，内面：鉄分付着のため不明，一部黒灰色（黒斑）	2	ウンモ，軽石，角閃石，白色粒	外面：ミガキ，内面：ハケのちナデ	外面：赤色顔料塗布
152		3 b	弥生	壺	胴部	外面：10YR8/3 浅黄橙色，一部黒斑のため黒灰色，内面：10YR7/1 灰白色	3	石英，軽石，赤褐色粒	外面：ハケのちナデのち沈線による施文，内面：ハケのちナデ	免田式
153		3 b	弥生	甕	口縁部	2.5Y4/2 暗灰黄色	4	ウンモ，軽石，灰色粒	ヨコナデ？	山之口Ⅱ式
154		3 b	弥生	甕	口縁部	2.5Y7/2 灰黄色	2	石英，角閃石，白色粒	ナデ	黒髪式系
155		3 b	弥生	壺	口縁部	10 Y R 7/2 にぶい黄橙，ほとんど鉄分付着のため不明	2	石英，白色粒，赤色粒，黒色粒	頸部：ハケ，口縁部：ヨコナデ	黒髪式系，口径（20.6）cm
156		3 b	素焼	土錘		5YR6/3 にぶい橙色	2	石英，白色粒，赤色粒	ナデ	長さ 5.2cm，幅 2.5cm，重さ 25.4 g，表面に擦過痕あり
157		3 b	素焼	土錘		5 YR6/6 橙色を基調とする，一部，黒灰色	2	石英，白色粒，赤色粒	ナデ	長さ 5.98cm，幅 1.5cm，重さ 5.95 g，表面に擦過痕あり
159		4a	陶器	皿	口縁部	釉調：2.5YR6/2，不透明，胎土：10YR8/2 灰白色	1		内外面：施釉	加治木焙良系
160		2a・4a	陶器	土瓶	胴部	釉調：緑味を帯びた 5 Y 7/2 灰白色，不透明釉，内面・胎土：7.5 Y R 4/1 褐灰色	1	白色粒	内面：回転ナデ	琉球焼，19 世紀以降
161		4a	土師器	碗	底部	不明	2	白色粒	ヨコナデ	表面：鉄分付着

Tab. 5　遺物観察表（5）

番号	区	層	種別	器種	部位	色調（釉調）	砂粒の多さ	胎土	調整	備考
162		4a	須恵器		底部	N6/ 灰色	1	白色粒	底面：ケズリ，内外面：ナデ	
163		4a	古墳	甕	口縁部	外面:2.5 Y 7/3 浅黄色～黒灰色（黒斑），内面：10 Y R 7/2 にぶい黄橙色	4	石英，灰色粒，赤色粒	ハケのちナデ	
164		4a	古墳	甕	底部	外面：10YR7/3 にぶい黄橙色，内面：5 Y R 6/6 橙色	3	石英，白色粒	横方向のナデ	
165		4a	古墳	高杯	脚部	外面：10R4/6 赤色，内面：10YR7/4 にぶい黄橙色	2	灰色粒，赤色粒，白色粒	外面：横方向のミガキ，内面：ナデ	外面：赤色顔料塗布
166		4a	弥生か古墳	壺	底部	10YR6/6 明黄褐色	2	石英，黒色粒	外面：ナデ，内面ハケのちナデ	
167		4a	縄文	浅鉢	口縁部～胴部	外面：10 Y R 7/2 にぶい黄橙色～黒色，内面：黒色	2	白色粒	横方向のミガキ	縄文時代晩期，外面：横1条の沈線文
168		4a	縄文	深鉢	口縁部	外面:7.5YR3/1 黒褐色，内面:7.5YR4/1 褐灰色	3	石英、白色粒	外面：横方向のナデ，内面：ミガキ状の丁寧なナデ，一部ミガキ	縄文晩期，刻目突帯文
169		4a	縄文	深鉢	口縁部	5 Y4/1 灰色～黒色	4	石英，白色粒，礫	外面：横方向のナデ，内面：摩滅のため不明	縄文晩期，孔列文あり
170		4 b	土師器	杯	口縁部～底部	外面：7.5YR7/4 にぶい橙色，内面：10YR7/4 にぶい黄橙色	3	石英，角閃石，白色粒，赤色粒	回転ナデ	古代
171		4 b	土師器	甕	口縁部	外面一部：5 YR7/6 橙色，他：10YR8/2 灰白色	3	石英，角閃石，赤色粒	ヨコナデ	
172		4 b	古墳	甕	口縁部	外面：10YR8/3 浅黄橙色，内面：鉄分付着のため不明	2	石英，角閃石，白色粒，赤色粒	ハケのちナデ	笹貫式
173		4 b	古墳	甕	口縁部	10YR8/4 浅黄橙色	3	石英，白色粒，灰色粒	ヨコナデ，絡縄突帯	辻堂原式？
174		4 b	古墳	甕	口縁部	外面：（スス付着のため）10 Y R 4/2 灰黄褐色～黒色，内面：7.5 Y R 7/6 橙色	2	石英，赤色粒，黒色粒	外面：ハケのちナデ，内面：ハケのち丁寧なナデ，ハケ具による刻み	辻堂原式？
175		4 b	弥生	壺	口縁部	10YR6/3 にぶい黄橙色	4	石英，赤色粒，カクセン石，白色粒	ハケのちナデ	口径（23.8）cm
176		4 b	弥生か古墳		胴部	7.5YR7/4 にぶい橙色，外面一部に黒斑 N3/ 暗灰色	2	石英，白色粒，黒色粒，赤色粒	ハケのちナデ，刻目はハケ工具による	
177		4 b	古墳	高杯	口縁部	外面：2.5YR5/6 明赤褐色，内面：10YR6/1 褐灰色	2	石英，軽石	外面：横方向のミガキ，内面：ナデ	外面：赤色顔料塗布
178		4 b	古墳	高杯	口縁部	外面：2.5YR5/6 明赤褐色，内面：7.5YR7/6 橙色・2.5Y6/2 灰黄色	2	石英，白色粒，赤色粒	外面：横方向の細かいミガキ，内面：ハケのちナデ	外面：赤色顔料塗布
179		4	古墳	高杯	口縁部	外面：10Y4/6 赤色（赤色顔料，ほとんど剥げている），内面：7.5YR7/6 橙色	2	角閃石，ウンモ，白色粒，赤色粒	外面：ミガキ，内面鉄分付着のため不明	外面：赤色顔料塗布
180		4 b	古墳	高杯	杯部	外面：10R5/6 赤色，内面：7.5YR7/6 橙色	2	石英，角閃石，軽石	外面：横方向のミガキ，内面：ナデ	外面：赤色顔料塗布，杯部口縁部接合部にて欠損
181		4 b	古墳	高杯	杯部	外面：5YR5/6 ～ 5/8 明赤褐色，内面：10YR6/3 にぶい黄橙	3	石英，角閃石，軽石，白色粒，赤色粒	ハケのちナデ	口径(25.6)cm，一部焼けムラあり
182		4 b	弥生	壺	口縁部～肩部	外面：不明，内面：7.5YR5/3 にぶい褐色	2	石英，白色粒，赤色粒	縦方向のハケのち横方向の工具によるナデ	弥生時代後期，外来系か，口径（10.0）cm
183		4 b	弥生	壺	口縁部	外面：10YR6/3 にぶい黄橙色，内面：7.5YR5/3	4	石英、角閃石、白色粒	ヨコナデ	外来系か？
184		4 b	弥生か古墳		胴部	外面：2.5Y3/1 黒褐色，内面：2.5YR5/3 にぶい褐色	2	石英，白色粒，赤色粒	ナデ，刻目はハケ状工具による	
185		4 b	縄文	深鉢	口縁部	外面：黒色，内面：7.5 Y R 5/3 にぶい褐色	4	石英、白色粒，灰色粒	ヨコナデ	突帯文土器，孔列文あり
186		4 b	縄文	深鉢	口縁部	外面:10Yr5/2 灰黄橙色，内面:2.5Y6/2 灰黄色	3	石英，角閃石，白色粒，黒色粒	横方向のミガキ	

Tab. 6　遺物観察表（6）

番号	区	層	種別	器種	大きさ（cm）	重さ（g）	備考
45		カクラン	古銭	熙寧元寶	2.35 × 2.4 × 0.1	2.86	
75		2a	石器	砥石			頁岩
114		2b	石			3.58	黒曜石
158		3b	古銭	寛永通宝	2.5 × 2.5 × 0.1	2.5	
187		4b	石器	石斧		180	砂岩

Tab. 7　遺物出土数一覧（1）

時代	種別	時期	種別	器種	表採	カクラン	2a 層	SK1	SD6	SD7	2b 層	3 層	3a 層	3b 層	SK2	SK9	SK10	SD1	SD2	SD3	SD10	SD11
縄文	土器	縄文晩期		浅鉢																		
縄文	土器	縄文晩期		深鉢																		
縄文	土器	縄文晩期		不明																		
縄文	土器			不明								1										
弥生	土器	中期	黒髪式	甕										1								
弥生	土器	中期	黒髪式系	壺										1								
弥生	土器	中期	山ノ口式	甕										1								
弥生	土器	弥生中期		甕											1							
弥生	土器	弥生後期		壺																		
弥生	土器	弥生後期～終末		壺								1										
弥生	土器	後期～終末	免田式	壺										1								
弥生	土器		瀬戸内系	壺													1					
弥生	土器		中津野式	甕																		
弥生？	土器			甕	1																	
弥生？	土器			壺								1										
弥生終末～古墳	土器			甕																		
弥生終末～古墳	土器			壺												1						
古墳	土器		東原式	甕																		
古墳	土器		笹貫式	甕												1						
古墳	土器		成川式	壺		2					2			2								
古墳	土器		成川式	鉢 ？																		
古墳	土器		成川式	高坏	1	4					3	5		4		2						
古墳	土器		成川式	坩			1				1	1		1								
古墳	土器		成川式	甕か鉢							1											
古墳	土器		成川式	高坏か鉢							1											
古墳	土器		成川式	高坏か坩			6		3		12	5	1	13								
古墳	土器		成川式	不明			1				1											
弥生～古墳	土器			甕								4		2								
弥生～古墳	土器		土器	壺					1		1											
弥生～古墳	土器		土器	高坏							1											
弥生～古墳	土器		土器	坩か壺																		
弥生～古墳	土器		土器	鉢 ？		1																
弥生～古墳	土器		土器	格縄突帯							3	1		3				1				
弥生～古墳	土器		土器	幅広突帯							1	1										
弥生～古墳	土器		土器	三角突帯							1											
弥生～古墳	土器		土器	刻目突帯			1				2	3										
弥生～古墳	土器		土器	不明突帯			2				2	6		5						1		
弥生～古墳	土器		土器	不明	5	13	104	1	4	7	371	260	15	170	2	9	1	1		1	1	1
古墳か古代	土器		土器	甑							1											
古墳以降	須恵器			杯蓋							1	1										
古墳以降	須恵器			杯							1							1				
古墳以降	須恵器			ハソウ								1										
古墳以降	須恵器			横瓶 ？		1																
古墳以降	須恵器			器種不明			2				5	4										
古代	土師器	古代		甕								1										
古代	土師器			杯							6	4		2						1		
古代	土師器			碗							1	1		1								
古代	土師器			皿							1											
古代	土師器			器種不明							1											
古代以降	土師器			杯			2				1	2		3								
古代以降	土師器			碗								2										
古代以降	土師器			器種不明		1	9				41	47	4	15					1	1		
古代以降	土錘										1	1		2								
近世か	泥面子						1															
石器				石斧																		
石器				砥石			1															
石				黒曜石							1											
中世	青磁			碗							6	3	5									
中世	青磁			皿								1										
中世	青磁			鉢								1										
中世	青磁			器種不明			1				2	2										
中世	白磁			碗			2															
中世	備前焼			擂鉢			1															
中世	瓦器			器種不明			1															
中世	古銭			熙寧元寶		1																
近世	古銭			寛永通宝										1								
近世以降	陶器	苗代川焼	17C	壺？								1										
近世以降	陶器	苗代川焼	17C か？	甕							1											
近世以降	陶器	苗代川焼	17C か 18C	鉢									1									
近世以降	陶器	苗代川焼	18C ～ 19C	壺？							1											
近世以降	陶器	苗代川焼	18C ～ 19C	擂鉢			7				5											
近世以降	陶器	苗代川焼	18C 以降	甕			1				1											
近世以降	陶器	苗代川焼	18C 後半以降	土瓶			6				8											
近世以降	陶器	苗代川焼	19C	擂鉢							1											
近世以降	陶器	苗代川焼	19C	鉢か擂鉢							1											

SD13	SD16	SD17	4層	4a層	4b層	SK4	SK5	SK11	SK12	SK13	SK14	SK16	P 1～8	SD19	合計
				1											1
				4	2		1								7
								1							1
													1		2
															1
															1
															1
				1	1										3
					2										2
															1
															1
					1										2
					1					1					2
				1											2
					2										3
					1										1
															1
										1					1
					2									1	4
				1							1				8
				1											1
			1	12	22					5	12				71
				2	6					1	1			2	16
				7											8
															1
				39	56						7		2	1	145
				7						3					12
					4					3				1	14
				6	7					3					18
															1
					1										1
															1
				11	5					1	1				26
				2	1										5
					1										2
					12					1					19
				3	4										23
1	1	1	3	250	371	4		13	1	37	45	1	6	23	1723
															1
															2
															2
															1
															1
															11
															1
					1										14
				1											4
															1
															1
															8
															2
				2	2										123
															4
															1
					1										1
															1
															1
					3										4
															14
															1
															1
															5
															2
															1
															1
															1
															1
															1
															1
															1
															12
															2
															14
															1

Tab. 8　遺物出土数一覧（2）

時代	種別	時期	種別	器種	表採	カクラン	2a 層	SK1	SD6	SD7	2 b 層	3 層	3a 層	3b 層	SK2	SK9	SK10	SD1	SD2	SD3	SD10	SD11
近世以降	陶器	苗代川焼	19C 以降	山茶家			1															
近世以降	陶器	苗代川焼	時代不明	鉢			1				1											
近世以降	陶器	苗代川焼か？	時代不明	擂鉢			4				1											
近世以降	陶器	苗代川焼か？	時代不明	壺			1															
近世以降	陶器	苗代川焼か？	時代不明	土瓶		1					3											
近世以降	陶器	苗代川焼か？	時代不明	器種不明	1	1	17		1		17		1									
近世以降	陶器	加治木姶良系	元伽院 18C	碗			1			1	3											
近世以降	陶器	加治木姶良系	元伽院 18C	小皿		1					3											
近世以降	陶器	加治木姶良系か？	時期不明	皿																		
近世以降	陶器	加治木姶良系か？	時期不明	器種不明			2				4	1										
近世以降	陶器	加治木姶良系	時期不明	碗							1											
近世以降	陶器	加治木姶良系	18C 後半～ 19C	碗							1											
近世以降	陶器	加治木姶良系	18C 後半～ 19C	碗か皿か坏口縁部			6				4											
近世以降	陶器	薩摩司焼	18C 後半～ 19C	小杯か？仏飯具							1											
近世以降	陶器	薩摩司焼	19C	皿					1													
近世以降	陶器	薩摩司焼	19C	急須か？			2															
近世以降	陶器	薩摩司焼	19C 以降	土瓶																		
近世以降	陶器	薩摩司焼	19C 以降	水注か？			1															
近世以降	陶器	薩摩焼か？		落とし蓋			1															
近世以降	陶器	備前陶器	16C 末～ 17C 初	皿							1											
近世以降	陶器	肥前陶器か？		擂鉢			1															
近世以降	陶器	琉球焼		大壺			1															
近世以降	陶器	琉球焼		壺？			1				2											
近世以降	陶器	琉球焼か？		壺？			1				5											
近世以降	陶器	琉球焼か？		器種不明			1															
近世以降	陶器	関西系	19C か	不明							1											
近世以降	陶器	関西系		土鍋							1											
近世以降	陶器	関西系	時代不明	碗			1				1		1									
近世以降	陶器	不明陶器		鉢			1				1											
近世以降	陶器	不明陶器		小鉢							1											
近世以降	陶器	不明陶器		植木鉢		1																
近世以降	陶器	不明陶器		瓶			1															
近世以降	陶器	不明陶器		瓶か？			1				1											
近世以降	陶器	不明陶器		碗か皿か杯口縁部			4				3	1										
近世以降	陶器	不明陶器		急須か？							1											
近世以降	陶器	明治以降		器種不明	2	1	41				40	1		4								
近世以降	磁器	中国陶器		器種不明						1												
近世以降	磁器	中国陶器？		器種不明							3											
近世以降	磁器	薩摩磁器	18C 末～ 19C 初	碗			2				2											
近世以降	磁器	薩摩磁器	18C 末～ 19C 初	皿			1															
近世以降	磁器	波佐見焼	18C 位	碗			1				1											
近世以降	磁器	肥前焼		碗			1				1											
近世以降	磁器	肥前焼		半筒碗							1											
近世以降	磁器	肥前焼		後花皿							1											
近世以降	磁器	肥前焼		皿			2				3											
近世以降	磁器	肥前焼		器種不明			4				3											
近世以降	磁器	肥前焼？		碗									1									
近世以降	磁器	肥前焼？		小杯							1											
近世以降	磁器	肥前焼？		器種不明			1															
近世以降	磁器	肥前青磁染付		器種不明									1									
近世以降	磁器	中国清朝磁器	18C 末～ 19C	碗									1									
近世以降	磁器	中国か？		皿								1										
近世以降	磁器	中国か？		大皿か盤							1											
近世以降	磁器	中国か？		碗か皿							2											
近世以降	磁器	中国か？		碗か蓋？		1																
近世以降	磁器	近世か？		器種不明			1															
近世以降	磁器	近世以降		戸車			1															
近世以降	磁器	明治以降		大きな鉢		1																
近世以降	磁器	明治以降		碗		3	9				3	1										
近世以降	磁器	明治以降		杯			1															
近世以降	磁器	明治以降		小杯		1					2											
近世以降	磁器	明治以降		小壺			2															
近世以降	磁器	不明磁器		碗			2				5											
近世以降	磁器	不明磁器		碗？							1											
近世以降	磁器	不明磁器		皿			2				1											
近世以降	磁器	不明磁器		小杯			1				2											
近世以降	磁器	不明磁器		器種不明			1				1											
近世以降	磁器	不明磁器		鍾？							1											
近世以降	磁器	不明磁器		器種不明			5				8	1										
近世以降	素焼			鉢？									1									
近世以降	素焼			植木鉢		1																
近世以降	素焼			香炉？			1															
近世以降	素焼			土管		1																
近世以降	素焼			不明		6	2				4											
近世以降	鍛冶関連			流動滓							1	1		1								
近世以降	鍛冶関連			鞴			1					1										
近世以降	鍛冶関連			鞴 or 炉壁　？								1										
近代以降	瓦																					
近代以降	瓦　？																					
近代以降	ガラス						2					1										
				合計	10	42	283	1	10	9	635	372	32	233	3	13	2	3	1	5	1	1

SD13	SD16	SD17	4層	4a層	4b層	SK4	SK5	SK11	SK12	SK13	SK14	SK16	P 1～8	SD19	合計
															1
															1
															2
															5
															1
															4
															38
															5
															4
				1											1
															7
															1
															1
															10
															1
															1
															2
				1											1
															1
															1
															1
															1
															1
															3
															6
															1
															1
															1
															3
															2
															1
															1
															1
															2
															8
															1
															89
															1
				1											4
															4
															1
															2
															2
															1
															1
															5
															7
															1
															1
															1
															1
															1
															1
															1
															2
															1
															1
															1
															1
															16
															1
															3
															2
															7
															1
															3
															3
															2
															1
															14
															1
															1
															1
															1
															12
															3
															2
															1
				1											1
				1											1
															3
1	1	1	4	357	511	4	1	15	1	56	67	1	9	28	2712

8　まとめ

8.1　各層と遺構の時期について

本調査区では、基本層位として１～５層を設定したが、これらはほぼ整合的に堆積している。各層出土遺物の状況をみると、２層は近世以降、３層は中世、４層は古代～弥生時代の遺物が最新の時期の遺物として包含されている。本地点で確認した１～５層は、本遺跡の微高地の地点では典型的に見られる層位であり、包含されている遺物の時期もおおよそ一致している。

遺構出土遺物の傾向をみても、基本層位の時期と矛盾はない。したがって、遺構出土遺物は少ないが、２b層上面検出遺構は近世以降、４層上面検出遺構は中世、５層上面検出遺構は古代から弥生時代のものである可能性が高い。

8.2　遺構の性格について

本調査区周辺の過去の発掘調査成果をみると、類似する遺構が確認されている[2)]。これらを総合して、本調査区検出の遺構の性格について述べてみたい。

2b層上面検出遺構

SD6は底面に連続した窪みを持ち、その底部には凝灰岩の礫が置かれている部分もあるが、同様な遺構は92-2調査でも検出されている（Fig.35上）。これらを合わせると、延長線上に遺構が位置し、同一の遺構である可能性が高い。

92-2では、新旧の層から並行する同様の溝が５条確認されており、何度か作り直したものと考えられる。

４層上面検出遺構

本調査区周辺からは確認されていないが、溝状遺構と耕作痕で構成されており、中世の水田跡か畑地跡であったと推定される。３層が非常に薄く、溝状遺構が水路なのか畝間溝かは不明だが、耕作痕には３層土が埋土として入っているものが多く、３層土が耕作されたものと思われる。

５層上面検出遺構

住居跡と溝状遺構・ピット群が検出されたが、それぞれ切りあう部分もあり、遺構間に時期差が認められる。ピット群は92-2・93-4の調査でも確認されており（Fig.35下）、ピットの特徴や配列が杭列１・２に類似するものも確認されている。ピットの断面形も類似することから、これらはほぼ同時期であると推定される。93-4の調査では、ピット群と溝状遺構が検出されており、SD19・20との関連がうかがえる。SD19からは笹貫式土器が出土しており、出土遺物からすると住居跡出土遺物より新しい時期になる。SD20はSK11に切られているが、SD20は非常に浅く、埋土がSK11の埋土①に類似することから、切りあい関係が逆であった可能性もあり、時期決定に注意を要するものである。

これらの遺構の時期が決定できる遺物は少ないが、SD19出土遺物から笹貫式が、遺構埋土となっている直上の層からは古代土師器が最新の遺物として出土しており、古墳時代後期から古代まで含めた時期を想定したい。

本調査区はFig. ２の住居跡エリアⅣにあたり、このエリアで竪穴住居跡が検出されたのは、本調査区のみである。他の古墳時代の住居跡群から離れておりまた、遺構数が少ないことが他のエリアとは異なる点である。さらに、他のエリアの住居跡は笹貫式の時期が中心となっているのに対し、本調査区では東原式～笹貫式、包含層出土の古墳時代土器の量から見ると東原式から辻堂原式古段階の遺物が主体となっている。

住居跡は平面形が方形を呈する竪穴住居だが、一辺が2.6～3.2mである。本遺跡で確認された笹貫式の時期の住居跡の平均的な大きさは一辺４ｍであり、それと比べると小型である。主柱穴が１本ないし２本というのも小型の住居跡であることを示唆している。遺構数が少ないことに加えて、遺構の機能についても注意する必要がある。確認された竪穴住居跡４基に時期差があることから、同一時期に存在していた住居は１基か２基であったと推定される。隣接する92-2や93-4の調査ではその時期の遺構が確認されていないが、同時期の遺物は包含層中より多く出土しており、中でも弥生時代終末期～古墳時代中期のものが多い傾向にある。

したがって、エリアⅣはこの時期を中心とする居住域であったと思われるが、遺構が少ないことや遺構が重なっていないことから、居住域の周縁部であったと推定する。

註

２）大西智和 1995「付編Ⅰ　郡元団地 P-4・5 区（音楽美術棟）における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅸ・Ⅹ』59-129 頁　鹿児島大学埋蔵文化財調査室

中村直子 1997「付編Ⅰ　郡元団地 P-5 区（教育学部教育実践研究指導センター建設地）における発掘調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 11』45-160 頁　鹿児島大学埋蔵文化財調査室

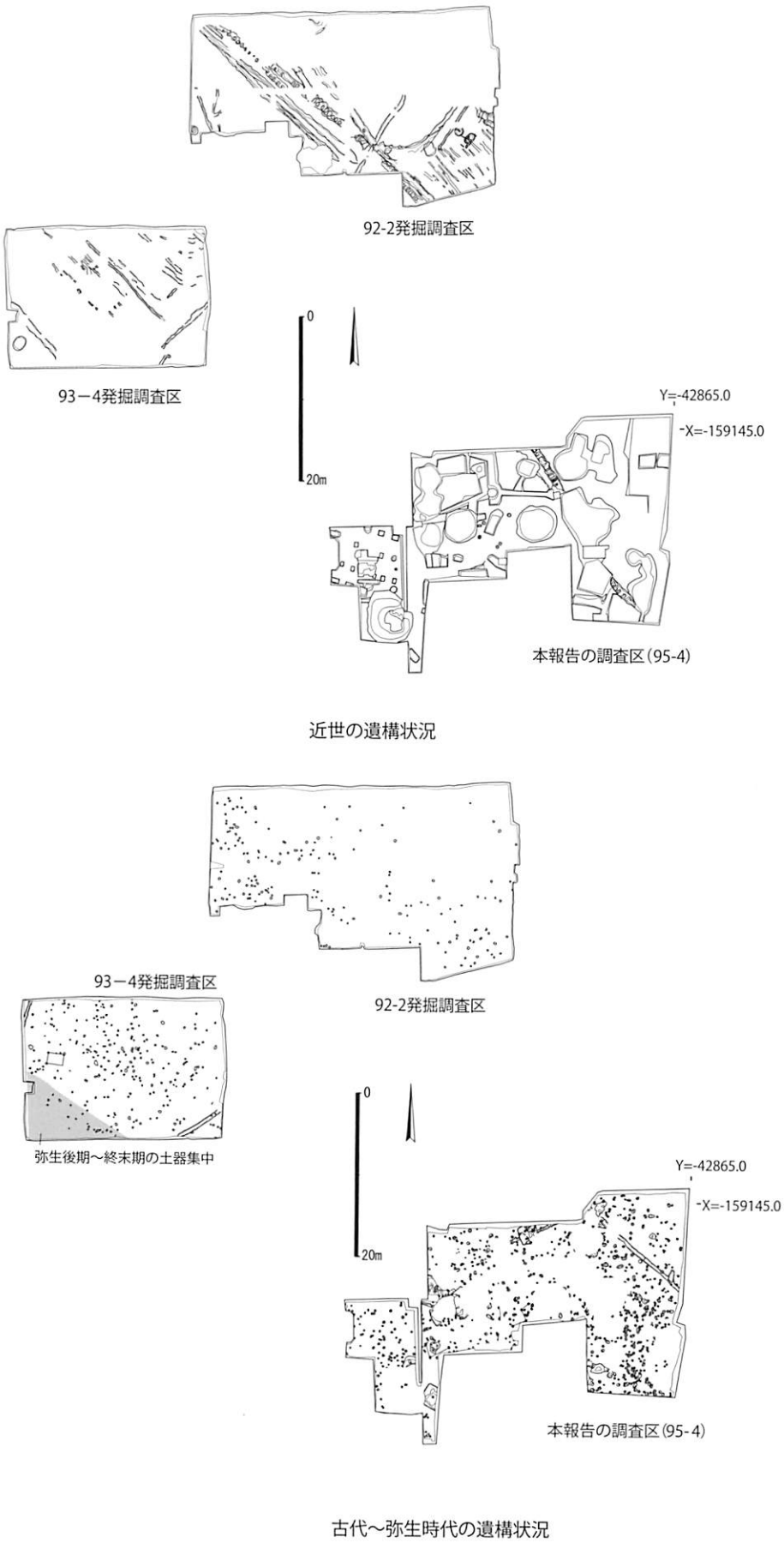


Fig.35　周辺の発掘調査を含めた遺構配置　S=1/800

鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書　第４集

鹿児島大学構内遺跡郡元団地 Q-4 区

2009 年 3 月発行

編集・発行　鹿児島大学埋蔵文化財調査室
鹿児島市郡元一丁目２１－２４
TEL　099-285-7270

印刷所　斯文堂株式会社